平成 27(2015)年度 自己点検·評価報告書

秋田看護福祉大学

# 目 次

第1章 使命・目的等	1
1. 建学の精神・教育理念	1
2. 秋田看護福祉大学の使命・目的	2
3. 個性・特色	4
第2章 学修と教授	6
1. 学生の受入れ	6
(1)アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)	6
(2) 入学選抜方法(平成 27 年度)	6
(3)入試区分別 求める学生像	8
(4) 志願者・入学者の状況	10
(5) 平成 27 年度「新入生に対する本学へのイメージ調査」結果	14
2. 教育課程および教授方法	17
(1) 教育目標	17
(2)カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)	18
(3) カリキュラム	19
(4)保健師科目および助産師科目の履修	31
(5) 履修登録上限単位数と履修登録指導	31
(6)授業方法の工夫・開発	32
3. 学修および授業の支援	33
(1)高大接続	33
A 高大連携授業	33
B 高校への出張講義	37
C オープンキャンパス模擬授業	39
D 入学前教育	40
(2)入学後の学修支援体制	44
4. 単位認定・進級要件・実習履修要件	46
(1)成績評価と単位認定	46
(2) 進級要件	46
(3) 実習履修要件	46
(4)卒業試験・卒業率	46
(5) 卒業要件単位数	46

(6)	ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	47
5. 就職	缴支援	49
(1)	就職ガイダンス	50
(2)	就職支援活動	51
(3)	合同就職面談会における病院関係者へのアンケート結果	51
(4)	働くことの意識づけ、職業観の確立のために行っていること	53
(5)	就職・進学先	53
6 教育	背目的の達成状況の評価とフィードバック	56
	大学満足度調査	
	授業に関する学生アンケート	
· - <i>·</i>		
7. 学生	<u> </u>	67
(1)	学生相談	67
	保健室	
	学生会・クラブ・サークル活動	
	学生の意見・要望の把握	
	保護者懇談会	
	ボランティア活動	
	国家試験対策	
(8)	奨学金制度	72
8. 教員	員の配置・職能開発	75
(1)	教員の確保と配置	75
(2)	ファカルティ·ディベロップメント (FD) 推進活動	75
9. 教育	育環境の整備	78
	····································	
	M属施設	
	実習施設	
第3章	経営・管理と財務	84
1 経覚	きの規律と誠実性	84
- · /EEF	- 778   1 C WY / C   12	
2. 理事	事会の機能	86
3. 大等	学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ	87
4. = 3	ミュニケーションとガバナンス	93

5. 美	業務執行体制の機能性	95
6. 具	財務基盤と収支	98
7. 会	会計	100
第4	章 自己点検・評価	102
1.	自己点検・評価委員会	102
( 1	1) 秋田看護福祉大学自己点検及び自己評価規定	102
(2	2)平成 27 年度自己点検・評価委員会の構成	104
( 3	3)平成 27 年度自己点検・評価委員会の活動	104
2. 🗓	平成 27 年度「卒業時大学満足度調査」	106
第 5	章 地域社会への貢献	125
1. 均	地域の委員会・講演会等への教員等の派遣	
( 1	1) 委員会	125
(2	2)講演・講義	126
( 3	3)見学等の受入れ	127
2. 7	大学公開講座	127
3.	学生と共に! ピアカウンセリング活動	128
<b>4</b> . 🖯	大館市消防団 機能別消防団	131
5. (	ひらめきときめきサイエンス事業	132

# 第1章 使命•目的等

# 1. 建学の精神・教育理念

# 建学の精神 「真理・調和・実学」

秋田看護福祉大学(以下「本学」)は学校法人ノースアジア大学(以下「本法人」)が設置者であり、本学の建学の精神は前身の秋田桂城短期大学から、本法人の建学の精神「真理・調和・実学」を受け継いでいる。

「学校法人ノースアジア大学寄附行為」第4条には「この法人は、教育基本法及び学校教育法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、真理、調和、実学を教育理念とし、教育及び保育事業を行うことを目的として次の学校を設置する。(2) 秋田看護福祉大学看護福祉学部 看護学科、福祉学科」と明記されている。

かつて、秋田県には、私立の高等教育機関が存在しなかった。このような社会文化の土壌の中で、地域に役立つ人材の養成を目的とする高等教育機関樹立の要望が湧き上がり、その結果、本学園が設立され、建学の精神文化の礎が積み上げられてきた。言い換えれば、地域の土壌に根ざし、真に愛される学園として、地域の実情に適合しながら産業・経済の発展と文化の向上に寄与してきたのである。本学園の原点は、真理を学び、これを基にした、地域ひいては世界の発展に貢献できる人材の育成にある。それは、実社会に役立つ学問を身につけ、人として調和のとれた優れた人材の養成を志向するところであり、学園の存在の意義と目標はこのような目的に向かって常に成長していくところにある。

現在、日本は世界で類をみない超高齢社会の中にあり、国際社会から注目されている。 福祉国家としてのあるべき姿を求め、それに寄与する人材を養成することが本学の使命で あることは、秋田桂城短期大学の開学後 20 年が経過しても変わりはない。

平成 21(2009)年、社会福祉学科は精神保健福祉士の養成を加え、福祉学科と改称した。 それにより、本学は看護師・保健師・助産師・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士 を養成し、医療・保健・福祉領域の人材を育成している。

本学の基本理念である建学の精神を本学の使命・目的および教育目標に照らすと、次のように説明できる。

- 「真理」の探究を教育研究の根本理念とすると共に、人間としてのあり方、保健・医療・ 福祉専門職としてのあり方を求める態度を養うことを教育研究活動の基本理念と する。
- 「調和」は社会に生きる基本である。本学は知性と人間性の調和、知識と技術の調和、人 と人との調和がとれた専門職を育成することを目標にしている。すなわち、教養・ 専門知識・技術・コミュニケーション能力を身につけ、社会人として、異世代や 異職種の人たちとの相互理解や融和を図り、人を大切にする「調和を尊ぶ精神」 を持った人材を育成する。
- 「実学」は実践的・科学的実用の学問を意味する。本学は保健・医療・福祉の科学的・実践的研究を行い、専門知識と技術を科学的に、実践的に教授し、社会に役立つ人材を育成する。

秋田看護福祉大学は平成 17年(2005)年 4月、秋田県大館市に看護福祉学部の 1 学部に 2 学科 (看護学科、社会福祉学科)を持つ大学として開設された。その前身は地域社会学科、看護学科、人間福祉学科を有する秋田桂城短期大学である。秋田桂城短期大学は秋田県から求められていた看護・介護の人材育成の要望と大館市を中心とした「秋田桂城短期大学支援協議会」の支援により、地域づくりや地域産業の担い手の養成を実践するため、秋田県北初の高等教育機関として平成 8(1996)年に創設された。その後、全国的に拡がった大学教育による看護師養成の高まりと「秋田看護福祉大学支援協議会」(大館市、鹿角市、北秋田市、小坂町、上小阿仁村)を中心とする地域の人々に支えられて秋田看護福祉大学が設立された。本学は建学の精神である「実学」への取組みをさらに強化し、地域社会の発展への貢献を教育研究の目標として保健・医療・福祉領域の人材を育成することを目的としており、設置者は学校法人秋田経済法科大学(現・学校法人ノースアジア大学)である。

本学の沿革は次のとおりである。

71·1 · 3 旧十 (8 )( 1 ) (	_ , , ,		
	秋田看護福祉大学沿革		
平成 7 (1995)	年	12 月	秋田桂城短期大学設置認可
平成 8 (1996)	年	3 月	校舎竣工
平成 8 (1996)	年	4 月	大館市に秋田桂城短期大学開学
			(地域社会学科・看護学科・人間福祉学科)
平成 9 (1997)	年	4月	学歌制定
平成 16(2004)	年	11 月	秋田看護福祉大学設置認可
平成 17(2005)	年	4月	秋田看護福祉大学開学
			(看護福祉学部 看護学科・社会福祉学科)
平成 21(2009)	年	4 月	社会福祉学科を福祉学科に名称変更

(学校法人ノースアジア大学寄附行為、学校法人ノースアジア大学ホームページ、 ノースアジア大学ホームページ、秋田看護福祉大学ホームページ、秋田看護福祉大学 大学案内)

#### 2. 秋田看護福祉大学の使命・目的

本学の建学の精神・教育理念に基づく使命・目的は「秋田看護福祉大学学則」第1条に 次のように明示されている。

#### 秋田看護福祉大学の使命・目的

「秋田看護福祉大学は、教育基本法に則り、幅広い教養教育との密接な関連のもとに、保健・医療・福祉領域における奥深い専門教育を教授し、豊かな人間性と知性、高度な専門知識と技術をもって社会に貢献できる人材を養成するとともに、独創的で実際的な研究活動を行い、その研究成果を還元することにより、地域社会や国際社会の発展に寄与することを目的とする。」 (秋田看護福祉大学学則第1条)

わが国の少子高齢化を支える「保健・医療・福祉」を担う人材の確保と質の向上はます ます重要度を増すことが予測される。日本の未来を支える人材の育成の場として、本学の 役割と責任は大きい。 このような使命・目的を達成するため、本学は養成を目指す人材像を具体的に次のよう に掲げている。

#### 【看護学科】

- 1)幅広い教養を身につけ、人権や生命の尊厳への深い理解と豊かな人間性を有する人材。
- 2) 看護の専門知識と技術を学び、科学的な根拠に基づいた適切な判断能力と問題 解決能力を有する人材。
- 3) 医療を支える優れたケアを提供するための最善の仕組みを創造し、高齢化に即 した看護を実践する能力を有する人材。
- 4) 社会の変化に柔軟に対応し、看護職者として、保健・医療・福祉サービスのマネジメント能力を有する人材。
- 5) 急速に進展する医学・医療に即応できる判断能力、応用能力、自己啓発能力を 有する人材。
- 6) 地域の健康問題とその影響因子を的確に把握し、個人・家族・集団のニーズに 合った適切な指導や援助を実践できる人材。
- 7) 女性の健康問題や妊娠・分娩・産褥期の母子の状況を的確に把握し、適切な看護と助産を実践できる人材。
- 8)他の職域スタッフと連携を図りながら、増大・複雑化する保健・医療・福祉の ニーズに対応した包括的サービスを実践できる人材。
- 9) 国際保健の分野で活躍できる人材。
- 10) 率先して地域にとけ込み、健康問題に対する住民教育を実践し、ヘルスケア・ チームにおける指導的能力を発揮できる人材。

#### 【福祉学科】

- 1) 社会福祉の理念に則り、常に対象者の QOL (Quality of Life) に配慮し、自立を支援できる人材。
- 2) 社会福祉の担い手として、高度な社会福祉の専門知識と技術を身につけ、情報 化・国際化に対応できる人材。
- 3) 幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、かつ、様々な個性を持つ対象者に適切に 対応できる判断能力と応用能力を有する人材。
- 4) 対人援助専門職者として、常に自らを成長させる向上心と探究心を持ち続ける 人材。
- 5) どのような状況下にあっても、対象者一人ひとりの考えや気持ち、立場に配慮 し、対象者の意思を尊重した適切な福祉サービスを提供できる人材。
- 6) 対人援助専門職者として、社会福祉の理念や知識、技術を持ち、さらには心理 学の知識と技術を併せ持つ人材。
- 7)他の職域スタッフと連携を図りながら、増大・複雑化する保健・医療・福祉の ニーズに対応した包括的サービスを実践できる人材。

本学および本学の前身である秋田桂城短期大学は高齢化が著しい秋田県北における看護職・福祉職の人材を養成するために設立された。本学のカリキュラム・ポリシーには「豊かな人間性と知性を持ち、思いやりと人を大切にする心を持つ看護職・福祉職の人材育成」と謳われている。それは「"ひと"に関わる」職業人を養成する本学としての教育方針である。少子高齢化は高齢化に伴う必要な人材が少子化により減少するという現象を生み出しているが、本学は社会に必要な人材の育成に誠意を持って邁進している。

(秋田看護福祉大学学則、秋田看護福祉大学学生便覧、秋田看護福祉大学ホームページ、 秋田看護福祉大学大学案内)

#### 3. 個性・特色

平成 25 年度に法人が策定した大学の使命・目的及び教育目的を踏まえた「学校法人ノースアジア大学 5 か年重点計画」の中で、法人の将来計画を軸とした本学の中期計画を定めている。この計画に則り本学では、建学の精神を基盤としながら、保健・医療・福祉領域における専門教育や独創的で専門的な研究活動により、地域社会や国際社会の発展に寄与することを見据えている。これらを踏まえて本学の個性・特色は以下のように表すことができる。

# 秋田看護福祉大学の個性・特色

- ① 実践型カリキュラムによる少人数教育
- ② 充実した学修支援とキャリアサポート
- ③ 学生と教員が共に参加する地域社会への貢献

本学は小規模大学のメリットを生かし、1年次から少人数教育に取り組んでいる。授業のクラス人数のみではなく、一人ひとりの学生に目の行き届いた指導を実践し、教員と学生の密接な関係をつくり、"ひと"を大切にする少人数教育である。この精神は、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)である「学生が卒業後も人を大切にする"こころ"(調和の精神)を持って仕事に励み、人生を生きていく社会人になる」ことに繋がる。

本学のカリキュラムは看護師・保健師・助産師国家試験受験資格(看護学科)、介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格(福祉学科)という6つの国家試験受験資格を得ることができるように構成されている。そのため、これらの職業に共通するコミュニケーション能力の教育を重視し、知識と技術が調和し、倫理観に裏付けられた実践力のある学生を育てることを目標に、地域の保健・医療・福祉に携わる方々の協力を得てこれらの人材の育成を行っている。

また、本学は開学以来、「Face to Face」をキーワードに、クラス担任や看護研究・ゼミナール指導教員が中心となって、学生一人ひとりの適性や能力を的確に把握してきめ細かい充実した学修支援と進路指導を行っている。

本学は資格を得ることのできるカリキュラムによる「実学」教育を行っている。また、これらの職業は"ひと"との関わりの濃い仕事であり、「調和」の精神と「まこと」(真理)を追求する精神は職業人としての基本であり、本学の教育方針である。

本学の地域貢献事業は学生と教職員が共に手を携えて行なっている。また、近隣の自治体からの強い要請がその始まりであることに特徴がある。これらの活動に参加することに

より、学生は社会の中で学ぶことも多く、教育効果も高い。

(秋田看護福祉大学大学案内、秋田看護福祉大学ホームページ、学校法人ノースアジア大学5か年重点計画)

#### 「改善・向上方策 (将来計画)]

本学の使命・目的は学則第1条に明記しているとおり、教育基本法に則り、幅広い教養教育との密接な関連のもとに、保健・医療・福祉領域における専門教育を行うものである。 資格を得るため、学生はかなりハードなカリキュラムをこなさなければならない。そのため、教養科目数はある程度制限される。そのことを考慮し、教養科目として、保健・医療・福祉職に必要な科目を厳選して配置している。

本学の個性・特色は実践型カリキュラムによる少人数教育を行い、一人ひとりの適性や能力を的確に把握してきめ細かいキャリアサポートによる人材育成であり、そのことによって地域に貢献する大学である。この個性・特色を維持し、さらに浸透させ、"ひと"を大切にする看護と福祉の人材を今後も育成する。それと同時に、18歳人口が減少し、学生の多様化が進む中、福祉分野の学習を基本として、専門職の取得にこだわらずに周辺領域の幅広い分野を学び、福祉分野を支援する公務員や一般企業で活躍できる人材の育成を視野に入れたコースを平成 28 年 4 月より開設する。

大学内外への本学の使命・目的の周知として、ホームページはもちろん、高校訪問、入 学式、卒業式、カリキュラム説明会、オープンキャンパス、保護者説明会など、あらゆる 機会をとらえて今後も説明していく。

# Ⅱ. 学修と教授

### 1. 学生の受入れ

本学は次に示すアドミッション・ポリシーに基づき、入学試験を行っている。

#### (1) アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

#### <看護福祉学部>

秋田看護福祉大学看護福祉学部は、次のような人の入学を求めます。

- ・人権や生命への尊厳の気持ちを持った人
- ・他者に対する思いやりの気持ちを持った人
- ・自らの責任において、主体的に学習しようという意欲を持った人
- ・周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調性を持った人

#### <看護学科>

- ・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の回復と維持に貢献したいという 意欲を持った人
- ・常に向上心を持ち、時代の変化に対応できる柔軟な思考力を持った人
- ・地域社会や国際社会に貢献する気持ちを持った人
- ・他の人と協力して健康・医療サービスを提供したいと思っている人

#### <福祉学科>

- ・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人
- ・人間の福祉に幅広い関心を持っている人
- ・福祉を必要とする人々の生活の自立を心身両面から援助したいと思っている人
- ・他の人と協力して福祉サービスを提供したいと思っている人 (大学入試要項、大学案内、秋田看護福祉大学ホームページ)

#### (2)入学選抜方法(平成27年度)

試験区分		入試科目	
	武	看護学科	福祉学科
光葉は計	一般公募	<b>《公田</b> 版》 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本	
推薦入試	学園内高校	▎総合問題、小論文、面接 │	
		必須:国語、英語 選択:数学Ⅰ・数学A、	必須:国語、英語 選択:数学 I・数学 A、
÷; ₩	     前期	生物基礎・化学基礎、	生物基礎・化学基礎、
一般入試	6   10   10   10   10   10   10   10	生物、化学の中から1	生物、化学、日本史
	1久 舟]	科目を選択	B、世界史 B、政治・
			経済の中から 1 科目
			を選択
大学入試セ		必須:国語(近代以降	必須:国語(近代以降
ンター試験	前期	の文章)、英語(リス	の文章)、英語(リス
利用入試	後期	ニング含まず)	ニング含まず)

		選択:数学 I、数学 I・	選択:数学 I、数学 I・
		数学A、生物基礎・	数学A、生物基礎・
		化学基礎・物理基礎、	化学基礎・物理基礎、
		生物、化学、物理の	生物、化学、物理、
		中から1科目を選択	日本史 B、世界史 B、
			地理 B、倫理, 現代
			社会、倫理・政治・
			経済の中から 1 科目
			を選択
社会人入試	一般前期日程と同日	筆記試験・小論文・面接	
	福祉学科のみ(自己推	薦方式)	
	ボランティア活動等	の社会活動、課外活動、	生徒会活動等の活動歴や
AO 入学	特技、志望理由等を記載したエントリーシートを提出する。書類審査通		
試験	過者に対して課題レポ	ートを送付し、レポート打	是出者に対して個別面談
	を行う。課題レポート	及びエントリーシート・イ	固別面談・出身高等学校
	調査書による総合判定	にて選抜する。	

# 福祉学科編入学試験

福祉学科編入試 区分		選抜方法	
		短期大学(介護福祉士養成施設等)または専修学	
		校(介護福祉士養成施設等で、修業年限が2年以上、	
推薦	加八苦	かつ 1,800 時間以上の総授業時間数の課程)の卒業	
編入試	一般公募	見込み者で、学長または校長が推薦できる者。これ	
		らの条件を満たす者に対し、個別面接及び提出書類	
		を総合判定して選抜	
一般	編入A (前期)	小論文、個別面接及び提出書類を総合判定して選抜	
編入試	編入B (後期)	小論文、個別面接及び提出書類を総合判定して選抜	

# ◆学生募集人数(平成 27 年度)

試験区分	募集人員	看護学科	福祉学科
推薦入試	一般公募	15	13
	学園内高校	2	3
一般入試	前期	18	8
	後期	4	3
センター	前期	8	5
利用入試	後期	3	3
社会人入試		若干名	若干名
AO 入試			5

募集定員	50	40
編入学試験		若干名

# (3)入試区分別 求める学生像

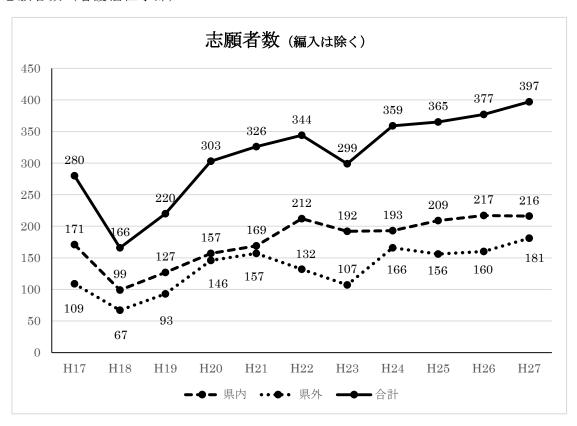
(3) 八畝区分別 水风	の子生像	求める学生像
【学部共通】すべての入	<b>学科験</b> で	・人権や生命への尊厳の気持ちを持った人
共通して最も重視する能	三刀	・他者に対する思いやりの気持ちを持った人
		・自らの責任において、主体的に学習しようという意
		欲を持った人
		・周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調
		性を持った人
【看護学科】の入学試験	で受験者	・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の
に期待すること		回復と維持に貢献したいという意欲を持った人
		・常に向上心を持ち、時代の変化に対応できる柔軟な
		思考力を持った人
		・地域社会や国際社会に貢献する気持ちを持った人
		・他の人と協力して健康・医療サービスを提供したい
		と思っている人
【福祉学科】の入学試験	で受験者	・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人
に期待すること		・人間の福祉に幅広い関心を持っている人
		・福祉を必要とする人々の生活の自立を心身両面から
		援助したいと思っている人
		・他の人と協力して福祉サービスを提供したいと思っ
		ている人
		・専門教育を受けようとする準備性が整い、専門教育
		   に入っていくために必要な教科学力を有している人
	看	【教科学力】
	護	・教科全般にかかわる基礎学力を有している人
一般学力入試	学	【基礎学力】
(前期・後期)	科	・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の
		回復と維持に貢献したいという意欲を持った人
大学入試センター試験		【ホスピタリティ・マインド】
利用入試(前期・後期)		・専門教育を受けようとする準備性が整い、専門教育
		に入っていくために必要な教科学力を有している人
	福	【教科学力】
	祉	・教科全般にかかわる基礎学力を有している人
	学	【基礎学力】
	科	・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人
		「おスピタリティ・マインド」
		【かべしクリノイ・マイント】

推薦入試 (一般公募・学園内) 【専願】	看 護 学 科	<ul> <li>・秋田看護福祉大学看護学科で学ぶ強い意欲を持っている人</li> <li>・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の回復と維持に貢献したいという明確な目的意識を持っている人</li> <li>・自らの責任において、主体的に学習しようという意欲を持った人</li> <li>・周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調性を持った人</li> </ul>
	福 祉 学 科	<ul> <li>・秋田看護福祉大学福祉学科で学ぶ強い意欲を持っている人</li> <li>・介護福祉士、社会福祉士または精神保健福祉士として、福祉ニーズを抱えた人たちのための専門的援助者となりたいという目的意識を持っている人</li> <li>・自らの責任において、主体的に学習しようという意欲を持った人</li> <li>・周囲の人々と協力し物事を成し遂げようとする協調性を持った人</li> </ul>
社会人入試	看 護 学 科	・秋田看護福祉大学看護学科で学ぶ強い意欲を持っている人 ・看護師、保健師または助産師として、住民の健康の回復と維持に貢献したいという明確な目的意識を持っている人 ・自らの責任において、主体的に学習しようという意欲を持った人 ・常に向上心を持ち、時代の変化に対応できる柔軟な思考力を持った人 ・時流に迎合せず、広い視野で真実を見抜く力を持っている人 ・他の人と協力して健康・医療サービスを提供したいと思っている人
	福 祉 学 科	・秋田看護福祉大学福祉学科で学ぶ強い意欲を持っている人 ・自らの責任において、主体的に学習しようという意欲を持った人 ・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人 ・時流に迎合せず、広い視野で真実を見抜く力を持っている人 ・福祉を必要とする人々の生活の自立を心身両面から

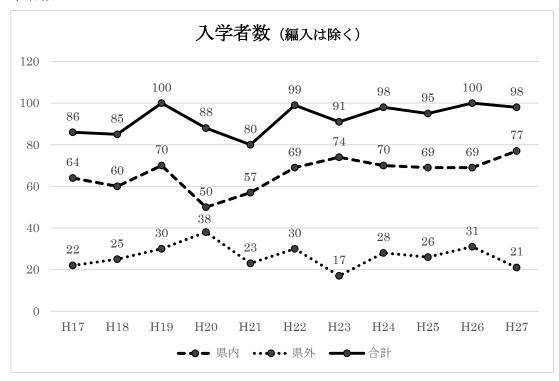
	援助したいと思っている人
	・他の人と協力して福祉サービスを提供したいと思っ
	ている人
	・福祉関係の仕事や研究に一定の理解を示せる人
	・福祉学科で勉学することを強く希望する人
	・福祉学科にかかわりある資格を有する人
년 전 등 전 및 설문	(例えば、ホームヘルパー資格等)
福祉学科AO入試	・特定の科目や分野に秀でた能力を持つ人
	・ボランティア活動ですぐれた活躍をした人
	・高等学校で福祉に関する課程を修めた人
	・今現在、福祉関連の施設や団体で働いている人
	・福祉の分野で社会に貢献したいと思っている人
福祉学科編入学入試	・福祉を必要とする人々の生活の自立を心身両面から
	援助したいと思っている人
	・他の人と協力して福祉サービスを提供したいと思っ
	ている人

# (4) 志願者・入学者の状況

◆志願者数 (看護福祉学部)



# ◆入学者数



# ◆編入学者

		福祉学科	
平成 23 年度	2 年生	1人	
	3 年生	2 人	
平成 24 年度	3 年生	2 人	
平成 25 年度		0 人	
平成 26 年度	3 年生	2 人	
平成 27 年度	3 年生	3 人	
合計	10 人〔2 年	生1人、3年生9人	)

# ◆平成27年度入試倍率

# <看護学科>

ス	、試区分	募集 人員	志願者	受験者 a	合格者 b	倍率 (a/b)	入学者
推薦	一般公募	15	28	28	19	1.47	19
	学園内	2	0	0	0	0	0
一般前	前期	18	132	132	65	2.03	28
一般後	<b></b> り 期	4	15	15	8	1.88	6
センタ	7一前期	8	136	136	63	2.16	11
センタ	7一後期	3	6	6	2	3.00	0
社会人		若干名	3	3	1	1	1
	合 計	50	320	320	158	2.03(平均)	61

# <福祉学科>

	入試区分	募集 人員	志願者	受験者 a	合格者 b	倍率 (a/b)	入学者
1-//-	加八世		0	0	0		0
推	一般公募	13	8	8	8	1.00	8
薦	学園内	3	1	1	1	1.00	1
fi	设前期	8	7	7	7	1.00	4
742	又们初	(第2志望)	24	24	18	1.33	7
ń/	设後期	3	1	1	1	1.00	1
一九	又1次分1	(第2志望)	6	6	3	1.22	2
セン	/ ター前期	5	19	19	16	1.19	6
セン	/ター後期	3	2	2	2	1.00	2
社会	<b></b>	若干名	1	1	1	1.00	1
AO		5	5	5	5	1.00	5
	合 計	40	74	74	62	1.19(平均)	37
	推薦	若干名	0	0	0	_	0
編刀	一般 A	若干名	2	2	2	1.00	2
利用ノ	一般 B	若干名	1	1	1	1.00	1
	合計		3	3	3	1.00(平均)	3

<sup>※</sup>第2志望は、看護学科志願の際に福祉学科志願を第2志望として登録した者

# ◆平成27年度志願者・入学者(地区別)

	看護福	祉学部	看護	学科	福祉	学科
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
秋田県	216 (54.4%)	77	160	44	56	33
秋田宗		(76.2%)	(50.0%)	(72.1%)	(72.7%)	(82.5%)
青森県	34	6	32	5	2	1
月林州	(8.6%)	(5.9%)	(10.0%)	(8.2%)	(2.6%)	(2.5%)
岩手県	48	10	38	4	10	6
石 于 宗	(12.1%)	(9.9%)	(11.9%)	(6.6%)	(13.0%)	(15.0%)
宮城県	44	5	41	5	3	0
呂城宗	(11.1%)	(5.0%)	(12.8%)	(8.2%)	(3.9%)	(0%)
山瓜川	25	2	23	2	2	0
山形県	(6.3%)	(2.0%)	(7.2%)	(3.3%)	(2.6%)	(0%)
その他	30	1	26	1	4	0
その他	(7.5%)	(1.0%)	(8.1%)	(1.6%)	(5.2%)	(0%)
△⇒↓	397	101	320	61	77	40
合計	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

		看護福	祉学部	看護	学科	福祉	学科
		志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
	県北	141	56	104	32	37	24
	州化	(47.9%)	(72.7%)	(65.0%)	(72.7%)	(66.1%)	(72.7%)
秋	県中央	51	15	37	8	14	7
田田	<b>界中天</b>	(35.9%)	(19.5%)	(23.1%)	(18.2%)	(25.0%)	(21.2%)
県	県南	24	6	19	4	5	2
斤	<b>界用</b>	(16.1%)	(7.8%)	(11.9%)	(9.1%)	(8.9%)	(6.1%)
	合計	216	77	160	44	56	33
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

# ◆平成27年度在籍学生数及び収容定員超過率 (平成27年5月1日現在)

		在	籍学生数(人	)		定員超過率(在				
						籍学生総数/				
	1 年次	1 年次   2 年次   3 年次   4 年次   総数								
看護学科	0.1	00		0.1	0.40	1.04				
(定員 50)	61	69	57	61	248	1.24				
福祉学科	9.7	0.1	40	40	1.40	0.00				
(定員 40)	37	31	40	40	148	0.93				
合計	98	100	97	101	396	1.10				

<sup>※</sup>収容定員は看護学科 200人、福祉学科 160人、合計 360人である。

#### (5) 平成27年度「新入生に対する本学へのイメージ調査」結果

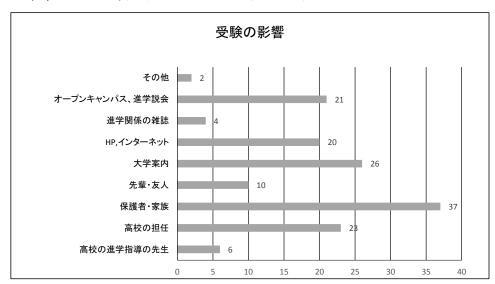
新入生に対し、「新入生オリエンテーション」で行ったアンケートの結果は次のとおりである。

· 日時: 平成 27 年 4 月 7 日 (火)

・対象:看護学科61名、福祉学科40名

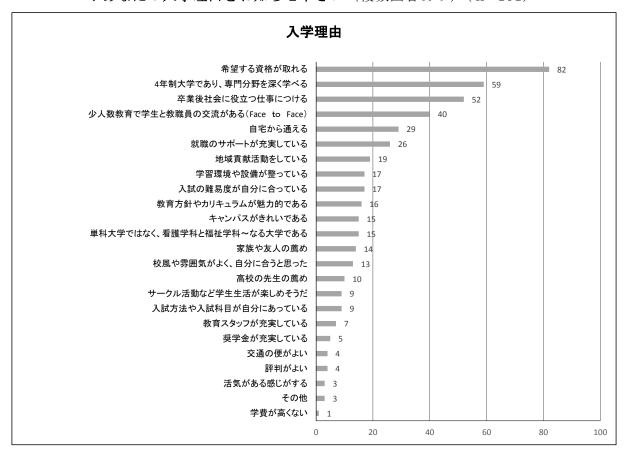
• 担当者: 佐藤純子

#### ◆本学のことは何で知りましたか (n=101)



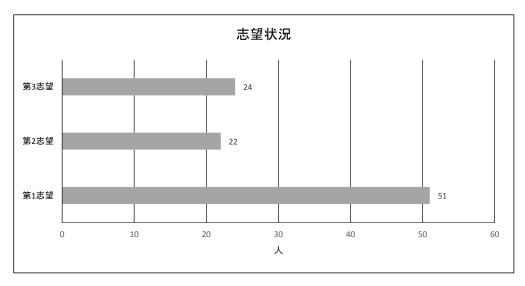
本学を知ったのは「保護者・家族」からが最も多く、次いで高校担任及び進路担当の先生であった。大学案内、オープンキャンパスや進学説明会やHPなども活用されていた。

# ◆あなたの入学理由をお知らせ下さい(複数回答あり)(n=101)



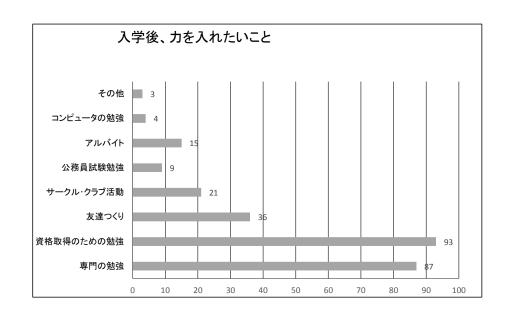
本学の入学理由で最も多いのは「資格取得の充実」であった。

◆本学の志望順位を教えてください。(n=97、無回答4)



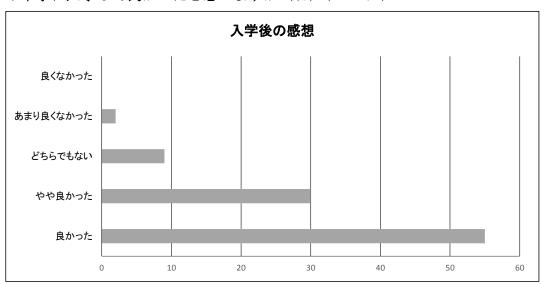
入学者の 51 人(52.6%)は本学が第一志望だった。

◆大学で力を入れたいことをお知らせ下さい(複数回答3つまで)(n=101)



大学で力を入れたいことは「資格の勉強」と「専門の勉強」が多かった

#### ◆本学に入学して良かったと思いますか (%) (n=101)



86.7%の新入生が本学に入学してよかった、やや良かったと感じていた。

以上のことから、新入生の多くは保護者や高校の先生からの勧めで本学を知り、資格を取得することを目的に入学している。入学時の目的を達成させることで入学後の満足度も向上する。よって、入り口では高校訪問の強化や受験生はもちろんのこと保護者の目に止まるような広報活動の拡充、魅力的なホームページの作成などに取り組んでいる。このことは、本学の中期 5 か年計画(平成 27 年度)に基づいて実施したものである。入学生の 80%以上が、入学してよかった及びやや良かったと感じている。その思いを継続して卒業できるように、出口では大半の学生が目的とする資格取得ができるよう教育を強化することが必要である。

#### 「改善・向上方策 (将来計画)]

本学では、入学者の選抜においてアドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針) をふまえた多彩な入学試験方式を導入している。両学科の推薦入試や福祉学科の AO 入試においては、調査書・小論文・面接等から志願者の能力や適性、学習に対する意 欲、目的意識等を総合的に判定して、本学で学び地域社会に貢献できる人材の発掘に 努めている。

福祉学科は現在収容定員をわずかに下回っている。18歳人口の低下が進み、さらに福祉や介護の仕事の担い手を目指す高校生が減少する中、本学福祉学科の目指す教育も多様な高校生のニーズを満たすことができるように修正していかなければならない。そのためにも今後はアドミッション・ポリシーの見直しを行うと同時に、本学の教育の特徴を多くの方々に知っていただくようにする。また社会的に高い評価を受けるような卒業生を輩出することで、優秀な志の高い学生が入学してくるという良循環を形成すべく努力する。平成27年度は編入学生が3名おり、入学後の社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格を得ることを考え、今後も介護福祉士養成校を中心に編入学生の募集活動を継続する。

新入生のアンケート結果から本学を第1志望とした者は半数であるが、入学して「良かった(良かった+やや良かった)」と8割以上が回答していることから、その期待を裏切らないような教育・サポート体制が重要である。

#### 2. 教育課程および教授方法

本学は「建学の精神」および「大学の目的および使命」(学則第 1 章第 1 条)、「教育目標」(学則第 2 章第 6 条第 2 項)に基づき、下記に示すカリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)をもって教育課程を編成している。

### (1) 教育目標

大学の建学の精神である「真理・調和・実学」を支柱として、学部の人材育成に関する使命・目的を学則第 1 条に則り、看護学と社会福祉学の専門性と独自性を尊重しつつ、学部および学科ごとの教育目標を学則第 6 条に次のように定めている。

# 教育目標

看護福祉学部:幅広い教養教育との密接な関連のもとに、保健・医療・福祉領域における奥深い専門教育を教授し、豊かな人間性と知性、高度な専門知識と技術を身につけて社会に貢献できる人材を養成することを教育理念・目標とする。

看護学科:生命に対する深い尊厳の心を持ち、対象者がどのような援助を求めているかを正確に把握し、常に向上心を持って適切な看護サービスを提供できる看護職者を養成する。

福祉学科:社会福祉学という「知」と「実践」を統合した学問を機軸に、学究の営みに 邁進し、共生社会の実現に向けて創造的な提言を行い、自ら行動できる福祉 マインドを持った人材を養成する。 (秋田看護福祉大学学則第6条)

#### (2) カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

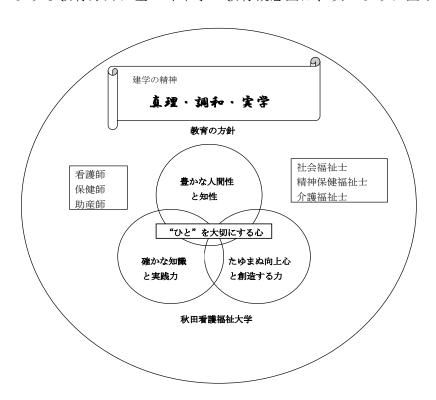
秋田看護福祉大学は、一人ひとりの学生を大切にし、「豊かな人間性と知性」を涵養し、「確かな知識と実践力」と「たゆまぬ向上心と創造する力」を育む教育を行い、卒業後も人を大切にする"こころ"(調和の精神)を持って仕事に励み、人生を生きていく社会人になることを願い次のような人材を育成する。

- 1) 豊かな人間性と知性を持ち、思いやりと人を大切にする心を持つ人
  - ・幅広い教養を身につけ、人権および生命の尊厳を含む人間に対する理解を深め、豊かな人間性を涵養し、また、職業遂行の背景となる社会情勢を認識し、職業人としての倫理観を養うため、両学科で共通の「教養科目」「総合科目」を学ぶ。
  - ・「教養科目」「総合科目」には、他の職業スタッフとのパートナーシップを育成するための科目、専門職として欠かせないコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成するための科目を配置する。
- 2) 確かな知識と実践力を持って社会に貢献する人
  - ・専門職者としての様々な状況で活用するための基礎的知識を学ぶ「専門基礎科目」を 配置する。また、専門知識および技術を修得するための「専門科目」(講義・演習・ 実習)を1年次から、系統的に学べるように配置する。
  - ・看護学科では看護師・保健師・助産師、福祉学科では社会福祉士・精神保健福祉士・ 介護福祉士の国家試験を受験する資格を得られるカリキュラムとする。
- 3) 自分で考え、判断し、主体的に行動し、たゆまぬ向上心と創造する力を持った人
  - ・「講義」「演習」「実習」「ゼミナール」「卒業研究」などの多彩な授業方法を通し、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の更なる向上を目指すと共に、「向上心」「論理的科学的思考」「問題解決能力」「創造力」を育む。

(平成24年11月6日制定)

#### ◆教育概念図

以上のような教育方針に基づく本学の教育概念図は、次のように図示される。



#### (3) カリキュラム

教育課程に基づくカリキュラムの運用は教務委員会が行っている。教務委員会は看護学科教務委員会と福祉学科教務委員会からなり、教養科目、総合科目など、両学科に共通する議案を審議する場合は合同教務委員会として審議している。議長は両学科教務委員会の委員長が交代で行う。また、教養科目は福祉学科、総合科目は看護学科が担当する。

実習を受けるには看護学科・福祉学科それぞれに要件があり、学生は要件を満たすことで実習を受けることができる。実習を受けられない場合は留年することになる。

全学的な授業改善については、ファカルティ・デベロップメント推進委員会(以下 FD 推進委員会という)が行っている。

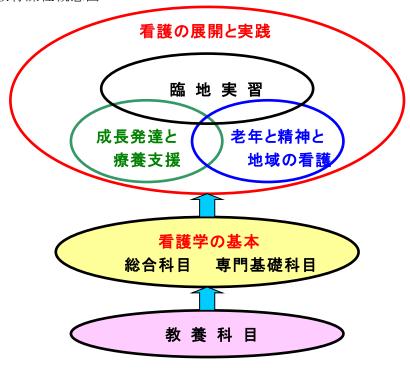
本学の教育課程は教養科目、総合科目、専門科目で構成され、両学科のカリキュラムは下記に示す概念図のイメージで体系的に編成している。教養科目は看護職・福祉職に特に必要とするコミュニケーションと人間性の理解に必要な科目、そして専門科目を学ぶ上での基礎となる科目を配置している。また、総合科目には看護学科・福祉学科に共通する専門科目を配置している。

看護学科は卒業要件単位で看護師国家試験資格を得るカリキュラムが組まれている。開学時から助産師国家試験受験資格を得るカリキュラムは選択制であり、実習施設の関係から 5 名の制限がある。平成 24 年度入学生からは保健師国家試験受験資格を得るカリキュラムも選択制となり、実習施設の関係から平成 26 年度 3 年生から 20 名の制限がある。それ以前の入学生では、保健師国家試験受験資格は看護師国家試験受験資格と同様に卒業要件単位で得ることができる。

福祉学科では124単位が卒業要件単位である。学科指定科目を履修し124単位で学士(社会福祉学)として卒業できる。さらに、介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格は選択制であり、それぞれの指定科目を履修する必要がある。なお、平成27年度入学生からは精神保健福祉士国家試験受験資格を得るカリキュラムの選択には、実習施設の関係から20名の制限がある。介護福祉士の資格については、介護福祉士の指定科目を修めた学生のみが卒業と同時に介護福祉士の資格を得ることができる。しかし、社会福祉士及び介護福祉士法の改正により、平成29年度卒業生から国家試験を受けなければ、介護福祉士の資格を得ることができなくなる予定である。

本学のカリキュラムは資格取得を目的とする学生に対応できるよう編成されているが、福祉学科では資格にこだわらず、124 単位の単位取得で卒業が可能である。さらに今年度は中期 5 カ年計画に基づき福祉学科コース制の検討を開始した。平成 28 年度からは、行政・企業コースを開設し、資格取得にこだわらない多種多様な場で活躍できる人材の育成のため、さらに学生への学修支援を充実させる。また、精神保健福祉士の養成に関しては、秋田県は実習施設と実習指導者が少ないことから、岩手県や青森県の施設をも開拓しつつ、「秋田看護福祉大学精神保健福祉士科目の履修に関する内規」に基づき養成の人数を 20 人以内とし、実習の充実に努めることとしている。

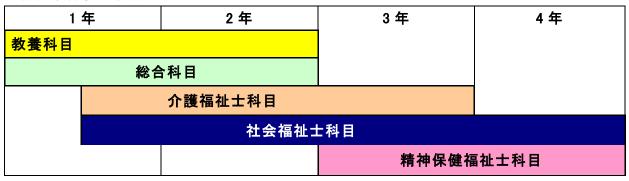
# ◆看護学科教育課程概念図



# ◆看護学科履修系統図

1 年	2 :	年	3 年	4 年
教養科目				
総合	科目			
専門基礎科目(基礎医	学→臨床医	学)		
看護師科目(基礎看護一	小児・母性・ノ	或人▪精神▪ <b>老</b>	5年・在宅→看護の展開・約	在合実習・看護研究)
			保健師科目	
			助産師	科目

# ◆福祉学科履修系統図



# ◆ 授業科目 (平成 27 年度入学生)

# <看護学科>

# (i) 教養科目

		単位	立数	1 年	三次	2 年	三次	3 年	三次	4 年	三次		•	学科。	<b>必修</b>
	科目名	必	選	前	後	前	後	前	後	前	後	合	$\Rightarrow$	資格。	<b>公修</b>
	件日名	修		期	期	期	期	期期	期	期	期	計	看	保	助
		1	1/ <	\\ \alpha_1	)A1	NA1	)A1	7.91	7.51	)A1	7,91		護	健	産
人	文学の世界		2	30		30						30			
間	哲学		2	30		30						30			
系	心理学		2	30								30			
\/\	文章表現		2	30								30			
社	法律と生活		2	30		30						30			
会	社会学		2	30		30						30			
五系	医療と福祉の		2		30		30					30			
713	マネジメント				30		30					30			
	基礎数学		2		30		30					30			
自	化学		2	30		30						30			
然	統計学	2					30					30	•	•	•
系	生命科学		2		30		30					30			
ן ב	基礎演習	1		30								30	•	•	•
₹\$	英語 RS	2		30	30							60	•	•	•
그∃	英語 CS	2		30	30							60	•	•	•
ニン	中国語		2	30	30	30	30					60			
ケ	韓国語		2	30	30	30	30					60			
系	手話	1		30		30						30			
情報系	情報処理演習	2		60								60	•	•	•

看護:看護師国家試験受験資格 保健:保健師国家試験受験資格

助産:助産師国家試験受験資格

# (ii) 総合科目

	単位数		1年次		2 年次		3年次		4 年	三次		•	学科』	<b>公修</b>
科目名	必	選	前	後	前	後	前	後	前	後	合計	$\stackrel{\wedge}{\Longrightarrow}$	資格。	必修
	修	択	期	期	期	期	期	期	期	期		看	保	助
		IJζ	791	791	791	791	791	791	791	791		護	健	産
リフ゜ロタ゛クティフ゛・ヘルス/ライツ		2		30							30			$\stackrel{\wedge}{\simeq}$
社会福祉概論 I	2		30								30	•	•	
コミュニケーション論	2		30								30	•	•	•

カウンセリング		2			30				30			
公衆衛生学	2				30				30	•	•	•
環境と人間生活		2	30						30			
エイジング論	2			30					30	•	•	•
社会保障論 I		2			30				30		$\stackrel{\wedge}{\simeq}$	
医療と福祉の英語		2						30	60			
健康と運動		2	30	30					30			
障がい者(児)の福祉		2				30			30		$\stackrel{\wedge}{\simeq}$	
医療と福祉の経済		2		30					30			
人間関係論		2				30			30			
行政法		2			30				30			
民法		2				30			30			
臨床心理学		2			30				30			

看護:看護師国家試験受験資格 保健:保健師国家試験受験資格

助産:助産師国家試験受験資格

(ⅲ) 看護学科専門科目 ☆ 3年前期までに修得しておくべき履修要件科目

		単位	立数	1年次		2年次		3 年	三次	4 年	三次			学科必	修
		.,	733	34.		24	111	24		34.		合		資格必	
	科目名	必	選	前	後	前	後	前	後	前	後	計		選択不	1
		修	択	期	期	期	期	期	期	期	期		看	保	助
													護	健	産
	人体の構造と機能 I	2		30	30							60	•	•	•
	人体の構造と機能Ⅱ	2		30	30							60	•	•	•
	栄養学	1			30							30	•	•	•
	薬理学概論	1			15							15	•	•	•
	臨床薬理学	2				30						30	•	•	•
専	疾病の成り立ち	2			30							30	•	•	•
門世	感染と免疫	2		30								30	•	•	•
基礎	病熊治療学 <b>I</b>	2				30	30					60	•	•	•
科	病態治療学Ⅱ	2				30	30					60	•	•	•
目目	病態治療学Ⅲ	2				30	30					60	•	•	•
	専門基礎演習		1				30					30			
	保健・医療の法律	2					30					30	•	•	•
	疫学		2					30				30		☆	☆
	保健統計学		2					30				30		☆	☆
	保健医療福祉行政論		2						30			30	×	0	×
	看護学概論	2		30								30	•	•	•

		看護倫理	1					15				15	•	•	•
	•	看護コミュニケーション	1					15				15	•	•	•
	看	基礎看護技術論I	2		30							30	•	•	•
	護	基礎看護技術論Ⅱ	2			30						30	•	•	•
	学	基礎看護技術演習I	1		30							30	•	•	•
	の	基礎看護技術演習Ⅱ	1			30						30	•	•	•
	基	看護過程	2				30	30				60	•	•	•
	本	家族看護論	1						15			15	•	•	•
		小児看護学概論	1				15					15	•	•	•
	•	小児看護方法論 I	1				30					30	•	•	•
		小児看護方法論Ⅱ	1					30				30	•	•	•
		次世代育成ケア論	1				15					15	•	•	•
	成	母性看護学概論	1				15					15	•	•	•
	長	母性看護方法論	2					60				60	•	•	•
	発	成人看護学概論	1			15						15	•	•	•
	達	成人看護方法論Ⅲ	2				30	30				60	•	•	•
	と	成人看護方法論Ⅱ	2				30	30				60	•	•	•
	療	成人看護方法論Ⅲ	1					30				30	•	•	•
	養	助産学概論		1					15			15			$\stackrel{\wedge}{\simeq}$
専	支	基礎助産学		2						30		30	×	×	0
	援	助産診断・技術学I		1						15		15	×	×	0
門		助産診断・技術学Ⅱ		1						30		30	×	×	0
		助産診断・技術学Ⅲ		1							15	15	×	×	0
科		助産診断・技術学IV		1							30	30	×	×	0
		助産管理論		2							30	30	×	×	0
目		老年看護学概論	1			15						15	•	•	•
		老年看護方法論 I	1				30					30	•	•	•
		老年看護方法論Ⅱ	1					30				30	•	•	•
	•	精神看護学概論	1			15						15	•	•	•
	老	精神看護方法論I	1				30					30	•	•	•
	年	精神看護方法論Ⅱ	1					30				30	•	•	•
	と	公衆衛生看護学概論	2				30					30	•	•	•
	精	健康教育論	2				30					30	•	•	
	神、	公衆衛生看護		1					30			30		☆	
	占	活動展開論I													
	地	公衆衛生看護		1						30		30	×	0	×
	域の	活動展開論Ⅱ												_	
	の	公衆衛生看護		1							30	30	×	0	×

看	活動展開論Ⅲ													
護	公衆衛生看護技術論		1					30			30	×	0	0
-	母子保健活動論		1				30				30		☆	☆
-	成人保健活動論		1			30					30		☆	
	高齢者保健活動論		1				30				30		$\stackrel{\wedge}{\simeq}$	
•	産業保健活動論		1						15		15	×	0	×
-	学校保健活動論		1						15		15	×	0	×
-	健康課題別活動論 I		1					30			30	×	0	×
-	健康課題別活動論Ⅱ		1					30			30	×	0	×
	公衆衛生看護管理論		1						15		15	×	0	X
	在宅ケア論I	2			30						30	•	•	•
-	在宅ケア論Ⅱ	2				30					30	•	•	•
	セイフティマネシ゛メント		1					15			15			
	リハビリテーションと看護		1					15			15			
	リエゾン精神看護論		1						15		15			
	緩和ケア論		1						15		15			
	救急医療と看護		1						15		15			
	国際看護活動論		1						15		15			
看	災害看護学		1						15		15			
護	看護マネジメント論		1						15		15	0		
の	ヘルスアセスメント		1					30			30	0		
展	がん看護学		1					15			15	0		
開	研究方法論 I	1					15				15	•	•	•
と	研究方法論Ⅱ	2						30			30	•	•	•
実	看護研究	2							30	30	60	•	•	•
践	看護統合(卒業	2							30	30	60			
-	支援を含む)								30	30	00			
-	看護実践総合演習	1								15	15	•	•	•
	早期体験実習	1		45							45	•	•	•
-	基礎看護学実習	2			90						90	•	•	•
	成人・老年看護 学実習 I	3					90	45			135	•	•	•
	成人・老年 看護学実習Ⅱ	3					90	45			135	•	•	•
	老年看護学 福祉実習	2					45	45			90	•	•	•
-	小児看護学実習	2					45	45			90	•	•	•
	母性看護学実習	2					45	45			90	•	•	•

	精神看護学実習	2				45	45			90	•	•	•
	高齢者・精神 地域実習		2					90		90		×	×
	在宅ケア実習	2				45	45			90	•	•	•
	公衆衛生看護学 実習 I		2					45	45	90	×	0	×
	公衆衛生看護学 実習Ⅱ		3					13	35	135	×	0	×
	助産学実習 I		5					22	25	225	×	×	$\circ$
	助産学実習Ⅱ		2					45	45	90	×	×	$\circ$
	統合実習	2						45	45	90	•	•	•

看護:看護師国家試験受験資格 保健:保健師国家試験受験資格 助産:助産師国家試験受験 資格

# • 看護学科卒業要件単位数

区分		単位数
教養科目	必修	9 単位
教食付日	選択	8 単位以上
総合科目	必修	8 単位
松石作日	選択	6 単位以上
専門基礎科目	必修	20 単位
専門科目	必修	69 単位
<del>等</del> 门作 日 	選択	5 単位以上
合計		125 単位以上

・国家試験受験資格取得のための 履修単位数(卒業要件履修科目を含む)

資格	単位数
看護師	125 単位以上
看護師	143 単位以上
保健師	143 単位以上
看護師	140 単体以上
助産師	142 単位以上

# <福祉学科>

# (i) 教養科目

	科目名	単位数		三次			3 年	三次	4 年		△から 事任用覧 (△※は	4 科目」 資格、 / 複数科目	以上選打 公から 3 1で1科	尺。・老 : 科目以 目とみな	す)
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	合計	介護	社福	精神	社福 主事
人	文学の世界	2	30	791	30	791	79]	79]	79]	791	30	咬	ТШ	177	工事
間	哲学	2	30		30						30	Δ			
系	心理学	2	30								30	0	0	0	Δ
	文章表現	2	30								30				
社	法律と生活	2	30		30						30	Δ			
会	社会学	2	30		30						30	0	0	0	Δ
系	医療と福祉のマネジメント	2		30		30					30	Δ			
自	基礎数学	2		30		30					30	Δ			
然	化学	2	30		30						30				
系	統計学	2				30					30	Δ			
<i>&gt;</i> 1\	生命科学	2		30		30					30	Δ			
п "	基礎演習	1	30								30				
1 1	英語 RS	2	30	30							60				
7 -	英語 CS	2	30	30							60				
ў —	中国語	2	30	30	30	30					60				
ン系	韓国語	2	30	30	30	30					60				
	手話	1	30		30						30				
情報	情報処理演習	2	60								60				

介護:介護福祉士国家試験受験資格 社福:社会福祉士国家試験受験資格

精神:精神保健福祉士国家試験受験資格

# (ii) 総合科目

											・資格。	必修○・	介護資	格選択	必修△、
		単	1 / 1	: \/ <del> </del>	0.47	: V/H	o Æ	: V/H	1 4	: \/ <del> </del>	△から	4 科目以	人上選択	い。・社	会福祉主
	科目名	単位	1 4	- 火	2 年	- 火	3 4	- 火	4年	- 火	事任用資	資格、△	∆から3	科目以	上選択
		型 数									(△※は	複数科目	で1科	目とみな	す)
		剱	前	後	前	後	前	後	前	後	合	介	社	精	社福
			期	期	期	期	期	期	期	期	計	護	福	神	主事
リプ	ロダクティブ・ヘルス/ライツ	2		30							30				
社会	会福祉概論 I	2	30								30		0	0	△※
コミ	ミュニケーション論	2	30								30				
力!	ウンセリング	2				30					30				
公分	<b> ** ** ** ** ** ** ** </b>	2			30						30				Δ
環境	竟と人間生活	2		30							30				
エノ	イジング論	2		30							30	0			
社会	会保障論 I	2			30						30	0	0	0	△※
医损	寮と福祉の英語	2								30	30				
健原	表と運動	2	30	30							60				
障力	ぶい者 (児) の福祉	2				30					30				
医师	寮と福祉の経済	2		30							30				
人間	<b>『関係論</b>	2				30					30				
行项	<b>文</b> 法	2			30						30				Δ
民治	去	2				30					30				Δ
臨月	床心理学	2			30						30				

介護:介護福祉士国家試験受験資格 社福:社会福祉士国家試験受験資格

精神:精神保健福祉士国家試験受験資格

# (iii) 福祉学科専門科目

	I														1
											・資格』	必修○・	介護資	<b>後格選</b> 折	?必修△、
		774	1 /T	- V/-	o /T	- V/-	9 /T	- V/-	4 <i>F</i> T	- V/-	△から	4 科目」	以上選打	尺。・社	上会福祉主
	<b>₩</b> □ ₩	単	1 年	一伙	27	一伙	3 年	一伙	4年	一伙	事任用資	資格、△	∆から3	科目以	上選択
	科目名	位									(△※は	複数科目	で1科	目とみな	す)
		数	前	後	前	後	前	後	前	後	合	介	社	精	社福
			期	期	期	期	期	期	期	期	計	護	福	神	主事
専	医学一般	2		30							30	0	0	0	Δ
門	人間の理解 I	2	30								30	0			

基	人間の理解Ⅱ	2	Ī	30						30				
一礎	高齢者と健康	2		30	20					30	0			
			0.0		30									^ <b>&gt;</b>
科	介護の基本I	2	30							30	0			△※
目	介護の基本Ⅱ	2		30						30	0			△※
	介護の基本Ⅲ	2		30						30	0			△※
	介護の基本IV	2			30					30	0			△※
	介護の基本V	2			30					30	0			△※
	介護の基本VI	2				30				30	0			△※
	介護福祉論	1							15	15				$\triangle$
	コミュニケーション技術 I	2	30							30	0			
	コミュニケーション技術Ⅱ	2		30						30	0			
	社会福祉概論Ⅱ	2		30						30		0	0	△※
	ソーシャルワーク論 I	2		30						30	$\triangle$	0	0	△※
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2			30					30	$\triangle$	0	0	△※
	社会調査論	2				30				30	Δ			Δ
	社会保障論Ⅱ	2				30				30	0	0	0	△※
	地方自治と財政	2					30			30				
	高齢者福祉論 I	2		30						30				△※
	高齢者福祉論Ⅱ	2			30					30				△※
	障害者福祉論 I	2		30						30	0	0	0	△※
	障害者福祉論Ⅱ	2			30					30	0	0	0	△※
	児童・家庭福祉論	2			30					30	Δ			
基	ソーシャルワーク論Ⅲ	2			30					30				△※
幹	ソーシャルワーク論Ⅳ	2				30				30				△※
科	ソーシャルワーク論 V	2					30			30				△※
目	ソーシャルワーク論VI	2						30		30				△※
	精神科ソーシャルワーク論	2						30		30		0	0	
	権利擁護と成年後見	2					30			30		0	0	
	公的扶助論	2			30					30		0	0	Δ
	更生保護制度論	1							15	15				
	就労支援論	1							15	15				
	生活支援技術論 I	2	30							30	0			
	生活支援技術論Ⅱ	2		30						30	0			
	日常生活支援技術演習 I	1	30							30	0			
	日常生活支援技術演習Ⅱ	1	30	30						30	0			
	日常生活支援技術演習Ⅲ	1		30						30	0			
#				30	20						0			
基	日常生活支援技術演習IV	1			30					30				
幹	日常生活支援技術演習V	1			30					30	0			

科	日常生活支援技術演習VI	1			30				30	0			
目	日常生活支援技術演習Ⅶ	1			30				30	0			
		1				30			30	0			
	日常生活支援技術演習IX	1				30			30	0			
	日常生活支援技術演習X	1					30		30	0			
	認知症ケア論I	2		30					30	0			
	認知症ケア論Ⅱ	2			30				30	0			
	介護過程I	2		30					30	0			
	介護過程Ⅱ	2		30					30	0			
	介護過程Ⅲ	2			30				30	0			
	介護過程IV	2			30				30	0			
	介護過程V	2				30			30	0			
	医療的ケア I	2		30					30	0			
	医療的ケアⅡ	2		30					30	0			
	医療的ケアⅢ	2			30				30	0			
	地域福祉論 I	2			30				30		0	0	△※
	地域福祉論Ⅱ	2				30			30		0	0	△※
	保健医療論	2				30			30	Δ	0	0	
	福祉経営論	2				30			30				
	福祉行財政と福祉計画	2					30		30		0	0	Δ
	精神保健の課題と支援I	2				30			30		0	0	
	精神保健の課題と支援Ⅱ	2					30		30		0	0	
	精神保健福祉制度論 I	2				30			30		0	0	
	精神保健福祉制度論Ⅱ	2					30		30		0	0	
	精神障害者の生活支援システム	2					30		30		0	0	
	精神医学	4				30	30		60		0	0	
	精神科リハビリテーション学I	2				30			30		0	0	
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	2					30		30		0	0	
	精神保健福祉援助技術各論I	2				30			30		0	0	
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	2					30		30		0	0	
展	福祉機器活用論	2	30						30				
開	ケアマネジメント論	2					30		30				
科	ソーシャルワーク演習 I	1		30					30		0	0	
目	ソーシャルワーク演習Ⅱ	1			30				30		0	0	<u> </u>
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	1				30			30				
	ソーシャルワーク演習IV	1					30		30				
	ソーシャルワーク演習V	1						30	30		0	0	
	精神保健福祉援助演習 I	1					30		30		0	0	

	精神保健福祉援助演習Ⅱ	1						30		30		0	0	
	ゼミナール I	1					30			30				
	ゼミナールⅡ (卒業試験を含む)	2						30	30	60				
	介護実習I	3		135						135	0			
	介護実習Ⅱ	4			180					180	0			
	介護実習Ⅲ	3				135				135	0			
	介護総合演習I	1		30						30	0			
	介護総合演習Ⅱ	1			30					30	0			
発	介護総合演習Ⅲ	1				30				30	0			
展	介護総合演習IV	1					30			30	0			
科	ソーシャルワーク実習	4					180			180				
目	ソーシャルワーク実習指導 I	1				30				30				
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1					30			30				
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1						30		30				
	精神保健福祉援助実習指導I	1					30			30		0	0	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	1						30		30		0	0	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	1							30	30		0	0	
	精神保健福祉援助実習	5						225		225		0	0	

介護:介護福祉士国家試験受験資格 社福:社会福祉士国家試験受験資格

精神:精神保健福祉士国家試験受験資格

• 福祉学科卒業要件単位数

	I
区分	単位数
教養科目	22 単位以上
総合科目	14 単位以上
専門科目	88 単位以上
合計	124 単位以上

学士(社会福祉学): 124 単位以上

・国家試験受験資格を得るための履修 単位数 (卒業要件履修科目を含む)

資格	単位数
介護福祉士	124 単位以上
社会福祉士	124 単位以上
精神保健福祉士	124 単位以上
社会福祉士	190 光体以上
精神保健福祉士	129 単位以上
介護福祉士	
社会福祉士	105 光体以上
介護福祉士	165 単位以上
精神保健福祉士	
介護福祉士	
社会福祉士	199 単位以上
精神保健福祉士	

#### (4) 保健師科目および助産師科目の履修

看護学科の保健師課程および助産師課程を専攻する学生は、3年次前期までに修得しなければならない科目が定められている。また、実習を受ける人数も施設の関係で制約があるため制限され、履修者の選考が行われる。

#### ◆保健師科目

保健師課程を専攻する学生は、3年次前期までに次の科目の単位を修得していることが 条件となる。

社会福祉概論 I 、社会保障論 I 、保健・医療の法律、保健統計学、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動展開論 I 、成人保健活動論、公衆衛生学、障がい者(児)の福祉、疫学、家族看護論、健康教育論、母子保健活動論、高齢者保健活動論

(秋田看護福祉大学保健師科目の履修に関する内規、学生便覧)

#### ◆助産師科目

助産師課程を専攻する学生は、3年次前期までに次の科目の単位を修得していることが 条件となる。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、保健・医療と法律、小児看護学概論、母性看護学論、母性看護方法論、家族看護論、保健統計学、病態治療学Ⅲ、次世代育成ケア論、小児看護方法論 I、健康教育論、助産学概論、疫学、母子保健活動論

(秋田看護福祉大学助産師科目の履修に関する内規、学生便覧)

#### (5) 履修登録上限単位数と履修登録指導

教務委員会では「1学年の履修単位の上限は原則として 60 単位とする」と決めている。 しかしながら、国家試験受験資格を得る場合には上限を超える学年がある。現在は介護福祉士の国家試験を受ける必要がないが、国家試験受験が必要となった場合には、学生の負担を考え、特に配慮が必要である。また、カリキュラムの検討・改正は常に視野に入れている。

履修登録の指導はガイダンス・個別指導などで行っている。その際は履修モデルやカリキュラムチェック表等の資料を提示し、学生の希望する取得資格により履修漏れのないようにしている。福祉学科では、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士の三資格の国家試験受験資格を得る場合には履修単位数が 60 単位を超える学年がある。このため平成 26 年度にカリキュラムを改正し、実習科目等が特定学年に集中しないよう履修時期の分散や見直しを図り、実習の教育効果を高めるとともに、専門的な学習の進度に配慮しつつ、学生が履修しやすいカリキュラム体系としている。また、現在は介護福祉士の国家試験を受ける必要がないが、国家試験を受ける平成 29 年度以降の卒業生に対しては、学生の負担を考え、特に配慮が必要であると考えている。

なお、平成 26 年度から「秋田看護福祉大学精神保健福祉士科目の履修に関する内規」 を定め、精神保健福祉士課程を履修する学生には 2 年次後期までに修得しなければならな い科目や実習を受ける人数も施設の関係で制約があるため制限され、履修者の選考が行わ れる。

#### ◆精神保健福祉士科目

精神保健福祉士課程を専攻する学生は、2年次後期までに次の科目の単位を修得していることが条件となる。

心理学・社会学・社会福祉概論 I・社会福祉概論 I・社会保障論 I・医学一般・ ソーシャルワーク論 I・ソーシャルワーク論 II・障害者福祉論 I・障害者福祉論 II・ ソーシャルワーク演習 I・ソーシャルワーク演習 II・社会保障論 II・公的扶助論 (秋田看護福祉大学精神保健福祉士科目の履修に関する内規、学生便覧)

#### (6)授業方法の工夫・開発

授業の改善については FD 推進委員会が中心になって行っている。本学の専門科目は「実学」である看護・福祉の授業であり、グループワークが多い。学生は一方通行の講義形式ではなく、学生と教員が意思疎通を図る双方向型授業を望んでいる(平成 24 年度「大学満足度調査」など)ことや「主体的な学び」の推進のためにも、今後さらに教員と学生は共に授業改善と工夫に取組む。実習においても、実習前課題により、過去に学んだ知識と技術の復習、更なる展開のための予習を行っている。また、実習の最後にはまとめとして発表会を開いている。このように、本学の学生は「講義」 $\rightarrow$ 「演習」 $\rightarrow$ 「実習」の流れで専門知識と技術を学び、社会に役立つ実践力を修得する。

本学は建学の精神に基づき、実践力を持ち、人間性と知性が調和する職業人を育成する ことを目的としており、資格取得のために、かなりきついカリキュラムとなっている。そ のため、個々の学生に合わせた履修指導を心がけている。

また、看護職と福祉職を目指す学生が一緒に学ぶ意義も大きく、社会での協働を見据えて「総合科目」を配置している。看護職と福祉職の共通点は"ひと"に係る仕事であることである。そのことを踏まえて「コミュニケーション力」を身につけることにも配慮したカリキュラムになっている。授業方法としては、「講義」(座学)だけではなく、「演習」も多く取り入れ、「講義―演習―実習」の流れで主体的に学び、実践力がつくようにしている。

教員は本学の専任教員だけではなく、現場で働いている方々にも非常勤講師として指導をお願いしており、現場のスキルがリアルタイムで学生に届くようにしている。

教職員は「学生による授業評価」をはじめとする FD 推進活動によって、常に教育方法の改善に取り組んでいる。また、「情報処理演習」では IT 担当職員が教員と共に学生に係り、「基礎演習」では図書館の利用や文献検索の基本が図書館職員による指導で行われている。教員と職員の協働は多くの示唆を与え、お互いの刺激になり、教職員が学生に同じ視点で係ることにも繋がっている。

(秋田看護福祉大学学則、秋田看護福祉大学ホームページ、秋田看護福祉大学「学生便覧」、秋田看護福祉大学看護学科実習科目履修要件、秋田看護福祉大学福祉学科実習科目履修要件、秋田看護福祉大学福祉学科実習科目履修要件、秋田看護福祉大学ファカルティ・デベロップメント推進委員会規程、秋田看護福祉大学助産師科目の履修に関する内規、秋田看護福祉大学保健師科目の履修に関する内規、秋田看護福祉大学精神保健福祉士科目の履修に関する内規)

#### [改善・向上方策 (将来計画)]

他職種との連携・協働を理解し、パートナーシップを育成するための「総合科目」は、

配当は大部分 1・2 年次である。専門科目を十分学び、実習も後半に入る 4 年次での科目配当により、専門性をより身につけた両学科の学生がディスカッションできるような科目なども今後は検討する。4 年次に専門基礎科目を振り返る時間を持てると、実習へのより深い理解も生まれ、国家試験対策としても有効となる。

## 3. 学修および授業の支援

## (1) 高大接続

## A 高大連携授業

「大学コンソーシアムあきた」の事業として、高大連携授業が行われている。この事業では本学を会場に、看護学科および福祉学科の教員による授業が行われる。高校生は大学の授業を体験し、学問への興味喚起と進路について考える機会を得る。

### 構成機関(14)

秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田看護福祉大学、 日本赤十字秋田看護大学、秋田公立美術大学、秋田栄養短期大学、聖霊女子短期大学、 日本赤十字秋田短期大学、聖園学園短期大学、秋田工業高等専門学校、放送大学秋田 学習センター、秋田職業能力開発短期大学校

平成27年度に本学が実施した高大連携授業は次のとおりである。

## ◆平成27年度 高大連携授業

月 日(曜日)	テーマ	講師	
「福祉学」の魅力と可能性		(福祉学科)	
7月 18日 (土)	高齢者の暮らしと生活を支える -認知症	工藤久 准教授	
	高齢者支援を中心に一		
7月18日(土)	高齢者の食事について -高齢者が安全に	関口麗子 講師	
	経口摂取するために一		
8月22日(土)	地域と共に暮らす 一引きこもり者や精神	石岡和志 講師	
	障害者の地域生活支援を中心に一		
8月22日(土)	福祉でまちづくり 一市民の力・ボランテ	吉田守実 准教授	
	ィアのカー		
	看護学の魅力を探ろう	(看護学科)	
7月 18日 (土)	地域で行われている看護	日景真由美 准教授	
7月18日(土)	皮膚の大切さを学ぼう	小玉光子 准教授	
8月22日(土)	感染予防について	小畑千春 助教	
8月22日(土)	癒しと看護	今野修 講師	

高大連携授業アンケート (平成 27 年度) この授業を受けた生徒に対するアンケート調査の結果 (「大学コンソーシアムあきた」事務局による) は次の通りである。

州木(八子コン)	看護学の魅力を探ろう 「福祉学」の魅力と可能性			
受講申込者	18人	5人		
	第 1 講 12 人(66.7%)	第 1 講 4 人(80.0%)		
	第 2 講 12 人(66.7%)	第 2 講 4 人(80.0%)		
参加者	第 3 講 9 人(50.0%)	第 3 講 4 人(80.0%)		
	第 4 講 9 人(50.0%)	第 4 講 4 人 (80.0%)		
アンケート回収	15人(回収率83.3%)	5人(100.0%)		
N/ Fr	1年生2人 2年生4人	1年生0人 2年生0人		
学年	3 年生 9 人	3年生5人		
性別	女性 13 人 男性 2 人	女性 5 人 男性 0 人		
大光公 0 X D	大学 10人	大学 5人		
卒業後の進路	専修・各種学校 5人	専修・各種学校 1人		
	高校教員からの情報	高校教員からの情報		
	6 人(40.0%)	3人 (60.0%)		
	募集案内チラシ	募集案内チラシ		
	6人 (40.0%)	2 人 (40.0%)		
  開講を何で知ったか	ホームページ			
開講を刊く知りたが	1 人 (6.7%)			
	受講経験者からの情報			
	1 人 (6.7%)			
	家族からの情報			
	1人(6.7%)			
	進路選考の参考 7人	進路と同じ科目分野 2人		
	進路と同じ科目分野 4人	大学の講義を聴講したかったか		
	興味のある科目分野があったか	5 1人		
受講の理由	5 1人	興味のある科目分野があったか		
		5 1人		
		進学希望先のことを知りたかっ		
		た 1人		
	だいたい理解できた 10人	だいたい理解できた 2人		
授業内容の理解	十分理解できた 5人	十分理解できた 3人		
	難しくて理解できない 0人	難しくて理解できない 0人		
	適度な専門性だと思う 14人	適度な専門性だと思う 5人		
授業内容の専門性	専門性が足りない 1人	専門性が足りない 0人		
	専門性が高すぎる 0人	専門性が高すぎる 0人		
テキストや資料の分	難しく内容が理解できない 0人	難しく内容が理解できない0人		

n dut t	よい、よ、、四年のマキュ	0 1	よい、よう、四年できょよ	0 1
りやすさ	だいたい理解できた		だいたい理解できた	0人
	十分理解できた		十分理解できた	5 人
講師の話し方や授業	難しくてわからない	0 人	難しくてわからない	0 人
の進め方についての	だいたい理解できた		だいたい理解できた	
感想	十分に理解できた		十分に理解できた	4 人
板書の文字(大きさ、	見にくく読めなかった	0 人	見にくく読めなかった	2 0人
見やすさ)の感想	見やすかった	6 人	見やすかった	1人
70 ( ) C ) *> %E/E	とても見やすかった	9 人	とても見やすかった	4 人
受講回数	4回 11人 3回	1 人	4回 5人	3回 0人
文 冊 凸 数	2回 3人 1回	0 人	2回 0人	1回 0人
	関心がなくなった	0 人	関心がなくなった	0 人
科目分野への関心	変わらない	0 人	変わらない	0 人
	関心がわいた	15 人	関心がわいた	5 人
	志望分野と一致したか	ら 11 人	志望分野と一致したか	16
BB 3 202 5 25 200 1	やさしかったから	1人		5 人
関心がわいた理由	受講してみて興味がわい	ハたから		
		2 人		
進路を決めるのに参	参考にならなかった	1人	参考になった	5 人
考になったと思いま	参考になった	14 人		
すか	どちらでもない	0 人		
	以前から志望している		以前から志望している	5 4人
県内の大学・短期大		8 人	志望しない	1人
学に進学したいと思	-   志望したいと思うよう!	こなった		
いますか		5 人		
	志望しない	2 人		
		13 人	   土曜日	5 人
開催曜日の希望	集中講義	2 人	集中講義	0 人
	今のままでよい	12 人	今のままでよい	5 人
開催時間帯	他の時間帯がよい	3 人	  他の時間帯がよい	0 人
	長期休業中の集中講義だ		長期休業中の集中講義	
週1回の授業につい	Personal State of Minde	1人	Personal Property and an appropriate to the personal pers	1人
て	今のままでよい	14 人	今のままでよい	4 人
	ちょうどよい	15 人	ちょうどよい	5 人
	思う	9 人	思う	0人
高大連携授業が高校	色 /   思わない	3 人	色 /   思わない	3 人
の単位になればよい	どちらでもよい	1人	どちらでもよい	2 人
と思いますか	わからない	2 人	わからない	0 人
高大連携授業の受講	思う	9 人	思う	1人
			•	
が科目提供大学の単	思わない	1人	思わない	1人

位になればよいと思	どちらでもない	3 人	どちらでもよい	3 人
いますか	わからない	2 人	わからない	0 人
単位認定のためには	<b>お飲けなまわれ</b> い	14 1	試験はかまわない	4 人
試験がありますが、	試験はかまわない	14 人	試験がない方がよい	1人
どう思いますか	試験がない方がよい	1 人		
科目提供大学の単位	<b>三野ナフし田</b> る	11 人	受験すると思う	3 人
を取得した場合、そ	受験すると思う		受験しないと思う	0 人
の大学・短大を受験	受験しないと思う	0人	わからない	2 人
しますか	わからない	4 人		
	・看護はただ、患者さ	んを治療	<ul><li>分かりやすくて楽した</li></ul>	かったし、
	するだけではなく、精	神的ケア	ためになった。	
	や心の癒しなど、深い	ものだと	・実際に志望している	大学の講
	いう事が理解できた。	普通では	義を受けることでこの	大学で学
	体験できない、手術の	衣服を着	びたいと改めて思った	。専門的
	用しよい経験となった	0	な事をわかりやすく学	ぶことが
	<ul><li>とても理解しやすく</li></ul>	、興味が	できたのでとてもたる	めになっ
	わいて知識も増えた。	今後の進	た。	
	路に生かしたい。		・受講してみて福祉について、	
	・先生達の説明がとて	も分かり	前より理解できて良かったと思	
	やすくてよかった。実	習もあり	った。	
	とてもいい時間を過ごすことが・初めて高大連携授業を			を受けて、
	  できた。今回学んだことが将来   大学の授業の雰囲気を		大学の授業の雰囲気を	知ること
	の自分につながるよう	に日々努	が出来た。少し分から	ないとこ
自由記載	力していきたいと思っ	た。	ろもあったが、先生方	がきちん
(抜粋)	・昨年の高大連携授業	にも参加	と説明してくださった	ので、良
	し今年も参加してみて	、やはり	かったと思う。今後、	このよう
	進路に役立つと思った	こ。来年も	な授業があったら積極	的に参加
	高大連携授業が秋田看	護福祉大	していきたい。	
	学であるなら参加した	٧١ <sub>°</sub>	・進学を考えていた大	学の授業
	・昨年に引きつづき受	講した。	を受けることができた	のでとて
	いつもやさしく笑顔で	授業をし	もよい機会になった。	実際に授
	て下さる先生方のおか	げで 1 度	業を受けてみて、今ま	でよりも
	も欠席することなく楽	としく時間	希望していた分野への	関心が高
	を過ごすことが出来た	。高校で	まった。	
	やっている課題研究の	材料にな		
	ることや、進路を大学	か専門か		
	迷っている中で考えさ	せられる		
	ことも多く、受講して	良かった。		
	進路のために自分の力	をふりし		

ぼろうという活力にもつながっ	
た。また機会があったら必ず参	
加したい。	
・初めて高大連携授業を受講し、	
初めは不安で難しいのかなと思	
っていたが、参考資料やスクリ	
ーンを使った、ていねいでわか	
りやすい授業だったので、理解	
しやすかった。	

# B 高校への出張講義

高校生の看護・福祉の理解のため、秋田県内の高校生を対象とする「出張講義」を行っている。平成27年度テーマは次のように設定し、高等学校からの要請に応じて実施した。

# ◆看護学科

No.	テーマ	担当教員
1	安全な医療をするための看護職の役割	小畑千春 助教
2	お家で看取ることの大切さ	用浬茄乙 業品
2	-家族に見守られて-	黒澤繭子 講師
3	大学で看護を学ぶということ	水木暢子 教授
4	あなたの命を助ける救急看護	水木暢子 教授
5	癒しの技法-リラクセーション効果-	今野 修 講師
	友達とお話していますか?家族とお話し	
6	ていますか?	黒澤繭子 講師
	ーコミュニケーションの大切さー	
7	出産の喜び -生命の誕生と命の尊さ-	大瀬富士子准教授
8	認知症高齢者を支えるために	田口牧子 教授
0	-高校生にできること-	日日仅于 教授
9	保健師の仕事ってなあに?	日景真由美准教授
10	糖尿病は怖い病気?	佐藤純子 准教授
11	デート DV とは	岩間 薫 教授
11	-大切な人を守るために-	岩間 薫 教授

# ◆福祉学科

No.	テーマ	担当教員
1	福祉ってなあに?	柴田 博 教授
2	被災者支援とボランティア活動	吉田守実 講師
3	心をアートで表現する	駒ヶ嶺裕子助教
4	認知症予防のために	庄司光子 講師
5	高齢者を介護する方法	工藤 久准教授
6	人生の最後を幸せに過ごす方法	工藤 久准教授
7	自分の地域を知ろう	関口麗子 講師
8	障碍者のための車椅子の正しい使い方	石岡和志 講師
9	障害者のスポーツについて	早川 明 助教
10	社会福祉の仕事とは	白男川 尚講師

# ◆出張講義の実績

年 月 日	テーマ	会場	講師
•	,	7 W	DIA Fuls
平成 27 年	友達とお話していま		
10月19日	すか?家族とお話し		
	ていますか?-コミ	明桜高校	黒澤繭子 講師
	ュニケーションの大		
	切さー		
11 🛭 11 🖂	保健師の仕事ってな	<b>#松台长</b>	口見古山美州教授
11月11日	あに?	花輪高校	日景真由美准教授
11月11日	自分の地域を知ろう	花輪高校	関口麗子 講師
11 日 11 日	安全な医療をするた	花輪高校	小畑千春 助教
11月11日	めの看護職の役割		/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /
	認知症高齢者を支え	角館高校	
11月25日	るために - 高校生に		田口牧子 教授
	できること -		
11月30日	被災者支援とボラン	明桜高校	吉田守実 准教授
11月30日	ティア活動		百四寸美 催教技
12月 3日	出産の喜び - 生命の	秋田修英高校	大瀬富士子准教授
12月 3日	誕生と命の大切さ -		八
1月19日	被災者支援とボラン	大館桂高校	吉田守実 准教授
	ティア活動		口川小天 任教授
1 1 10 1	安全な医療をするた	大館桂高校	小畑千春 助教
1月19日	めの看護職の役割		/ 小畑   住 -

# ◆その他の出張講義実績

年 月 日	内容	会場	講師
平成 27 年	平成 27 年度高校生福	秋田県北部老人福祉総合	
7月24日	祉の進路ガイダンス	エリア	工藤久 准教授
	高校生福祉セミナー		
	平成 27 年度高校生福	秋田県南部老人福祉総合	
7月28日	祉の進路ガイダンス	エリア	関口麗子 講師
	高校生福祉セミナー		
	平成 27 年度高校生福	ウェルビューいずみ交流	
7月30日	祉の進路ガイダンス	プラザ	吉田守実 准教授
	高校生福祉セミナー		
	模擬講義	秋田県立大館国際情報	畠山禮子准教授
12月9日		学	吉田守実准教授
		院高等学校	百四寸美性教技
平成 28 年	大学模擬講義	秋田県立十和田高等学	佐藤純子准教授
2月25日		校	在療施丁性教技
3月15日	大学模擬講義	秋田県立小坂高校	高山新吾助教

# ◆高校等進学説明会での出張講義実績

年月日	会場	講師	年月日	会場名	講師
平成 27 年	秋田県立秋田	佐藤純子	11月12日	秋田県立大館桂	千葉孝子助教
6月10日	北鷹高等学校	准教授		高等学校	
9月17日	秋田県立大館	大瀬富士子	11月26日	秋田県立能代松	大瀬富士子
	高等学校	准教授		陽高校	准教授
10月29日	秋田県立大館	田口牧子教授	11月11日	秋田県立秋田北	今野修講師
	桂高等学校			鷹高等学校	

# C オープンキャンパス模擬授業

	月日	テーマ	講師
		包帯の巻き方を学ん	看護学科
亚战 97 年度	平成 27 年	でみよう	黒澤 繭子 講師
平成 27 年度 第 1 回	6月27日(土)	福祉のプロフェッシ	福祉学科
		ョナル、社会福祉士	吉田 守実准教授
		を考える	
		赤ちゃんの不思議	看護学科
第 2 回	8月2日(日)		大瀬富士子准教授
		「社会福祉」白熱教	福祉学科

		室	白男川	尚 講師
		-人に伝えること-		
		「口から食べる」っ	看護学科	
555 A 1	平成 28 年	て、どんなこと?	千葉	孝子 助教
第 4 回	3月19日(土)	私たちの生活と社会	福祉学科	
		福祉制度の関わり	吉田 5	宁実准教授

### D 入学前教育

- ◆平成28年度入学生「入学前プログラム」
- ・目的:①入学予定者が高校までの学習の成果を踏まえて大学入学後の学習内容である医 療や看護・福祉の専門的事項に親和性を持つ。②大学の学習の基本となる自分で調べる 主体的な学習の準備段階を形成する。③課題内容を理解し、自分の意見をまとめて表現 することで大学における学習の動機付けとする。
- 対象者:AO 入学試験・推薦入学試験による入学予定者
- 担当: 教務委員会
- ・平成27年12月下旬、推薦入学予定者に高校のクラス担任を通して課題を郵送する。
  - ①学科共通の課題:新聞記事による事前学習

新聞記事の中の専門用語を調べ、感想文を提出する。

- ②看護学科:理系(生物1、化学1)の課題に対するレポート提出。
- ③福祉学科:社会系科目(政治、経済、社会)の課題に対するレポート提出。
- ・平成27年2月下旬、入学予定者は課題レポートを本学に提出する。
- ・平成 27 年 3 月上旬、本学教務委員会教員が課題レポートを添削し、アンケート用紙と 一緒に高校を経て入学予定者に郵送する。
- ・高校のクラス担任にアンケートを実施する。

<平成27年度「入学前プログラム アンケート」結果>

## <評価尺度>

5:強くそう思う 4:そう思う 3:どちらともいえない

2:あまり思わない 1:全く思わない

質問	入学予定者	高校担任教師
質問	(N=33、回収率 90.9%)	(N=16 回収率 93.8%)
今回の事前学習は		
あなたにとって有	4.67 (前年度 4.66)	4.67(前年度 4.73)
益でしたか		
この事前学習は今		
後の大学の授業を	4.43(前年度 4.66)	4.47(前年度 4.47)
理解する上で効果	4.40 (刑 十段 4.00)	4.41 (刊中/支 4.41)
的と思いますか		

今回の事前学習に		
おいて自分で積極	4.37(前年度 4.34)	4.33(前年度 4.53)
的に取り組んだと	4.37 (刑干及 4.34)	4.55 (前午及 4.55)
思いますか		
本学教員による添		
削指導はよく理解	4.43(前年度 4.63)	4.36(前年度 4.29)
できましたか		
	事前学習をやってみて自分で	レポートを書くことに慣れていない生徒が多
	調べることの大切さを理解し	い中、丁寧に添削していただき、ありがとう
	ました。まだ、深く調べること	   ございます。高校では受身の学びが多く、自
	   に慣れていないと感じました。	│ │ ら考える機会を与えてもらって感謝しており
	これからやるから大丈夫と思	ます。
	わず、少しずつ今からできるこ	│ │1 人遅れて提出してしまいご迷惑おかけして
	とをやっていきたいと思いま	   大変申し訳ありませんでした。
	す。	今後ともどうかよろしくお願いいたします。
	^。   添削によって気づくことが多	遅れて申し訳ありません。事前学習をやって
	くあったので、為になりまし	頂きありがとうございます。○○はいい生徒
	た。専門用語を調べることで大	です。少々座学が苦手かなとは思いますが、
	学の勉強が楽しみになりまし	文化祭実行委員など精力的にこなす、人の為
	た。	に何かするとき先頭に立つ人物でした。今後
		とも何かありましたらご指導をよろしくお願
		いいたします。
感想・意見	今まで指摘されなかったこと	丁寧なご指導ありがとうございます。
	を知り、自分の足りない部分が	進学した生徒は、何事にも熱心な生徒で、こ
	見え、とてもためになりまし	のプログラムに取り組むため、自宅から離れ
	た。特に作文指導がありがたか	た県立図書館にも足を運んでいました。
	ったです。	今後もどうぞよろしくお願いします。
	今回のプログラムで、専門用語	進学が決まって、気持ちが緩む3学期にこの
	を調べたり、調べたことについ	ような、自分で取り組め、かつ、将来の学び
	ての感想を書くことで、少しで	に結びつくような課題を出してくださること
	すが看護の専門的なことを知	は非常にありがたかった。生徒も興味を持っ
	ることができたので良かった	て取り組んでいたようだ。
	です。	
	学部共通プログラムの方では、	大変ありがたく拝見しました。〇〇、〇〇は
	あんなにテーマがあると思わ	高校在学時から他の模範となる努力家で、○
	ずテーマを決める所から迷っ	○と○○はマイペースながらも、結果を出そ
	た。学科別プログラムは、レポ	うと努めるタイプでした。このプログラムを
	ートにまとめる大変さが分か	   受けて彼女たちはより、やる気を出したに違
	り、内容も今後に生かせると思	いありません。お手数をおかけしましたが、
		1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2

い、とても良かった。 彼女達のために丁寧にご指導してくださりあ りがとうございました。今後ともよろしくお 願いいたします。 資料が見つからなくて調べる 今後とも○○高校の生徒をよろしくお願いい のが大変でした。(特に化学) たします。 科学、生物の課題が与えられた 卒業生がお世話になります。 ことにより、履修をしていなか 自立した生活が送れるかが心配ですが、よろ った生物が特に、一から学ぶこ しくお願い致します。心のこもった添削に生 とができたので、とてもこのプ 徒の大学で学ぶ事への期待がふくらみまし ログラムが有益なものとなり た。ありがとうございました。 ました。 添削を見て、勉強不足だと改め 大変お世話になっております。 て感じることができました。 正直なところ〇〇君が入学前プログラムを終 貴学へ入学するまで、勉学にも えていたものか心配しておりました。用語調 励んで行きたいです。 べや感想を確認して胸をなでおろしました。 ○○君が貴学で本気になって資格取得等、勉 強に取り組み成長してくれることを願いま す。ご指導よろしくお願いいたします。 ニュースなどで社会問題など ありがとうございました。 よく聞いていたが、あまり詳し ○○をよろしくお願いします。 いことは知らなかったので今 回、多くのことを知りこれから 役立てていきたいと思う。 推薦入試合格後も勉強を怠ることなく、入学 前プログラムに意欲的に臨んでいました。疑 事前学習を行うにあたって、 問点は理科教員に質問して納得するなど、一 色々な用語を調べ知る事がで 生懸命取り組んでおり、プログラムを完成さ きました。深く調べる事で、こ せること以上に、大学での学習意欲や看護師 れからの事, 今までの事、私た になりたいという想いがより強まったと思い ちがこれから大人になってい ます。センター試験前は両立に大変そうでし くうえで、大切な事が、たくさ たが、レポートを拝見し頑張ったと思います。 ん勉強できました。 細やかな添削指導ありがとうございました。 今後ともよろしくお願いいたします。 生徒自身が自分なりに精一杯課題に取り組ん 入学前にこれから大学で学ぶ でいました。提出前に、これで大丈夫かと持 福祉について再認識できまし ってきて見せてくれました。他にも学科試験 た。まだまだ未熟な私ですが、 を課された生徒と並べるよう、課題はもっと ご指導よろしくお願いします。 多くやらせていただいてもかまいません。ご

指導ありがとうございました。今後もよろし

	くお願いします。
課題がたくさんあって大変で	
したが自分の知らなかった事	
を知ることができたので為に	
なりました。	
言葉は聞いたことはあるけど	
普段はあまり気にかけていな	
かった物事について調べ、福祉	
の現状を知り、今後必要になっ	
てくることについて知ること	
ができ良かったです。	
入学前に専門用語などを調べ	
る事ができ、良い勉強の機会に	
なった。	
全ての文章に添削がしてあっ	
たので、とても参考になりまし	
た。今後も、合格者への課題は	
継続して出して欲しいと思い	
ました。	
学校での文集作業等が忙しく	
て取り組むのを怠ってしまい	
ました。入学してからは遅れな	
いように頑張ろうと思います。	
とても大変でした。	
特にありません。	

### [改善・向上方策 (将来計画)]

本学が提供している「出張講義」と高校や団体からの要請による「講義」、高大連携授業、オープンキャンパスでの「模擬授業」等により、高校生の看護職、福祉職に対する理解が徐々に深まり、本学に関する情報も伝わっていると感じられる。高校の行事等により、参加人数が限られることが課題である。本学を会場とする場合、本学の施設を知り、雰囲気等を感じることが出来ることが利点である。開催時期の検討や広報活動を充実させ、更に魅力ある講義を展開することで、参加人数を増やしたい。

「大学コンソーシアムあきた」事業への参加者はそのほとんどが県北の高校生である。 距離的に秋田市で行われる行事には参加しにくいことから、本学での実施は、県北の高校 生にとっても有意義であると思われる。また、秋田市や県南から本学へ受講しに来る高校 生もあり嬉しい限りである。看護や福祉の理解、大学の授業体験として貴重な機会であり、 今後も内容の充実を図った上で地域にアピールし、本学を理解していただく機会を増やす。

## (2) 入学後の学修支援体制

### ◆クラス担任

本学はクラス担任制をとっている。1クラスが看護学科 60人前後、福祉学科 35人前後であり、担任の教員は1人である。3年次・4年次では看護研究・ゼミ担当教員が学生 5人前後を受け持ち、クラス担任との協働で学生の支援を行っている。

### クラス担任 指導マニュアル

#### 1) クラス担任の役割

- (1) クラス担任は各学年に1名配置され、原則4年間継続して担当する。
- (2) 学生の学修や生活面の指導、就職支援などの相談に主体となって応じる。
- (3) 1~3年次では、成績や出席状況、生活面などで指導を要する学生に対して随時面接や指導を行う。
- (4) 3 年次からは卒業研究(ゼミナール)担当教員が主体となって学修や生活面の指導に加えて就職支援 や国家試験対策を行う。そのため、クラス担任は卒業研究担当教員と連絡をとりあい、協力体制を とって学生への指導にあたる。
- (5) 学科長、教務委員会、学生委員会、就職委員会等に所属する教員は教務や学生生活、就職支援などについて協力体制をとる。また、単位未修得や欠席日数の過多など進級・卒業に関わる問題が生じた際は関係教員と協力し、学生や保護者との面接等連絡調整を行う。
- (6) 学修面では各教科担当教員と協力体制をとる。
- (7) 必要時、学科会議で学生の近況報告や対応についての相談をする。
- (8) 保護者との連絡・調整などを主体となって行う。

#### 2) 学生との面接について

(1) 面接時期・主な内容

学年	面接時期	主な面接内容
1年生	5月	学修や生活面
2年生	①5月	学修や生活面
2年生	②2月	資格取得の選択
	①4・5月	資格取得の選択
3年生	②11 月以降	学修・生活面・就職・進学・国家試験対
		策
4年出	適宜	学修・生活面・就職・進学・国家試験対
4年生	(各ゼミ担当教員が主体となるため)	策

- (2) 学生1名について15~20分程度の面接とする。
- (3) 所定の様式に基づいて (教務委員会から配布) 面接の内容を記録し、厳重に保管する。
- (4) 随時、個別の相談に応じる。内容によるが時間は最長1時間を目安にする。
- (5) 担当する学生に学業継続が困難となる問題が生じた場合(単位取得不十分・出席日数不足・授業料滞納他)は、学生本人とクラス担任による面接はもちろん、必要に応じて保護者・学長・学科長・教務委員長・事務担当者らとも時間等を調整して面接を行い、今後の方針・対応について検討する(特に2年生から3年生への進級の際)。

## 3) クラス担任の引きつぎ (担任が交代する場合)

年度末に前年度までのクラス担任が次のクラス担任へ、学生指導の内容・面接の方法などについて、

記録を参照しながら要点の申し送りを行う。面接の記録などはそのまま次のクラス担任が引き継ぎ、管理する。

## ◆TA (Teaching Assistant)

非常勤講師の教材準備等は教務事務室の職員が行っている。また、「情報処理演習」では 専門職員が教員と共に学生の指導に当たっている。看護学科の病院及び施設等での実習に おいても、専任教員の他に実習補助者が指導に当たり、専任教員を支援している。福祉学 科では、「介護技術」の演習には補助者が指導者を支援する体制にしている。

### ◆履修登録指導

学生の履修登録・単位取得への支援は教職員の協働で行っている。特に資格取得に伴う 履修科目の登録は複雑なため、ガイダンスにおける学生全体への説明の他に、教務委員会 の教員、学務課職員、クラス担任により、繰り返し説明と相談が行われている。

履修登録は通常、次のような手順で行っている。

①履修ガイダンス(履修についての説明)⇒②履修届出用紙への記入→学務課へ登録 ⇒③学務課から学生へ履修確認表を配布 ⇒④履修の修正申請・再登録

### ◆1年間に履修する単位の上限

原則として 60 単位を上限とする。国家試験受験資格を得るために 60 単位を超えることがあるが、その場合はクラス担任や教務委員会委員が相談に応じ、なるべく過剰な負担とならないようにする。

### ◆学生指導記録

クラス担任、ゼミ担当教員、事務職員など、すべての教職員は学生指導記録(様式を統一)を作成し、年度末に事務部学務課に提出する。この記録はクラス担任引継ぎ等に利用される。また、その保管および使用に際してはプライバシーの保護に留意する。

(秋田看護福祉大学ホームページ、「入学前プログラム」に関する資料、大学コンソーシアム秋田ホームページ)

## [改善・向上方策(将来計画)]

本学はクラス担任制をとり、ゼミ担当教員と共に「face to face」を合言葉に、学修・生活・就職にきめ細かい支援体制をとっている。学生と教職員とのコミュニケーションも良く、学生との定期的な個人面談や授業等を通して教職員の気になる情報は学科ミーティング等で共有され、適切な対応を素早くする体制が作られている。学生同士、学生と教職員のコミュニケーションは学生にとって精神的なよりどころになっている。近年は学納金の延滞希望者が増加傾向にあり、経済的理由で勉学の継続が困難になる場合が出てくることも考えられるため、奨学金制度の利用など経済的支援に関しての対策は今後も十分に行っていく。

## 4. 単位認定・進級要件・実習履修要件

### (1) 成績評価と単位認定

学業成績は定期試験だけではなく、臨時・中間試験、論文、レポート、出席状況、学習態度等の結果に基づいて授業担当教員が総合的に判断する。シラバスには各科目担当教員の成績評価方法が記載されており、次の基準で評価され、評価 C 以上で単位が認定される。評価 D の場合は再履修となる。

AA: 100点~90点 A: 89点~80点 B: 79点~70点

C: 69 点~60 点 D: 59 点以下

成績評価の方法は学則及び学生便覧に明示している。出席確認は全科目で行われており、 そのことが、早い段階での個々の学生への細かい指導に結びついている。

前期・後期ともに追試験、再試験を行うことがある。追試験はやむを得ない事情によって試験を受けられなかった者に対して、その理由を証明する文書を添えて願い出た場合に限り実施を認めている。再試験は所定の試験を受験したが、単位を認定されなかった学生を対象に実施されることがある。

成績評価の結果は毎年前期と後期に学生に通知すると共に、保護者に対しても前期・、後期に学生の「成績通知書」を送付している。成績不良の学生には、クラス担任や科目担当教員が個別に指導している。

また、成績評価には GPA (Grade Point Average) 制度を導入し、毎学年末で算出した 結果を成績優秀者の表彰、履修制限助産科目履修者の選考などに利用している。

### (2) 進級要件

両学科とも3年次に進級するためには、2年以上在学し、原則として2年次までに修得すべき必修科目をすべて修得していることが必要である。

### (3) 実習履修要件

各学科の専門科目に配当されている「実習科目」を履修するために必要な要件は「秋田 看護福祉大学看護学科実習科目履修要件」および「秋田看護福祉大学福祉学科実習科目履 修要件」の通りとなる。

## (4) 卒業試験・卒業率

卒業試験に合格することは、看護学科は「看護実践総合演習(卒業試験を含む」(平成 27 年度卒業生)、福祉学科は「ゼミナールⅢ(卒業試験を含む)」の単位認定の条件になる。 両学科における平成 27 年度の卒業率は 100%であった。

## (5) 卒業要件単位数

(平成27年度以降の入学生)

豆 八	看護学科	福祉学科
区分	単位数	単位数
教養科目	17単位	2 2 単位
総合科目	1 4 単位	1 4 単位
専門基礎科目	20単位	
専門科目	7 4 単位	88単位
合 計	125 単位以上	124 単位以上

- ◆国家試験受験資格取得のための履修単位(卒業要件単位数を含む)
  - ・平成27年度以降の入学生の場合

[看護学科]

## 「福祉学科]

資格	単位数	資格	単位数
看護師	125 単位以上	介護福祉士	124 単位以上
看護師・保健師	143 単位以上	社会福祉士	124 単位以上
看護師・助産師	142 単位以上	精神保健福祉士	124 単位以上
		社会福祉士	129 単位以上
		精神保健福祉士	129 单位以上
介護福祉士			165 単位以上
社会福祉士			100 单位以上
介護福祉士			165 単位以上
精神保健福祉士			100 单位以上
介護福祉士			
社会福祉士			199 単位以上
精神保健福祉士			

## (6) ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

### ◆ディプロマ・ポリシー

秋田看護福祉大学は、所定の単位を修得することにより、次に示す能力を持つことを保証し、卒業を認定して学位を授与する。

- 1) 幅広い教養と人権や生命の尊厳への深い理解、豊かな人間性を涵養する姿勢
- 2) 問題をみつけ、論理的、科学的に思考し、解決方法を考え、表現する力
- 3) 自分で考え、判断し、倫理観を持って主体的に行動する能力
- 4) 専門領域の基礎・基本を身につけ、向上心を持って生涯学び続ける姿勢
- 5) 専門職者としての知識と技術を身につけ、それらを実践的に統合し、応用する力

#### ◆学位

本学に4年以上在学し、卒業所要単位数を取得した者に、次の学位を授与する。

看護福祉学部看護学科 学士(看護学)

福祉学科 学士(社会福祉学)

(秋田看護福祉大学学則第35条)

本学は平成17年の開学以来、GPAを活用している。学業奨学金、卒業式の表彰、就職試験の推薦、助産師科目や保健師科目の履修者の選抜など、学生の成績の比較はすべてGPAによる。表彰者の選定には成績に人物評価や面接結果なども加味している。

卒業判定については単位取得状況を教務委員会で検討し、さらに教授会で判定した結果を参考に理事長が認定する。実習を履修する要件や3年生への進級要件が定められているため、3年生への進級も教務委員会で検討し、教授会に諮られる。また、単位認定は「秋

田看護福祉大学教育綱領」に定められているように、厳密に行われている。卒業判定教授会で卒業を認められた学生は「ディプロマ・ポリシー」に沿った能力を修得し「学士」として卒業することになる。本学は卒業試験を課しており、合格しなければ、卒業はできない。

(秋田看護福祉大学学則、秋田看護福祉大学学位規程、秋田看護福祉大学履修内規、秋田看護福祉大学看護福祉学部看護学科実習科目履修要件、秋田看護福祉大学看護福祉学部福祉学科実習科目履修要件、秋田看護福祉大学助産師科目の履修に関する内規、秋田看護福祉大学保健師科目の履修に関する内規、秋田看護福祉大学「学生便覧」、秋田看護福祉大学ホームページ、秋田看護福祉大学教育綱領)

## [改善・向上方策 (将来計画)]

本学では2年次までの必修科目の単位取得状況により3年次への進級が審議される。未 修得単位科目が少なく、時間割により3年次履修可能である場合には仮進級となる場合も ある。実習の履修において、病気による欠席の場合は補充実習を行っている。補充実習は 実習施設の多大な協力で行われている。

ディプロマ・ポリシーは平成 24 年 11 月の制定であり、学生便覧には平成 25 年より掲載された。在学生への周知はガイダンス等を通じて教育方針とともに繰り返し伝えていくよう努めている。

福祉学科では近年、勉学意欲の低下や体調不良による休学が目立つ。復学する場合もあり、退学に至らないように支援する。今後、経済的理由による退学が出ることが推測されるため、入学式後の保護者への説明や保護者懇談会は勿論、クラス担任やゼミ担当教員は学生および保護者と密接に連絡を取り合い、相談に乗る必要がある。また、奨学生募集の際の学生との面接では、生活指導と共に、奨学金の使用目的に関する指導も必要である。

## 5. 就職支援

本学の就職支援活動は、就職委員会と就職に関する窓口である事務部学務課就職係が主体となって行なっている。今年度は本学中期5か年計画に基づき、就職事業及び個別指導の強化に取り組んだ。学生の就職相談および就職試験を受ける学生への面接指導や履歴書の書き方等についてクラス担任やゼミ担当、就職委員会の教職員がこれまで以上に指導の回数を増やし、教職員の連携の下できめ細かく丁寧に対応している。

学生の就職活動状況を迅速に把握することは、その後の対応においても非常に重要である。本学では教員(クラス担任、就職委員会、ゼミ担当教員等)と就職係の事務職員が相互に連携を図りながら、協働で就職活動状況を把握し、迅速な学生支援を行っている。最終的には学科ミーティングおよび教授会において全学の就職状況を把握できる。

平成 24 年度後期からは就職支援活動への参加率の向上、働くことの意識づけ、職業観の確立を目的に、3 年生の時間割に「就職ガイダンス」の時間を設けた。他の学年の学生も出席が可能である。 その中で学生は就職についての心構えなどを学び、先輩や教職員、そしてハローワーク職員からの講話や指導を受けている。また、学生は就職資料室や就職係からの情報を得て、自主的・積極的に就職活動を行っている。インターシップは学生が自ら申し込むが、大学への届出が必要である。学生からの就職に関する相談には就職委員会、クラス担任、ゼミ担当教員、事務部就職係が対応している。

平成 26 年度からは就職ガイダンスの項目毎にアンケートを施行し評価した。学生からは「就職は漠然としていたが実感がわいてイメージが膨らんだ」「仕事に就くとはどういうことなのか改めて考える機会になった」「就職はゴールではなくその後の方向性も定めて考えなければいけない」「看護学科、福祉学科両学科の学生の意見等が聞けて勉強になる」「卒業生が訪問してくれて講話してくれる大学っていい」「就職直後や就職して 2・3 年目のことが聞けて自分が働いたときについて思い描くことができた」等、就職活動に関しての学びや感想が述べられており、有意義な就職ガイダンスとなった。また、学生の疑問に対しては、翌週の就職ガイダンスの時間および掲示を利用して回答し、フィードバックを行った。

# (1) 就職ガイダンス

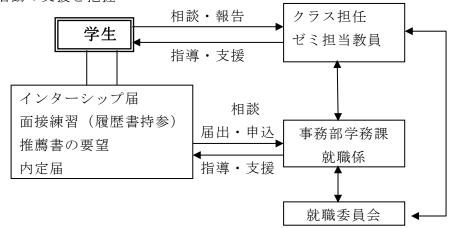
◆平成27年度後期 3年次「就職ガイダンス」の内容(1・2年生は希望者が受講)

		タンハ」の内谷(1・2 中生は布宝石が支講)
回数	項目	担当者
	就職ガイダンスの説明	就職委員会委員長(小玉光子)
1	就職活動の流れについての説	就職副委員長 (関口麗子)
1 I	明、就職支援ガイドブックの	
	配布、就職登録	
		ハローワーク大館企画開発部上席職業指
2	講座「就職に関する心構え」	導官
		岡本英樹氏
	講座「履歴書の書き方」	ハローワーク大館 学卒ジョブサポータ
3		<u> </u>
		畠沢貢氏
4	講座「身だしなみ」	洋服の青山 大館店店長 岩淵貴信氏他
-	4年生内定報告会	看護学科 4 年生: 4 人
5		福祉学科 4 年生: 5 人
		講師:学内教員
6	講話 「職に就くこと」	看護学科:今野修 先生
		福祉学科:駒ヶ嶺裕子 先生
7	個人登録票下書き①	看護学科・福祉学科 3年生
8	個人登録票下書き②	看護学科・福祉学科 3年生
	卒業生講話	看護:伊藤沙也香氏(秋田労災病院整形外
9		科病棟)
		福祉:高橋あきほ氏(岩手医科大学附属病
		院医療福祉相談室)
		マイナビ就職情報事業部企画広報統括部
10		北東北キャリアサポート課エリアマネー
10	講座「小論文の書き方」	ジャー
		吉田理恵氏
		ハローワーク大館 学卒ジョブサポータ
11	面接講座「面接の仕方」	<u> </u>
		畠沢貢氏
12	面接講座「模擬面接」	ハローワーク大館 三浦千秋氏
13	個人登録票清書	まとめ

## (2) 就職支援活動

	活動	内 容
4 月	新入生向け	新入生研修会で就職委員会からの説明
4 月	就職支援	
		看護学科は3・4年生全員の参加(1・2年生は希望者)、
5 月	合同就職面談	福祉学科は希望者が参加する。全国約 60 病院の関係
<b>3</b> A	会	者との直接面談。参加病院へは就職活動等に関するア
		ンケートを実施した。
6月~	4年生向け	就職係による就職相談、「履歴書」等の書き方指導、
6月1	就職支援	面接指導、インターシップ届出
	3 年生対象就	「就職に関する心構え」(外部講師)・「職に就く事」(本
	職ガイダンス	学教員)の講話、「就職ガイドブック」の配布
10 月		就職に関する心構え (ハローワーク)、履歴書の書き
		方 (ハローワーク)、身だしなみ講座 (洋服の青山)
		4年生による就職内定報告会
   11 月	3 年生対象就	「職につくこと」(学内教員による講話)
11 /1	職ガイダンス	個人登録票下書き
12 月	3 年生対象就	卒業生講話
14 月	職ガイダンス	小論文の書き方(マイナビ)
1月	3 年生対象就	面接の仕方 (ハローワーク)
工月	職ガイダンス	模擬面接 (ハローワーク)
通年	個別対応	個人登録票清書

## ◆就職活動の支援と把握



## (3) 合同就職面談会における病院関係者へのアンケート結果

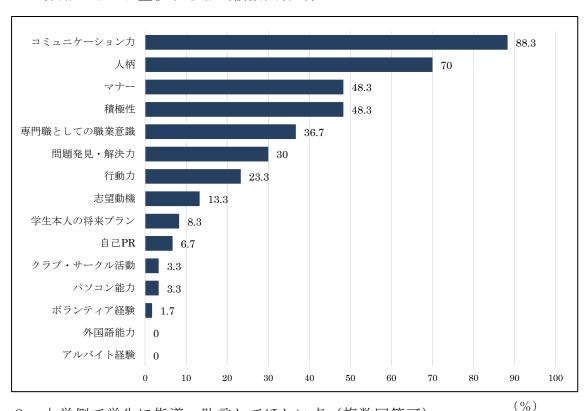
平成27年5月16日(土)、「大館市プラザ杉の子」で行われた本学主催の合同就職面談会には秋田県はもとより、青森県、岩手県、宮城県、山形県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県から60の病院が参加した。看護学科4年生および3年生は全員参加であり、看護学科1年生・2年生と福祉学科の学生は任意参加であるが、本年度は福祉学科

の4年生も全員が参加した。参加病院側にはあらかじめ福祉職の求人の有無を問い合わせており、福祉学科の学生は求人のある病院のブースを中心に訪問した。

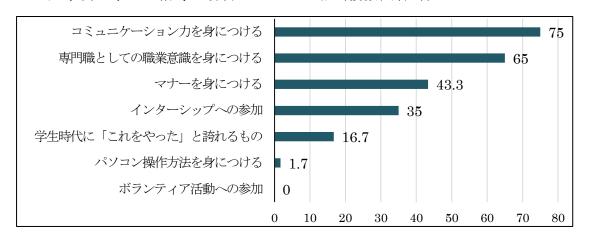
学生は平均 5 ヶ所のブースを訪問し、熱心にかつ礼儀正しく面談が行われた。その際行った参加病院へのアンケート調査の結果、採用にあたって最も重視するのは「コミュニケーション力」であった。次いで「人柄」であり、さらには「積極性」や「専門職としての職業意識」など、主体的に行動する人材を求めていた。本学のカリキュラムはその点をふまえ、「コミュニケーション」に関する科目を設定し、グループワーク形式の授業を取り入れている。また、参加病院へのアンケート調査で、その他のご意見・要望欄には、学生の接遇マナーの良さや礼儀正さ等の評価が列挙されていた。

## 病院関係者からのアンケート結果 回収率 91.4% (53/58)

1. 採用にあたり重視する点(複数回答可)



2. 大学側で学生に指導・助言してほしい点(複数回答可)



(%)

5 2

## (4) 働くことの意識づけ、職業観の確立のために行っていること

- ・入学時研修会:学生生活で何に力を入れて成長していくかを認識する。
- ・クラス担任:1年次5月に行う個別面接において、卒業後の進路についての意識を持つよう指導する。以後、随時面談を行う。
- ・早期体験実習(看護学科):1年前期に病院での実習を行う。看護職の業務・役割を知り、 看護の重要性を認識する。
- ・合同就職面談会:病院の就職担当者との直接面談をする(看護職、福祉職)。
- ・就職ガイダンス:教員、外部講師、卒業生、内定した4年生等により行われる。
- ・特別講演:看護職・福祉職を目指す学生の見識を拡げ、意識の高揚を図ることを目的とする。

## (5) 就職・進学先

(平成28年3月卒業生)

## <看護学科>

~11 受于付	
北海道	独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター
	社会医療法人母恋天使病院
青森県	青森県立中央病院
岩手県	岩手県医療局職員
宮城県	独立行政法人地域医療機能推進機構仙台病院
	地方独立行政法人宮城県立病院機構
	東北労災病院
	地方独立行政法人宮城県立こども病院
	財団法人厚生会仙台厚生病院
	国家公務員共済組合連合会東北公済病院
	財団法人厚生会仙台厚生病院
秋田県	大館市病院職員
	秋田大学医学部附属病院
	市立秋田総合病院
	JA 秋田厚生連
	社会医療法人明和会
	独立行政法人地域医療機能推進機秋田病院
	独立行政法人労働者健康福祉機構秋田労災病院
	地方独立行政法人秋田県立病院機構
	羽後町職員
山形県	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
埼玉県	医療法人財団健和会みさと健和病院
千葉県	東邦大学医療センター佐倉病院
	社会医療法人木下会千葉西総合病院
東京	東邦大学医療センター大橋病院

	東邦大学医療センター大森病院
	東京慈恵会医科大学
神奈川県	学校法人北里研究所北里大学病院・北里大学東病院
	東海大学医学部附属 4 病院
	公立大学法人横浜市立大学附属 2 病院
	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
	社会福祉法人親善福祉協会国際親善総合病院
	医療法人社団三善会鶴巻温泉病院
	国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院
愛知県	医療法人名南会明南病院

# <福祉学科>

<偏低字科	
青森県	社会福祉法人宏仁会
	医療法人幸仁会高松病院
	社団法人慈恵会
岩手県	岩手県社会福祉協議会
	社会福祉法人岩手県社会福祉事業団
	社会福祉法人麗沢会
宮城県	医療法人菅野愛生会緑ヶ丘病院
	社会福祉法人幸生会
秋田県	社会福祉法人にかほ市社会福祉協議会
	社会福祉法人秋田県社会福祉事業団
	社会福祉法人大館圏域ふくし会
	社会福祉法人能代ふくし会
	社会福祉法人比内ふくし会
	医療法人社団薫風会象潟病院
	社会福祉法人秋田県民生協会
	社会福祉法人慈泉会
	JA 秋田厚生連
	社会福祉法人大館市社会福祉事業団
	医療法人三愛会こころのクリニック
	社会福祉法人大仙ふくし会
	社会福祉法人いずみ会特別養護老人ホーム リンデンバウムいずみ
	社会福祉法人縄文の杜
	社会福祉法人花輪ふくし会
	医療法人惇慧会外旭川病院
	医療法人急盛会秋田緑ヶ丘病院
東京	社会福祉法人池上長寿園
·	

神奈川	社会福祉法人若竹大寿会
	医療法人平成会
	海上自衛隊

### 「改善・向上方策 (将来計画)]

本学の就職率は開学以来 100%を維持している。これは看護職・介護職という求人の多い分野であることから必然的と思われがちであるが、そこに至るまで(学生の希望に沿う就職先をみつけて決定するまで)、ハローワークなどの協力を得て充実した支援を行っているからである。本学の個性・特色である"Face to Face"は教職員と学生との信頼関係に基づいた密接な関係を作り出し、病院・施設からの信頼に繋がっている。実習先からの求人もある。学生には単に内定を得るための就職対策ではなく、将来魅力的な一職業人として働いて行くために、大学で何を学ばなければならないのかを考える機会を持たせる必要がある。そのため「職につくこと」と題して学内の教員を講師として講話を行っている。

また、低学年に対しても、働くことの意識づけ・職業観の確立を図るために、1年次から担任による個別面談時に卒業後の進路への意識を持たせることなどを行っている。さらに、新入生研修会では大学生活でどのようにして自身の成長を図っていくのかということを考えさせる機会を設けた。例えば、自己 PR できること(趣味・得意分野・社会活動ボランティア・サークル活動・学生会など)を1年次より積み重ねていくこと、就職試験対策としてだけではなく、時事問題に興味を持ち、教養の幅を広げることや自己を見つめる機会などを増やしていくことである。内定を得るためだけの支援ではなく、学生の成長を支援する活動を行っていくことによって、学生は自己分析がスムーズにでき、「個人登録票」を記載することができる。また、就職試験では自分自身の PR も明確に出来るようになることを期待している。今後も高い就職率を維持していくためのサポートを大学教育の一環として捉え、組織的な活動を継続していく。

## 6. 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

各科目の成績評価方法は、学生にシラバスや学生便覧で周知し、シラバスに記載された方法で行っている。両学科共に教育課程の中で卒業試験を課しており、看護学科は「看護総合(卒業試験含む)」、福祉学科は「ゼミナールII(卒業試験含む)」を必修科目としている。卒業試験の合格基準については、掲示板で周知し、教務ガイダンスや授業の中で説明している。学部、学科レベルでの教育目的の達成状況については国家試験合格率、就職率及び学生による大学満足度調査と授業評価アンケートの結果などで総合的に判断している。国家試験合格率は別に述べるように全国平均を常に上回っており、就職率は現在まで100%を維持している。

## (1) 大学満足度調査

教育目的の達成状況に関する評価方法として、自己点検及び自己評価委員会による「大学満足度調査」と FD 推進委員会による「授業に関する学生アンケート」を定期的に行っており、これらの結果を大学運営、学生生活の環境整備、教育環境整備、教育研究活動等に迅速に反映させている。卒業時大学満足度調査は、学生がどのように本学を受け止めているかを知り、本学の改善のために活用している。平成 24 年度以降毎年実施しており、今年度も 4 年生を対象に実施した。これらの結果は第 4 章 自己点検・評価「平成 27 年度卒業時大学満足度調査」の項に記載する。

### (2)授業に関する学生アンケート

◆平成26年度前期・後期、平成27年度前期・後期科目への「学生による授業評価」結果

### 【質問項目】

### <学生自身の取組みを問う>

- 1. [真剣] この授業に真剣な態度で参加できましたか。
- 2. [積極] この授業の予習・復習や課題等に積極的に取り組みましたか。

## <授業内容を問う>

- 3. [理解] この授業は、よく理解できましたか。
- 4. [効果] 授業方法(話し方・板書・視聴覚教材・配布資料等) は、授業の理解に 効果的でしたか。

### <総合的評価>

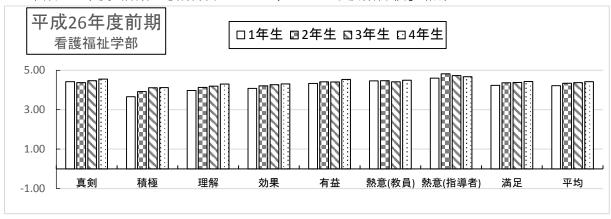
- 5. [有益] この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の修得という点で)でしたか。
- 6. [熱意(教員)] この授業で教員の熱意を感じましたか。
- 7. [熱意(指導者)] この実習で実習指導者の熱意を感じましたか。
- 8. [満足] 総合的に判断して、この授業に満足しましたか。

## 【評価尺度】

- 5. 強くそう思う
- 4. そう思う
- 3. どちらともいえない

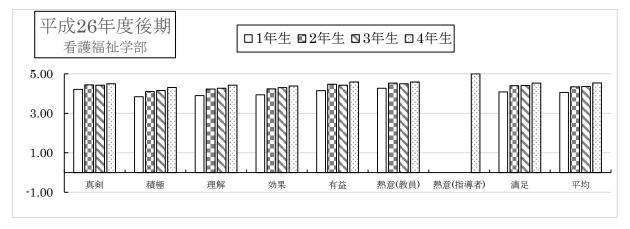
- 2. そう思わない
- 1. 全くそう思わない

# ★ 平成 26 年度 前期・後期科目への「学生による授業評価」結果



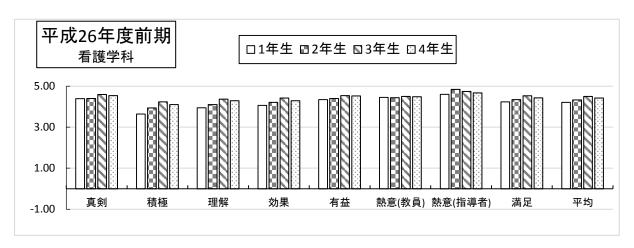
項目		この授業の予習・復習や 課題等に積極的に取り組 みましたか。	この授業は、よく理解 できましたか。	等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとつ て有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でし たか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	_
1年生	4.42	3.66	3.97	4.08	4.33	4.46	4.60	4.23	4.22
2年生	4.37	3.92	4.13	4.21	4.41	4.47	4.82	4.36	4.34
3年生	4.47	4.11	4.19	4.27	4.40	4.41	4.73	4.38	4.37
4年生	4.55	4.12	4.30	4.31	4.53	4.49	4.67	4.43	4.42

学年	回収枚数	回収率
1年生	1,329	87.5%
2年生	1,619	76.0%
3年生	827	60.6%
4年生	337	57.2%
合 計	4,112	



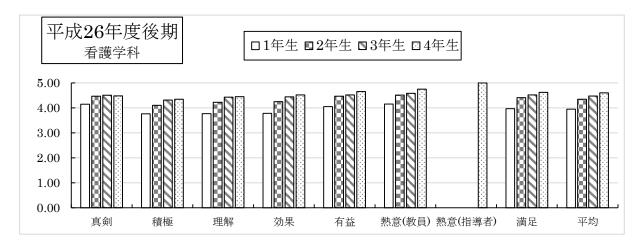
項目	この授業に真剣な態度で	採組美に精秘的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	_
1年生	4.21	3.84	3.90	3.94	4.15	4.27		4.08	4.06
2年生	4.44	4.11	4.23	4.24	4.47	4.53		4.40	4.34
3年生	4.42	4.16	4.27	4.30	4.42	4.50		4.41	4.36
4年生	4.50	4.31	4.42	4.38	4.59	4.59	5.00	4.53	4.54

学年	回収枚数	回収率
1年生	1,553	88.2%
2年生	1,203	69.9%
3年生	635	75.0%
4年生	64	28.3%
合 計	3.455	



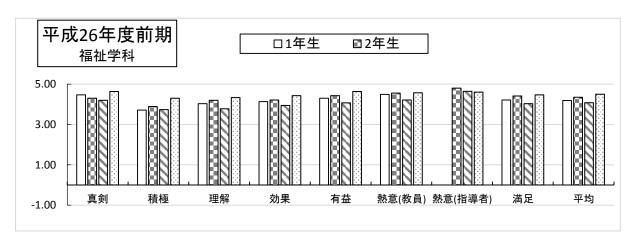
項目		課題美に精秘的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でしたか。	この授業で教員の熱		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	-
1年生	4.39	3.64	3.94	4.06	4.34	4.45	4.60	4.23	4.21
2年生	4.40	3.94	4.10	4.21	4.40	4.44	4.84	4.34	4.33
3年生	4.59	4.23	4.37	4.42	4.54	4.50	4.74	4.53	4.50
4年生	4.54	4.10	4.29	4.29	4.52	4.48	4.67	4.43	4.42

学年	回収枚数	回収率
1年生	904	89.6%
2年生	1,139	77.7%
3年生	573	78.4%
4年生	307	66.5%
合 計	2,923	



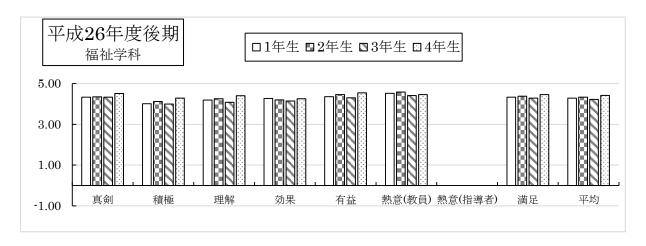
項目	糸加できす! たか	課題寺に積極的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。	者の熱意を感じました	総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	-
1年生	4.15	3.76	3.77	3.78	4.05	4.15		3.97	3.95
2年生	4.47	4.10	4.22	4.25	4.47	4.51		4.41	4.35
3年生	4.51	4.31	4.43	4.44	4.52	4.58		4.52	4.47
4年生	4.48	4.34	4.45	4.52	4.66	4.75	5.00	4.62	4.60

学年	回収枚数	回収率
1年生	1,050	90.3%
2年生	880	70.1%
3年生	339	87.4%
4年生	29	27.1%
合 計	2,298	



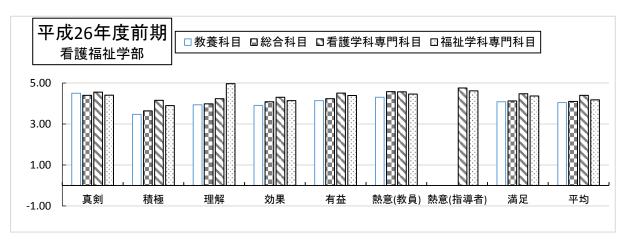
項目		課船等に精秘的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でし たか。	この授業で教員の熱		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	-
1年生	4.47	3.71	4.03	4.13	4.30	4.49		4.21	4.19
2年生	4.30	3.89	4.20	4.21	4.43	4.55	4.80	4.41	4.35
3年生	4.20	3.74	3.78	3.94	4.07	4.21	4.64	4.03	4.08
4年生	4.63	4.30	4.33	4.43	4.63	4.57	4.60	4.47	4.50

学年	回収枚数	回収率	
1年生	425	83.3%	
2年生	480	72.3%	
3年生	254	40.1%	
4年生	30	23.6%	
合 計	1,189		



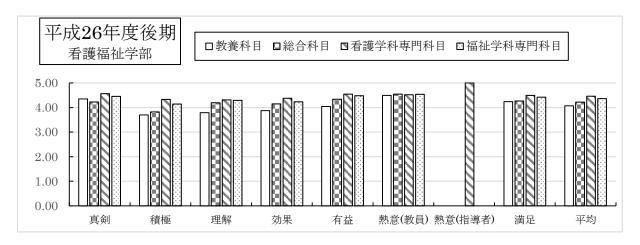
項目	糸加できす! たか	課題等に精極的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。	 総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	-
1年生	4.33	4.01	4.19	4.27	4.35	4.52	4.33	4.29
2年生	4.35	4.12	4.26	4.20	4.45	4.58	4.38	4.34
3年生	4.33	3.99	4.08	4.15	4.30	4.41	4.28	4.22
4年生	4.51	4.29	4.40	4.26	4.54	4.46	4.46	4.42

学年	回収枚数	回収率
1年生	503	84.3%
2年生	323	69.2%
3年生	296	64.5%
4年生	35	29.4%
合 計	1,157	



		この授業の予習・復習や 課題等に積極的に取り組 みましたか。	この授業は、よく理解 できましたか。	等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でし たか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	_
教養科目	4.50	3.47	3.94	3.91	4.14	4.31		4.09	4.05
総合科目	4.40	3.64	3.99	4.09	4.24	4.58		4.13	4.10
看護学科専門科目	4.56	4.16	4.24	4.31	4.51	4.57	4.76	4.48	4.40
福祉学科専門科目	4.41	3.90	4.97	4.14	4.39	4.46	4.62	4.37	4.18

学年	回収枚数	回収率		
教養科目	550	87.3%		
総合科目	361	84.7%		
看護学科専門科目	2,377	79.4%		
福祉学科専門科目	824	62.9%		
合 計	4,112			

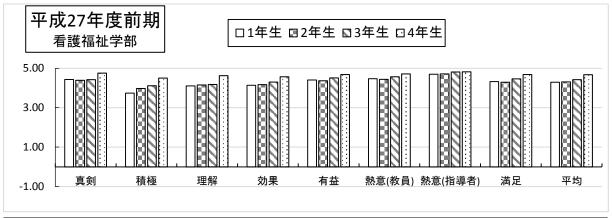


項目		課題等に積極的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でしたか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	_
教養科目	4.35	3.70	3.79	3.87	4.04	4.49		4.24	4.07
総合科目	4.22	3.82	4.19	4.14	4.33	4.54		4.27	4.22
看護学科専門科目	4.56	4.33	4.31	4.37	4.55	4.52	5.00	4.49	4.46
福祉学科専門科目	4.45	4.14	4.29	4.23	4.48	4.54		4.42	4.36

学年	回収枚数	回収率
教養科目	445	85.4%
総合科目	378	81.5%
看護学科専門科目	1,743	77.2%
福祉学科専門科目	889	72.6%
合 計	3,455	

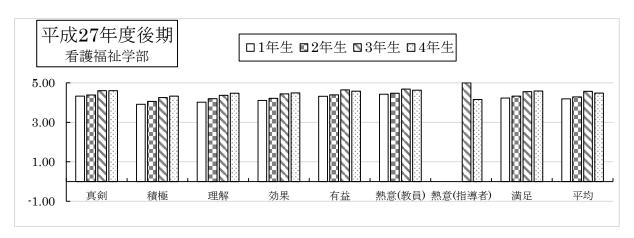
- ・両学科とも4年生の回収率が低く,前期は実習により学内不在の期間が長いこと,後期は授業科目が少なく大学へ来る機会が減少することが一因と考えられる。4年生の回収率を上げる工夫が必要である。
- ・<学生自身の取組みを問う> [積極] の項目が全体的に最も低く、従来と変わりはなかった。
- ・<授業内容を問う> [理解] [効果] の平均値はいずれも4点を超えている。看護学科1 年生では「理解」の平均点が4点より下回っていた。
- ・ <総合的評価 > [有益] [熱意 (教員)] [熱意 (指導者)] [満足] は全体的に高かった。
- ・学年別では、4年生の評価が高い傾向であった。
- ・科目別では、教養科目、総合科目の評価が低く、福祉学科専門科目、看護専門科目は評価が高かった。

# ★ 平成27年度 前期・後期科目への「学生による授業評価」結果



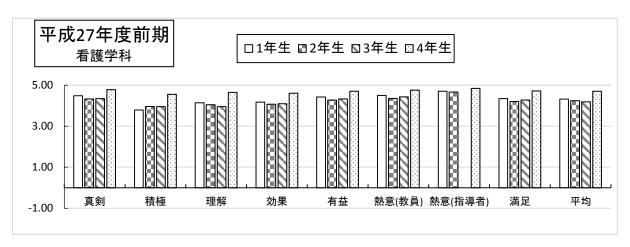
項目		この授業の予習・復習や 課題等に積極的に取り組 みましたか。	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとつ て有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でし たか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	_
1年生	4.43	3.74	4.10	4.14	4.40	4.47	4.70	4.32	4.29
2年生	4.39	3.97	4.15	4.17	4.36	4.44	4.71	4.29	4.31
3年生	4.42	4.11	4.18	4.30	4.51	4.57	4.81	4.46	4.42
4年生	4.75	4.50	4.62	4.57	4.68	4.71	4.82	4.68	4.67

学年	回収枚数	回収率
1年生	1,317	89.7%
2年生	1,874	79.6%
3年生	588	72.5%
4年生	383	77.7%
合 計	4,162	



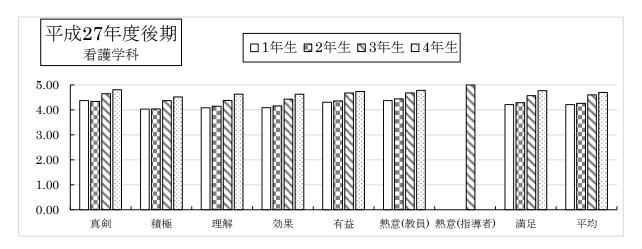
項目	この授業に真剣な態度で	課題美に精秘的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。	この授業で教員の熱 意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	_
1年生	4.33	3.91	4.02	4.11	4.32	4.42		4.23	4.19
2年生	4.38	4.06	4.20	4.21	4.39	4.47		4.33	4.29
3年生	4.60	4.25	4.37	4.44	4.64	4.68	5.00	4.55	4.57
4年生	4.60	4.33	4.47	4.49	4.58	4.63	4.16	4.59	4.48

学年	回収枚数	回収率
1年生	1,357	82.6%
2年生	1,284	71.1%
3年生	591	49.3%
4年生	260	71.6%
合 計	3,492	



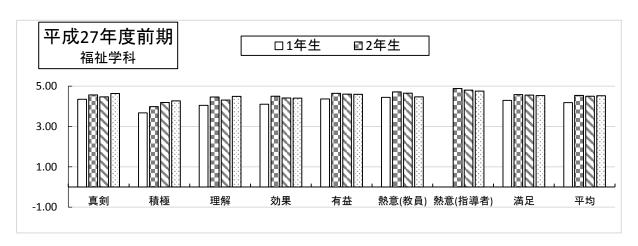
項目		この授業の予習・復習や 課題等に積極的に取り組 みましたか。	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとつ て有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でし たか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	-
1年生	4.48	3.79	4.14	4.17	4.42	4.50	4.70	4.34	4.32
2年生	4.33	3.96	4.05	4.07	4.27	4.35	4.66	4.20	4.24
3年生	4.34	3.95	3.95	4.09	4.33	4.43		4.27	4.19
4年生	4.78	4.55	4.65	4.61	4.70	4.76	4.84	4.72	4.70

学年	回収枚数	回収率	
1年生	797	88.3%	
2年生	1,424	82.7%	
3年生	205	71.9%	
4年生	313	82.4%	
合 計	2,739		



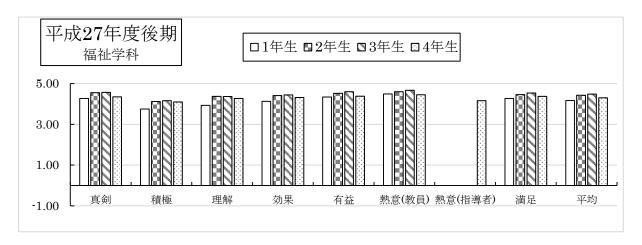
項目	糸加できす! たか	課題等に精極的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。	者の熱意を感じました	総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	-
1年生	4.37	4.03	4.08	4.09	4.31	4.37		4.21	4.21
2年生	4.34	4.04	4.15	4.16	4.36	4.44		4.29	4.26
3年生	4.65	4.37	4.38	4.43	4.68	4.68	5.00	4.57	4.60
4年生	4.81	4.52	4.63	4.63	4.74	4.78		4.77	4.70

学年	回収枚数	回収率
1年生	809	81.1%
2年生	1,026	71.8%
3年生	256	34.6%
4年生	142	68.3%
合 計	2,233	



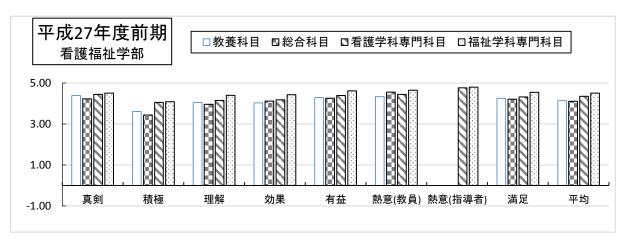
項目		課船等に精秘的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でし たか。	この授業で教員の熱 意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	-
1年生	4.35	3.67	4.05	4.10	4.36	4.44		4.29	4.18
2年生	4.56	3.98	4.46	4.50	4.64	4.71	4.88	4.58	4.54
3年生	4.47	4.19	4.31	4.41	4.60	4.65	4.80	4.55	4.50
4年生	4.63	4.27	4.49	4.40	4.59	4.47	4.75	4.53	4.52

学年	回収枚数	回収率
1年生	520	91.9%
2年生	450	71.0%
3年生	383	72.8%
4年生	70	61.9%
合 計	1,423	



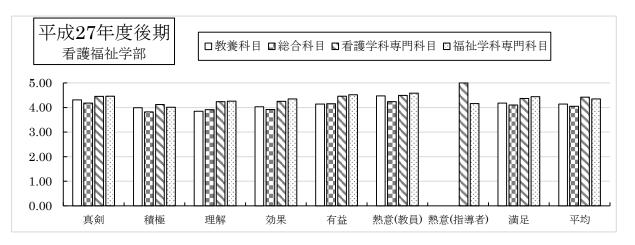
項目	糸加できす! たか	課題等に積極的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技術の習得という点で)でしたか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。	者の熱意を感じました	総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	-
1年生	4.27	3.75	3.93	4.13	4.34	4.49		4.27	4.17
2年生	4.55	4.12	4.37	4.41	4.52	4.60		4.46	4.43
3年生	4.57	4.16	4.36	4.44	4.60	4.67		4.54	4.48
4年生	4.35	4.10	4.27	4.32	4.38	4.45	4.16	4.37	4.30

学年	回収枚数	回収率
1年生	548	85.0%
2年生	258	68.3%
3年生	335	73.0%
4年生	118	76.1%
合 計	1,259	



	この授業に真剣な態度で	この授業の予習・復習や 課題等に積極的に取り組 みましたか。	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとっ て有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でし たか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	_
教養科目	4.39	3.61	4.05	4.03	4.29	4.34		4.25	4.14
総合科目	4.23	3.44	3.96	4.12	4.26	4.56		4.21	4.11
看護学科専門科目	4.45	4.06	4.15	4.18	4.39	4.45	4.77	4.32	4.35
福祉学科専門科目	4.51	4.09	4.40	4.43	4.62	4.65	4.80	4.55	4.51

科目	回収枚数	回収率
教養科目	556	86.2%
総合科目	318	89.1%
看護学科専門科目	2,276	80.6%
福祉学科専門科目	1,012	74.7%
合 計	4,162	



項目	総加できましたか	課題等に積極的に取り組	この授業は、よく理解 できましたか。	視聴覚教材・配付資料 等)は、授業の理解に効	この授業は、あなたにとって有益(知識・考え方・技 術の習得という点で)でし たか。	この授業で教員の熱意を感じましたか。		総合的に判断して、こ の授業に満足しました か。	_
教養科目	4.31	3.99	3.85	4.03	4.14	4.47		4.18	4.14
総合科目	4.18	3.82	3.91	3.92	4.15	4.24		4.10	4.05
看護学科専門科目	4.45	4.12	4.24	4.25	4.46	4.49	5.00	4.37	4.42
福祉学科専門科目	4.46	4.01	4.26	4.35	4.52	4.58	4.16	4.44	4.35

科目	回収枚数	回収率
教養科目	382	79.1%
総合科目	271	73.2%
看護学科専門科目	1,834	64.5%
福祉学科専門科目	1,005	76.4%
合 計	3,492	

- ・平成27年度の回収率は、ゼミ担当教員や科目担当教員の協力の基に4年生の回収率が向上した。後期科目の回収率は平成26年度より減少し、特に看護学科3年生の回収率が3割台であった。実習が終了し、授業科目の履修が少なく大学へ来る機会が減少したことが一因と考えられる。各学年、両学科とも今後も回収率を上げる対策が必要である。
- ・平成 26 年度前期・後期科目の評価と比べて、<学生自身の取組みを問う><授業内容を 問う><総合的評価>の各項目に大きな違いはなかった。
- ・学年別では、両学科とも学年が進むにつれて評価が高くなる傾向が伺える。専門科目の履 修、実習の開始等により学生評価の平均値が上がる傾向がある。
- ・科目別では、教養科目、総合科目の評価が低く、従来と変わりはなかった。教養科目、総合科目ともに〈学生自身の取組みを問う〉 [積極] の項目、〈授業内容を問う〉 [理解] [効果] の項目が低かった。教養科目、総合科目は1年生及び2年生で履修するため、学生自身が積極的に授業に取り組むように授業の予習や復習、課題の提出等で、主体的に学ぶための学習環境を整えていくことが必要である。

## [改善・向上方策 (将来計画)]

全体的に学生の授業評価は高い水準を保っているが、回収率が低い学年があるため、回収率を上げる工夫を継続していく必要がある。教養科目、総合科目において、<学生自身の取り組みを問う>〔積極〕の項目が1年生および2年生で低く、学生自身が積極的に授業に取り組むように、入学当初から授業の予習や復習の必要性、授業の課題を提出する際に図書館やインターネットを活用して調べ、まとめる作業を体験する機会を設けて、主体的に学ぶ学習環境を整えていく。

学生による授業評価アンケートは継続的に実施しているが、今後は就職先へのアンケート調査などにより、卒業生がどの程度、教育目標を達成できているのかを評価していく。また、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)およびカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)により一貫した学修成果の評価を行うことができるように、ディプロマ・ポリシー,カリキュラム・ポリシーの内容についても再検討したうえでフィードバックに努めていく。

# 7. 学生サービス

## (1) 学生相談

本学では学生が快適に学生生活を送ることができるように、学生委員会、事務部学生係が中心となって学生サービスを担当している。学生相談は個々の学生を対象にクラス担任が個別面談を行うほか、随時相談に教職員が応じている。また新入生研修会では、キャンパスマナー、受講マナー、服装・頭髪・装身具、生活アドバイスや警察署に協力を仰ぎ交通安全研修会などを行っている。身体と心の健康についての相談は「保健室」で行われる。また、クラス担任やゼミ担当教員もきめ細かい配慮で学生の相談に乗っている。学生相談は学生と教職員との良好なコミュニケーションのもと、クラス担任やゼミ担当教員、担当職員を中心に行なわれている。学生は相談しやすい所を窓口としており、これを受ける教職員はお互い情報交換を行い、連携してその業務を担っている。

## (2)保健室

専任職員(看護師・保健師)が日常の応急手当、健康相談、健診や予防接種の対応等を 行っている。学部・学科の特性上、予防接種や健診後の経過観察を含め、保健室での相談・ 対応はかなり多い件数となっている(次ページ H27年度 保健室の利用状況)。

また、本学は看護教員が多いことから、病医院への紹介も適切に行われており、様々な相談については、クラス担任やゼミ担当教員と連携をとりながら行っている。

## ◆予防接種

看護学生については、学生および実習施設の入院患者・利用者等の安全を確保する目的で、罹患した感染症や予防接種状況を、入学時に母子健康手帳に基づいて調査している。「罹患も予防接種もしていない」「不明」の学生には、1年時の後期授業開始前までに予防接種を終えるよう指導している。

・対象予防接種: B C G・麻疹・風疹(法律に基づく定期予防接種) 水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎(任意予防接種)

保健室では実習に臨み看護学科学生の予防接種の把握と実施、および福祉学科学生の 腸内細菌検査を厳密に行っている。

B型肝炎予防接種に関しては、看護学科1年定期健康診断において、HBs 抗体検査(-)でワクチン接種を希望する学生と、看護学科3年のワクチン3回接種したが抗体検査(-)の学生に対し予防接種希望用紙を配布し、接種を行っている。

### ◆健康診断

毎年、4月に全学生の定期健康診断を行っている。学生の健康状態を把握し、結果で事後措置が必要な学生には再検査を行い、学校医に連絡をとり必要な処置、対応をしている。

## ◆相談

学生生活を送るうえで、親元を離れて生活し体調を崩す学生も見られ、精神的、身体的に相談に訪れる学生も少なくない。また、一時的に試験の結果、友人関係、アルバイト先での不満、体調不良などを訴えて来室する。必要時、担当の教職員とも連絡を取りながら相談に応じている。

### ◆H27年度 保健室の利用状況

科目	利用者数	割合(%)	備考
	(人		
内科系	3 1 5	19.4	
外科系	1 0 9	6.7	
その他	1 0 9	6.7	(耳、眼, 歯、婦人科)
検診系	6 0 3	37.1	
予防接種	3 5 5	21.9	(B型肝炎、インフルエンザなど)
相談系	1 3 0	8.0	
総数	1621		

### (3) 学生会・クラブ・サークル活動

## ◆学生会

秋田看護福祉大学学生会会則により、学生会が組織されている。学生会は学生によって 組織され、クラブ・サークル活動、体育祭、大学祭などを企画・実行している。

### <クラブ・サークル活動>

- ・文化局:地域交流サークル、軽音楽サークル、ブラスバンド同好会、手話サークル、 B 愛 STAR ピアサークル、文芸サークル、cotton candy、写真サークル、茶道サー クル、調理サークル
- 体育局:バレーボールサークル、軟式野球サークル、バスケットボールサークル、陸上サークル、フットサルサークル、バドミントンサークル、ソフトテニスサークル、卓球サークル、ソフトボールサークル、ダンスサークル、ストレッチ&ヨガサークル

# ◆大学祭の開催

- ・学生会主催で開催している。教職員が全面的に支援し、外部からの参加も歓迎する。 平成 27 年度の大学祭は [華 ~多くの人の心の花~] というテーマで、10 月 17 日 (土)・18 日(日) に開催した。
- ・主な催事

オープニングセレモニー~軽音楽サークルによる演奏

最新福祉機器の展示

看護学科催事(クイズ&迷路、リラクセーション、基礎看護)

福祉学科催事(高齢者疑似体験、縁日、お化け屋敷)

福祉学科シンポジウム:「福祉でまちづくり〜地域福祉の一躍を担う社会福祉協議会の活動を中心に〜」

看護学科卒業研究発表、福祉学科ポスター発表

模擬店、鹿角苑 (パン販売)、白沢通園センター (アイスクリーム販売)

鹿角市三つ矢沢自治会(漬物販売)

生き生きと暮らすための健康と福祉の相談コーナー

大館鳳鳴高校演劇部による特別公演:「たい」

サークル発表(軽音サークル、アカペラサークル、ダンスサークル等) 一発芸大会、ビンゴ大会、ハチ公ガールズパフォーマンス、よさこい演舞「鳳翔華」

### (4) 学生の意見・要望の把握

### ◆学生による授業評価

FD 推進委員会による「授業に関する学生アンケート」は毎年継続的に行われ、その結果は学生にも公開される。記述による授業への意見は担当教員に伝えられ、それに対する教員の授業改善計画は FD 推進委員会に文書で報告される。これらは図書館で学生に公開している。ただし、記述はいずれも無記名である。

### ◆大学満足度調査

自己点検及び自己評価委員会による新入生・在学生・卒業生を対象とする「満足度調査」には、学生の本学に対する「良い点」「改善すべき点」など様々な意見が述べられている。 今後も計画的に「大学満足度調査」を行う。「大学満足度調査」の詳細については、後述する。

## (5) 保護者懇談会

学生が安心して学生生活を送ることが出来るよう、年 1 回「保護者懇談会」を開催し、保護者との情報交換を行っている。保護者との面談は 1 人 15 分程度であるが、場合によっては 30 分位になることもある。

### ◆平成27年度保護者懇談会

◇日時: 平成 27 年 8 月 29 日 (土)

◇内容:各学科の現状(看護学科・福祉学科)

·教育 ·就職状況 ·国家試験対策

◇出席した保護者:119人(看護学科62、福祉学科57)

◇個別面談(教員と保護者、希望する場合は学生も参加)

## 面談人数

	看護学科	福祉学科	合 計
1年生	12	10	22
2年生	12	8	20
3年生	11	9	20
4年生	8	10	18
合 計	43	37	80

# ・面談の主な内容

大学の現状、成績、日々の生活、実習、国家資格の取得、就職支援、卒業後の進路 など様々である。

・保護者は大学の現状と学生の現状について、学生の置かれている現実の問題として とらえ、日頃の疑問点のいくつかを解決できたと思われる。すべての学生と保護者 との間にコミュニケーションが良くとれているとは限らず、大学における学生の生 活を知ることは保護者にとっても、教職員にとっても、有意義である。

- ・当日、出席の都合がつかない保護者に対しては後日面談を行った。
- ・参加申込み葉書に質問欄を設けたことで、事前に質問内容がわかり、保護者の希望 の傾向がわかり、参考になった。

保護者からは学校内の生活状況や成績、資格取得について知ることができたという声が聞かれた。本学の教育への協力・支援を頂くためにも、学科説明の内容をさらに工夫し新鮮味を加えながら、保護者懇談会は今後も継続していく。

## (6) ボランティア活動

平成27年4月から12月までの学生課に届出のあったボランティア活動は次の通りである。

月 日	ボランティア派遣先	参加人数
4月19日	大館青年会議所	10
4月29日	陽清学園	5
5月3日	秋田犬保存会	6
5月16日	比内養護学校	8
6月21日	大館市城南保育園	17
6月28日	特別養護老人ホーム水交苑	3
6月28日	大館保健所	2
7月4日	大館八幡こども園	8
7月25日	介護老人保健施設成寿苑	25
7月26日	特別養護老人ホーム山館苑	10
8月1日	大館市特別養護老人ホームつくし苑	3
8月1日	介護老人保健施設大館園	6
8月8日	特別養護老人ホーム扇寿苑	9
8月8日	軽井沢福祉園	11
8月9日	矢立育成園	6
8月16日	泉地域福祉センター	2
8月18日	特別養護老人ホーム水交苑	5
8月19日	特別養護老人ホーム山館苑	1
8月21日	大館市児童発達支援センターひまわり	4
10月7日	秋田県赤十字血液センター	8
合 計		149

本学の地域貢献事業への参加者やボランティア派遣依頼先からの依頼文書に基づいて 本学学務課学生係が掲示募集し、派遣先に報告しているものを記載している。他に個人的 に派遣先に連絡したり、教員が募集する場合もあるため、実際はこの人数よりも多いと思 われる。本学の学生は授業が優先であるため、学外活動の時間・期間は限られるが、社会 のしくみや医療・福祉の現場、地域住民の生活を知り、将来の糧となるボランティア活動 は教育的な面からも推奨される。

## (7) 国家試験対策

看護学科・福祉学科とも、「国家試験対策チーム」をつくり、学科教員全員でサポートしている。福祉学科では「福祉行政研究室」において公務員試験対策を行っている。模擬試験は自己採点を行い、その結果を迅速に反映した指導をしている。また、国家試験終了後、4年生と3年生の懇談会を行い、国家試験対策や就職活動について、先輩から後輩に情報の引き継ぎを行っている。

## 1) 看護学科

- **◇1・2** 年生
  - ・国家試験対策オリエンテーション
  - ·模擬試験(1年生:専門基礎科目、2年生:必修問題)

### ◇3 年生

- ・国家試験対策オリエンテーション
- ·模擬試験(必修·一般問題)
- ・4年生と3年生の懇談会

### ◇4 年生

- ・教員による学習会(合同:週1回、卒業研究グループ単位:週1回)
- · 看護師国家試験模擬試験 8 回
- ·保健師国家試験模擬試験 6 回
- ·助産師国家試験模擬試験5回
- ・特別学習会 (特訓メンバー。10月から2月までの月~金の9時~17時)
- ・4年生と3年生の懇談会

### 2) 福祉学科

- ◇1 年生
  - ・国家試験対策オリエンテーション ・勉強会
- $\Diamond 2$  年生
  - ・国家試験対策オリエンテーション ・模擬試験(共通科目)
  - ・個人ワーク、グループ学習

#### ◇3 年生

- ・国家試験対策オリエンテーション ・模擬試験(共通・専門)
- ・課題検討会・小グループ学習

### ◇4 年生

・共通科目対策・専門科目対策・弱点補強対策・模擬試験

## 3) 国家試験成績

<看護師・保健師・助産師国家試験成績(看護学科)>

<b>☆光</b> 件	看	護師	保健師 助産師		産師	
卒業生	受験者	合格率	受験者	合格率	受験者	合格率
第1期生(平成21年3月卒)	50 人	95.9%	50 人	95.5%	5 人	100.0%
第2期生(平成22年3月卒)	54 人	96.3%	50 人	62.0%	4 人	25.0%
第3期生(平成23年3月卒)	54 人	100.0%	48 人	85.4%	5 人	100.0%
第4期生(平成24年3月卒)	60 人	96.7%	47 人	89.4%	5 人	100.0%
第5期生(平成25年3月卒)	59 人	98.3%	45 人	100.0%	5 人	100.0%
第6期生(平成26年3月卒)	56 人	100.0%	49 人	95.9%	5 人	100.0%
第7期生(平成27年3月卒)	53 人	96.2%	51 人	100.0%	4 人	100.0%
第8期生(平成28年3月卒)	61 人	98.4%	20 人	100.0%	5 人	100.0%

## <社会福祉士国家試験成績(福祉学科・社会福祉学科)>

卒業生	受験者	合格者	合格率
第1期生(平成21年3月卒)	32 人	18 人	56.3%
第2期生(平成22年3月卒)	27 人	6 人	22.2%
第3期生(平成23年3月卒)	38 人	20 人	52.6%
第4期生(平成24年3月卒)	26 人	11 人	42.3%
第5期生(平成25年3月卒)	31 人	12 人	38.7%
第6期生(平成26年3月卒)	32 人	19 人	59.4%
第7期生(平成27年3月卒)	32 人	14 人	43.8%
第8期生(平成28年3月卒)	36 人	19 人	52.8%

- ・社会福祉学科卒業生は全員介護福祉士の資格を得る。
- ・平成21年度入学生(第5期生)から福祉学科卒業となる。

## <精神保健福祉士国家試験成績>

卒業生	受験者	合格者	合格率
第5期生(平成25年3月卒)	11 人	8人	72.7%
第6期生(平成26年3月卒)	22 人	13 人	59.1%
第7期生(平成27年3月卒)	17 人	12 人	70.6%
第8期生(平成28年3月卒)	22 人	18 人	81.8%

・精神保健福祉士は平成21年度から養成が始まった。第5期生が最初の卒業生である。

# (8) 奨学金制度

本学学生が利用できる奨学金には法人、県、市町村などを含め多くの制度がある。また、病院の奨学金は就職との組み合わせであり、開始時期が弾力的であることが多い。このことが、突然の事態に遭遇した学生にとって、東日本大震災の時のように、強い支援となる。

また、勉学が奨学金を得る条件でもあることを学生に認識させなければならない。奨学金の意味や返還などの学生への指導をしながら、学生がいろいろな状況に遭遇しながらも、卒業できるよう支援している。

## 1) 本学としての奨学金

- ◆秋田看護福祉大学経済支援奨学金制度(学生納付金相当額の範囲)
- ◆秋田看護福祉大学福祉学科入学支援奨学金制度(入学時に最大 50 万円)
- ◆学業奨学金制度
  - · I 種学業奨学生

申請者の中から学科・学年別に2名以内。当該学年の授業料の半額を免除する。

· Ⅱ 種学業奨学生

推薦入試および一般入試(前期)の合格者(1年生)のうち、希望する学生若干名(学科別)の入学金を免除する。

◆学園内大学入学金支援制度

明桜高校(学園内高校)から入学する者に対し、入学金の半額を免除する。

◆家族学費支援制度

入学者の保護者及び兄弟姉妹が本法人の設置する大学を卒業又は現に在籍している場合、入学者の学納金の一部を免除する。

- 2) その他の奨学金
- ◆日本学生支援機構奨学金
- ◆地方自治体の修学資金
  - · 秋田県看護職員修学資金 · 介護福祉士等修学資金
  - ・岩手県看護職員修学資金 など
- ◆民間団体・病院の奨学金制度
- 3) 平成27年度 奨学金の利用者(病院を除く)

計			
交通遺児大学奨学生	交通遺児育英会	2	
岩手県看護職員修学資金	岩手県	2	
新日本奨学会奨学生	公益財団法人 新日本奨学会	2	
介護福祉士等修学資金	秋田県社会福祉協議会	6	
秋田県看護職員修学資金	秋田県	4	
日本学生支援機構奨学金 第二種	日本学生支援機構	150	
日本学生支援機構奨学金 第一種	日本学生支援機構	91	
Ⅱ種学業奨学金	学校法人 ノースアジア大学	4	
I 種学業奨学金	学校法人 ノースアジア大学	10	
学園内大学入学金支援制度	学校法人 ノースアジア大学	6	
家族学費支援制度	学校法人 ノースアジア大学	10	
秋田看護福祉大学福祉学科入学支援奨学金	秋田看護福祉大学	4	
<b>名称</b>	実施主体	人数	
		貸与	

### 「改善・向上方策(将来計画)]

体育祭や大学祭等は学生会が中心となって行っている。平成 25 年度に学生会会則を改正し、平成 26 年度からは新しい学生会会則で活動している。以前よりも学生と教員との連携が強化され、「大学祭」は教職員の役割分担を明確にし、賑わいのある楽しいイベントとなった。履修科目が多いにも拘わらず、サークル活動も活発に行なわれており、先輩・後輩の交流に役立っている。しかし、学生会役員の活動は年度によってばらつきがあり、恒常的な活動として安定していないのが残念である。この点、教職員による指導・支援が必要と思われる。

恒例行事として定着した「保護者懇談会」は保護者にとって学生の情報を得る良い機会として喜ばれている。学生が学んでいる大学の環境を直に感じることで、保護者にとって有意義な一日になるよう、今後も継続する。

看護・福祉を学ぶ学生にとってボランティア活動は、社会的貢献のみならず対人関係の 形成からも重要である。本学はピアカウンセリング、大館市消防団機能別消防団という自 治体と連携した地域貢献を継続的に行なっており、地域との繋がりはますます強いものに なっている。このような取り組みを今後も継続して実施していきたい。

国家試験対策は学生と教職員の確固たる信頼関係のもと順調に運営されており、合格率も常に高い数値を維持している。この関門を突破することで、学生は社会に大きく羽ばたくことができる。しかし、昨今の経済的な背景から、納付金の支払いに困窮する学生が増えてきており、貸与ではなく給付型である奨学金の充実が望まれる。幸いなことに、看護学科の学生は奨学金と就職先の確保を同時に得る機会がある。少人数教育で学生と教員の濃密な関わりが可能な環境を生かし、教職員は学生の学業上の悩みに限らず、生活の悩みなどについても相談にのりながら学習支援を行うとともに、学生の意見を反映できる仕組みとして「教職員との面談」「授業に関する学生アンケート」「学生会の支援」等を継続し、さらに活発に行うことが必要である。

## 8. 教員の配置・職能開発

## (1) 教員の確保と配置

教員の採用については「学校法人ノースアジア大学が設置する大学の教員選考基準」に則り、原則として公募により選考を行っている。教員の採用を希望する学部・学科が担当予定授業科目、必要資格等についての案を学長に提出し、法人本部が公募を実施している。公募に関しては個人調書、教育研究業績書等の提出を求め、教員選考基準に基づく書類選考の後、理事長・副理事長・学長・副学長を含めた面接官による面接試験により採用(内定)者を決定し、理事長が発令している。採用に際しては任期制であり、新規採用教員の初回任期は1年である。その後の助教・講師・准教授の再任用は2年、教授は3年の任期であり、再任用の最長期間は助教5年、講師5年、准教授9年である。教授の再任用に制限はない。教員の法人内での異動は専門分野が異なるため、原則として行われていない。

現在の専任教員数は 32 人である。このうち教養科目担当教員は 3 人、看護学科専門科目担当教員は 18 人、福祉学科専門科目担当教員は 11 人である。看護学科の実習は 3 人の実習補助者が専任教員を支援している。大学設置基準に照らすと、教員の人数は基準を満たしている。教養科目・臨床医学系科目を中心に 64 人の非常勤講師が本学の授業を担当している。

教養教育実施のための検討事項は看護学科および福祉学科教務委員会の合同教務委員 会が行っている。

### (2) ファカルティ·ディベロップメント (FD) 推進活動

教育の質向上を目指し、本学では FD 推進委員会を中心に、教員の指導力の向上をめざし、次のような活動を行っている。

### A. 学生による授業評価

「学生による授業評価アンケート」は本学の開設(平成17年4月)以来、前期・後期の期末に毎年行っている。全体的に学生の授業評価は高い水準を保っている。

平成 26 年度前期・後期,平成 27 年度前期・後期科目への「学生による授業評価」の結果については、第 2 章 6.教育目的の達成状況の評価とフィードバックの項に掲載した。

#### B. FD ワークショップ

- · 日時: 平成 27 年 7 月 9 日 (木) 16:20~18:00 大会議室
- ・テーマ:「社会人基礎力に大学の中で、どのように取り組んでいるのか」
- ・テーマについて、教職員がグループに分かれ、ディスカッションや意見交換を行う。

平成 27 年度は、F D推進委員会の活動目標である「教育経験年数,看護学科および福祉学科の学科を超えた教員間で、教育内容・方法等について、ディスカッションや意見交換することで教員の教育力の向上を図る機会とする」に沿い、参加した教職員をグループに分け、自由な会話を通して、テーマについて意見交換した。大学に求められている「社会人基礎力」について、具体的な能力,身につけさせたい能力,授業や学生との関わりの中で実践していること,望ましい姿等が意見交換から出された。また、一つのテーマについて、教職員が一緒のグループで話し合うことができた。

### C. FD 講演会

- ◆平成 27 年度 FD 講演会
- ・日時:平成27年12月3日(木)16:20~17:50 大会議室
- ・講師:フリーアナウンサー、ノースアジア大学客員准教授 綿引かおる 氏
- ・テーマ:「続・学生を引きつける話し方」

### D. 公開授業·検討会

- ◆平成27度公開授業
- ・看護学科 2年生69名
   平成27年11月9日(月)16:20~17:50 219中教場 「精神看護方法論Ⅱ」 畠山禮子 准教授
- ・看護学科及び福祉学科 2年生 79名
   平成 27年11月16日(月)13:00~14:30 219中教場 「障がい者(児)の福祉」
   早川 明 助教

## ◆公開授業に関する検討会

平成 27 年 11 月 26 日 (木) 16:20~17:50 大会議室 参加教職員 27 名 平成 27 年度 FD 推進委員会は、①授業評価としての「授業に関する学生アンケート」 の実施、②FD ワークショップ、③公開授業および検討会、④FD 講演会を実施した。

①は、結果を集計し、学生から教職員へ、教職員から学生へのフィードバックを行うために、「授業に関する学生アンケート」の「授業評価アンケート結果」及び「教員メッセージ」を平成 26 年度から図書館で学生へ結果を開示している。②は、FDワークショップのテーマを「社会人基礎力に大学の中で、どのように取り組んでいるのか」とし、FD推進活動を全教職員が協働・連携して実践していることを認識する機会とした。③④は、「FD月間」として 11 月上旬から 12 月上旬にかけて開催することで、教職員の出席率も高く、FDに対する教職員の関心を高めることができた。今後も FD推進活動を全教職員が協働・連携して行い、学生にとって充実した学修となるような良好な学習環境の整備に努めていきたい。

### [改善・向上方策(将来計画)]

教員確保については、本学のように地方の小都市にある多くの大学が共通して抱える問題である。看護学・福祉学ともに大学教育の歴史は他の学問領域に比べまだ日が浅く、若い時から大学教員を目指す人の割合は相当少ない。現場から教育機関へ転身する時期の多くが病院等前職の定年後になることも教員の高齢化に繋がっている。平成 27 年 4 月に本学の卒業生 2 名が、看護学科の教員として初めて採用となった。今後も現場経験を積み、さらに修士や博士の学位を取得した卒業生が本学の教員を目指してくれることを期待する。現段階では、本学の使命・目的の達成のために非常勤講師と実習補助者の協力が必須である。教養科目担当教員として、3 名の教員が配置されているが、多くの教養科目は非常勤講師が担当している。大学の交流・グローバル化という視点で考えると、専門領域の研究

者である近隣大学の教員や、現場の最先端で活躍する認定看護師や社会福祉士から学ぶことが出来るのは、学生にとって意義があるという側面があるが、今後とも専任教員の確保については継続して行っていく。

平成 27 年度 FD 推進委員会は、①授業評価としてのアンケートの実施(「学生アンケート」、②FD ワークショップ、③公開授業および検討会、④FD 講演会を実施した。今後も教職員全体でFD推進活動を協働・連携して行くために、FDワークショップ、FD講演会、公開授業および検討会を継続し、教職員が一緒になって、自由に意見を交換する機会を設けていきたい。FD 活動の内容についてもさらに充実した取組みができるよう検討する。

## 9. 教育環境の整備

### (1) 校地・校舎

校地および校舎は大館市清水町二丁目3番地の4にあり、全学生がここで学生生活を送る。校地面積40,669.00m<sup>2</sup>、校舎面積11,740.7m<sup>2</sup>であり、大学設置基準上必要な面積を満たしている。後者の概要は下表の通りである。

名称	面積 (m²)	名称	面積 (m²)
校舎	11,740.7	LL 教室	125.3
附属図書館	704.0	体育館	1,000.7
学生 OA 室	134.9	クラブハウス	484.6

講義室は大教場 1、中教場 2、小教場 5 の合計 8 室あり、その他に LL 教室、実習室、学生 OA 室などがある。平成 27 年度は大教場の大型スクリーンと常設型のプロジェクターと、小教場 1 室の固定式プロジェクターを設置した。実習室は看護学科が使用する基礎看護実習室、成人・地域看護実習室、小児・母性看護実習室、福祉学科が使用する家政実習室、介護実習室、入浴実習室があり、その他に実験実習に使用する自然系実習室がある。これらの実習室には看護・助産、介護等の実習・演習で用いる設備・機器が備えられており、必要な用具・消耗品等毎年計画的に購入し、技術習得のための授業や学生の自主学習で使用できるよう整えている。

演習室が 10 室あり、両学科のゼミナール形式の授業(基礎演習、看護研究、ゼミナール  $I \cdot II$  など)に使用している。空き時間は事前の申し込みにより、個人やグループの学習スペースとして活用されており、定期試験期間や国家試験前の数ヵ月は、10 室全てが常時利用されているような状況である。

クラブハウス棟は教室棟から体育館を繋ぐ間の場所に 10 室あり、学生会、文化局・体育局サークルが使用している。体育館は授業やサークル活動等で使用し、テニスコート 2 面が隣接している。

学生 OA 室、就職資料室、附属図書館閲覧室にはパソコンが配備され、インターネットの利用が可能である。

#### (2) 附属施設

#### ◆附属図書館

附属図書館の面積は 704m<sup>2</sup>である。学生閲覧室 (座席 100 席)、教職員閲覧室 2 室、視聴覚資料室、書庫、事務室、館長室を有する。職員は附属図書館長 (兼任) および職員 3 人 (そのうち司書 3 人) である。

平成 28 年 3 月 31 日までの登載蔵書は 42,176 冊, 平成 27 年度の増冊分は 985 冊である。OPAC (On-Line Public Access Catalogue、所蔵目録検索システム) および文献オンラインデーターベース (医学中央雑誌、メディカルオンライン、CiNii、官報、最新看護索引 web) を導入している。

- ①年間入館者: 平成 27 年度(平成 28 年 2 月末現在) 23,117 人(平成 26 年度 18,874 人)
- ②開館時間:平日は午前8時半~午後7時,土曜日は午前9時~午後5時である。

- ・定期試験開始1週間前から試験期間中は開館時間を延長し、学生の利用への便宜を 図っている。
- ・夏季、冬季、春季の学生長期休業中は開館時間を短縮している。ただし、夏季休業中、 学生の実習期間に合わせて、開館時間を延長している。
- ・平成27年度の開館日数は269日である。(平成26年度は267日)
- ③利用者:本学の教職員、本学の学生、本学の卒業生、および附属図書館長の許可を得た者(一般利用者)としている。平成27年度(平成28年2月末現在)の一般利用者数は562人、新規利用登録者数は46人である。
- ④文献複写:ILL料金相殺サービスにより行っている。

平成 27 年度の学外への文献複写依頼は平成 28 年 2 月末現在 165 件であり、学外からの複写依頼は 617 件 (大学図書館 580 件、その他の機関 37 件) である。

- ⑤雑誌:継続学術雑誌は、共通教養和雑誌 13 誌、看護学科和雑誌 43 誌、福祉学科和雑誌 27 誌、看護学科洋雑誌 4 誌、福祉学科洋雑誌 1 誌である。
- ⑥新聞:全国紙 3 紙、地方紙 6 紙である。在学生への地元情報提供サービスとして、近県の主要新聞(青森県、岩手県、山形県、宮城県)を購読している。

附属図書館には医療・看護分野、福祉分野の専門図書が充実しており、そのため、在 籍している学生だけではなく、当大学(短期大学)卒業生や医療・福祉分野の仕事に従事し ている一般利用者も多い。

医療・看護分野、福祉分野は常に新しい内容が求められる分野であるため、改訂版を 含め、両学科教員からの購入希望図書等を募り、今後も専門分野の蔵書を充実させるよ うに努める。

図書館利用促進のため、新入生(1年生)へ向けた図書館利用方法の案内や、看護学科、福祉学科の3年生に対する看護研究、卒業研究の文献検索方法について職員(司書)とゼミ担当教員が各ゼミ単位で細やかに指導を行っている。学生が学術的な情報の収集方法を修得する貴重な機会である。

## ◆総合研究所

保健・医療・福祉領域に関する学術の調査研究を総合的に行うことを目的に設置された。 所長・次長および所員(本学専任教員が兼任)で構成されている。

年1回の「秋田看護福祉大学研究所報」の発行が主な事業である。所報の論文は国立国会図書館雑誌記事検索、医学中央雑誌、メディカルオンライン、独立行政法人科学技術振興機構(JST、Japan Science and Technology Agency)に登録され、公開されている。

## (3) 実習施設

- ◆看護学科実習施設
- ・病院等での実習

実習科目	学年	実習施設
早期体験実習	1	大館市立総合病院、大館市立扇田病院
基礎看護学実習	2	大館市立総合病院、大館市立扇田病院、秋田労災病院

		JCHO 秋田病院
成人・老年看護学実	3	大館市立総合病院
習 I		
成人・老年看護学実	3	大館市立総合病院、秋田労災病院
習Ⅱ	J	
精神看護学実習	3	大館市立総合病院、小規模作業所、福祉ホーム
小児看護学実習	3	大館市立総合病院、大館市立城南保育園・子育て相談室
高齢者看護福祉実習 3		水交苑、神山荘、つくし苑、扇寿苑、長慶荘、山館苑、
		大館園、成寿苑
ナウトマ生羽	3	水交苑、神山荘、つくし苑、大館訪問看護ステーション、
在宅ケア実習	3	訪問看護ステーションはあと
高齢者精神地域実習	4	
√大 △ 中 羽		大館市立総合病院、能代厚生医療センター、秋田労災病
統合実習	4	院、JCHO 秋田病院、大館訪問看護ステーション
助産学実習	4	大館市立総合病院、能代厚生医療センター

# ·公衆衛生看護学実習(4年生)

保健所	市町村
大館保健所	鹿角市、大館市、小坂町
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町
秋田中央保健所	井川町、大潟村、五城目町、潟上市、男鹿市

# ◆福祉学科実習施設

# · 介護実習

種別	事業所	種別	事業所
	水交苑 (大館市)	身体障害者 療護施設	あすなろ (小坂町)
	神山荘 (大館市)	障害者支援	軽井沢福祉園 (大館市)
	長慶荘 (大館市)	施設	桐ヶ丘 (井川町)
#+ □(  <del>'\</del>	つくし苑 (大館市)		大館市デイサービスセンタ ーかつら (大館市)
特別養護老人ホー	扇寿苑 (大館市)	通所介護	水交苑デイサービスセンタ ーのぎく (大館市)
4	東恵園 (鹿角市)		デイサービスセンターかみ やま (大館市)
	森泉荘 (北秋田市)		大館市デイサービスセンタ 一大滝 (大館市)
	高清水寿光園 (秋田市)		デイサービスセンターおお だて (大館市)
	藤里 (藤里町)		扇寿苑デイサービスセンタ

			一(大館市)
	リングングウナンギス (料		
	リンデンバウムいずみ(秋		比内町福祉センターデイサ
	田市)		ービス (大館市)
	やすらぎホームけやき(秋		デイサービスセンター大館
	田市)		南(大館市)
	   いさみが岡 (湯沢市)		デイサービスセンターたし
	V - C * アルー間 (1864(日))		ろ(大館市)
	   山館苑(大館市)		介護サービスセンター山王
			台デイサービス (大館市)
	之水井 (小科·四十)		デイサービスセンターいず
	永楽苑(北秋田市)		み (大館市)
	L = + ( - L   L   L   L   L   L   L   L   L   L		グループホームおおだて
	広青苑 (五城目町)		(大館市)
			グループホームらいふ(大
	萬生苑(由利本荘市)		館市)
			グループホームかみやま
	こもれびの杜 (大仙市)		(大館市)
			扇寿苑グループホーム(大
	かくのだて桜苑(仙北市)		館市)
	シルバードームいきいきの		グループホームたしろ (大
	郷(横手市)		が
	州 (横子川)	認知症対応	グループホームほのぼの
	和光苑(岩手県久慈市)	型共同生活	
		介護	(大館市)
	はなみずき (大館市)	71 HZ	グループホーム山王台(大
			館市)
	大館園 (大館市)		グループホーム長根山(大
			館市)
	ニコニコ苑 (秋田市)		グループホーム有浦(大館
	) (N H 114)		市)
介護老人保健施設	なごみのさと(大仙市)		グループホームいずみ(大
			館市)
	秋田病院附属介護老人保健		グループホーム観音堂(大
	施設(能代市)		館市)
		小規模多機	
	成寿苑 (大館市)	能型居宅介	小規模多機能型居宅介護東
		護	台(大館市)
	杏授苑 (美郷町)		

# ソーシャルワーク実習

種別	事業所	種別	事業所
福祉事務	横手市福祉事務所 (横手市)		やかた (三種町)
所	大館市福祉事務所 (大館市)	介護老人保	なごみのさと (大仙市)
社会福祉	湯沢市社会福祉協議会(湯 沢市)	健施設	榮寿苑 (八郎潟町)
協議会	三種町社会福祉協議会(三種町)	児童養護施	陽清学園(北秋田市)

	鹿角市社会福祉協議会(鹿 角市)	設	みちのくみどり学園 (岩手 県盛岡市)
	西和賀町社会福祉協議会 (岩手県西和賀町)	医療機関	仙北市立角館総合病院(仙 北市)
	大館市社会福祉協議会(大館市)		中通総合病院(秋田市)
	藤里町社会福祉協議会(藤 里町)		中通リハビリテーション病院(秋田市)
	にかほ市社会福祉協議会 (にかほ市)		大館市立総合病院(大館市)
	久慈市社会福祉協議会(岩 手県久慈市)		杉山病院(潟上市)
地域包括支援センター	泉地域包括支援センターリ ンデンバウム (秋田市)	身体障害者 更生援護施 設	秋田県身体障害者更生訓練センター(秋田市)
	仙北市包括支援センター (仙北市)	知的障害者	道目木更生園 (大館市)
	大館市地域包括支援センタ ーおおたき (大館市)	更生施設	秋田県心身障害者コロニー (由利本荘市)
	ありすの街 (大仙市)	障害者支援 施設	愛光園 (湯沢市)
特別養護老人ホーム	つくし苑(大館市)	障害福祉サ ービス事業 所	ウェルビューいずみ障害福 祉サービスセンター(秋田 市)
	神山荘 (大館市)	就労継続支 援事業所	複合施設ぱあとなあ(湯沢市)
	やすらぎホームけやき (秋 田市)	居宅介護支援事業所	指定居宅介護支援事業所お おたき (大館市)
	平成園 (湯沢市)	居宅介護支 援センター	なごみ居宅介護支援センタ ー (大仙市)
	永楽苑 (北秋田市)	指定相談支 援事業	鹿角市障害者センター(鹿 角市)
	サンアップルホーム (弘前 市)	地域福祉センター	泉町地域ふくしセンター (大館市)

# • 精神保健援助実習

種別	事業所	種別	事業所
医療機関	大館市立総合病院(大館市)	医療機関	聖康会病院(青森県弘前市)
	東台病院 (大館市)		弘前愛成会病院(青森県弘 前市)
	秋田緑ヶ丘病院(秋田市)		もりおか心のクリニック (岩手県盛岡市)
	長信田の森診療クリニック (三種町)		大館市福祉事務所(大館市)
	杉山病院(潟上市)	福祉事務所	鹿角市福祉事務所(鹿角市)
	今村病院 (秋田市)		北秋田市福祉事務所(北秋 田市)

	たかのす今村クリニック	社会福祉協	藤里町社会福祉協議会(藤
	(北秋田市)	議会	里町)
	秋田県立リハビリテーション・精神		ワーク小田工房(岩手県滝
	医療センター(大仙市)	就労継続支	沢市)
	協和病院(大仙市)		のびやか丸 (岩手県盛岡市)
	援事業所	援事業別	クローバー就労継続支援事
	平和台病院(岩手県紫波町)		業所 (秋田市)
	岩手晴和病院(岩手県盛岡	障害者総合	<b>松</b> 国(須知士)
	市)	支援事業所	松風(湯沢市)
	北秋田市民病院(北秋田市)		ひばりが丘ホーム(北秋田
		- <del>1/-</del> -2#- +/ <del>-</del> 3-11	市)
	秋田大学医学部附属病院	救護施設	好地荘(岩手県花巻市)
	(秋田市)		好地在(右于泉化各印) 
	市立大曲病院 (大仙市)	地域生活支	滝沢(岩手県滝沢市)
	世光序院 (出工用世光士)	•	地域活動支援センターのぞ
	花巻病院(岩手県花巻市)	援センター	み (岩手県一戸町)
	北リアス病院(岩手県久慈	生活訓練施	タイナ (円で用り 女士)
	市)	設	銀杏荘(岩手県久慈市)
	岩手県立一戸病院(岩手県	精神保健福	岩手県精神保健福祉センタ
	一戸町)	祉センター	一(岩手県盛岡市)

## [改善・向上方策 (将来計画)]

本学の規模から、校舎・駐車場の面積は適切である。独立した「学生相談室」を設けるスペースがなく、保健室がその役割を兼ねている。教員と学生との面談は通常、クラス担任の研究室、教員研究室の近くにあるミーテイングルームで行われている。

本学は前身の秋田桂城短期大学開学から 20 年を経過し、授業で使用する機器や用具・用品等の故障や劣化も一部に見られてきている。平成 27 年度は授業で使用する教場のスクリーンやプロジェクター、パソコン等の新規購入および一部更新を行った。また実習室で使用する看護・介護用品の購入についても毎年計画的に行っているが、今後も授業に支障を来たさないように継続する。

附属図書館については、定期試験期間や実習期間等に開館時間を延長している。また、飲食や周囲に迷惑がかかるような私語を禁止し、学習環境を整えるよう努めている。市内に専門書の書店がなく、かつ常に新しい内容が求められる分野でもあるため、改訂書を含め、今後も蔵書の充実に努めていく。図書館職員は毎年、1年生への図書館利用の仕方の指導の他に、3年生には文献検索の指導を行っている。学生にとって学術的な情報を得る訓練として貴重な経験である。図書館司書の継続的任用によって、図書館業務の充実を図る。

実習施設については、新カリキュラムへの移行により新たな施設を確保しているが、今後も拡大する学習ニーズに対応できるよう随時新規実習施設の開拓等を行っていく。

# 第3章 経営・管理と財務

## 1. 経営の規律と誠実性

本学の設置者である学校法人ノースアジア大学は、「学校法人ノースアジア大学寄附行為」(以下、「寄附行為」という。)4条に、教育基本法、学校教育法に従い、真理、調和、実学を教育理念とし、教育を行うことを目的とすると定め、これを総則として、「秋田看護福祉大学学則」1条、6条2項において大学、学部・学科ごとの教育目的を明記している。本学は、これらの目的達成と維持発展のため、関係法令や寄附行為、学内諸規定を遵守し、理事会の決定に基づいて規律ある経営に努めている。日常の業務については、理事長が行う事務の総括のもと(私立学校法第37条第1項、寄附行為6条)、「学校法人ノースアジア大学組織規程」に定める体制に基づき、私立学校としての運営を自律的に行っている。併せて、地域社会に対して教育を還元することができるように、公共性を高めながら高等教育機関としての役割を果たしている。本法人では、社会から信頼される組織として、法令を遵守し健全かつ適正な運営を行うため、「コンプライアンスの推進に関する基本方針」を定めるとともに、「学校法人ノースアジア大学職員(教育職員・事務職員)の行動規範」「学校法人ノースアジア大学公益通報に関する規程」を制定している。

以上のように、本学は、組織倫理に基づいた業務が遂行されており、経営の規律と誠実 性は維持されていると評価する。

現理事長が就任してから 10 年になる。理事会の意思決定のもと、理事長が学長を兼ねており、途中法人名を変更することがあっても経営方針・教育方針は一貫してぶれることがない。組織は、社会の流れとともに常に改革し、寄附行為 4条、学則 1条の大学の使命・目的を果たすため、スピード感を持ち業務を遂行している。

理事長総室、法人事務部、大学事務部が連携を密にし、教育目的を達成するため、学生 をバックアップできる体制を整えている。

本学の事務職員・教育職員は、組織人としての意識を常に持ちながら、前年度の業務を検証し、その検討をもとにして、次年度の目標を設定し、その実現に向けて業務を行っている。特に幹部職員は、業務遂行の過程で、問題点・改善点を繰り返し検証・是正し、成果を出すようモチベーションを高めている。

以上のように、大学運営における使命・目的を実現するために継続的な努力を続けている。

本法人の運営は、私立学校法及び関係法令に基づき、役員・評議員が選任され、必要要件を満たし、適正に行われている。大学については、教育基本法を基本法規とし、学校教育法及び関係法令、大学設置基準等を遵守し、必要な教員数、校地・校舎面積を満たし、建学の精神等に沿った教育課程等を編成し、適正に運営されている。

関係法令が変わる都度、当該法令等に関係する部署では本法人の諸規定等と照らし合わせ検討し、必要があれば学内手続きに基づき速やかに改正を行っている。改正後は、当該関係部署において内容の周知を図っている。また、所轄庁の権限のもと、認可事項、届出事項又は報告については、私立学校法又は私学助成法に則り、当該関係部署で遅滞なく法

令を遵守して履行している。

高等教育機関として倫理上重要視される定めについては、「コンプライアンスの推進に関する基本方針」、「ハラスメントの防止等に関する規程」、「学校法人ノースアジア大学公益通報に関する規程」を制定している。以上のように、大学の設置・運営に関する必要な規定を定め、法令遵守に努めている。

安全への配慮については、「学校法人ノースアジア大学防災管理規程」、「秋田看護福祉大学防災規程」、「秋田看護福祉大学消防計画」に基づき、常日頃から災害に備え、施設設備の点検を定期的に行い、予防管理に努めている。防災対策委員会は大館市消防本部の指導を受け、年1回、全学年の学生及び教職員を対象に避難訓練を行っている。

- ◆防災避難訓練:平成 27 年 6 月 25 日 (木) 11 時 40 分~12 時 10 分
  - 内容 (1) 厨房からの火災発生を想定し、校内アナウンスで周知する。
    - (2) 緊急放送により学生並びに教職員を避難・誘導する。
    - (3) 教職員による避難確認作業の実施。
    - (4) 教職員による避難経路の確認、避難後の点呼などの実施。
    - (5) 初期消火訓練(消火器使用)の実施。
    - (6)避難訓練に関する講評(派遣署員)・自主訓練。

### その他

- (1) 防災避難訓練計画により行う。
- (2) 避難経路については、「災害時における避難経路」(H27) を使用する。

防犯・防火の観点から、不審者の構内への不法侵入・盗難防止のため、構内 4 ヶ所に防犯カメラを設置し、使用していない施設は常時施錠している。また、外部委託の警備員及び本学の職員が定期的に学内を巡回している。

保健室には保健師が常駐し、学生の怪我や健康相談に対応しており、全学生が一般社団法人日本看護学校協議会共済会の総合補償制度「Will」に加入している。保健室前及び体育館入り口にはAED(自動体外式除細動器)を設置しており、不測の事態にも対応できるようにしている。

敷地内の雑草は、技員が除草剤を一切使わずに草刈りをし、環境保全に努めている。CO2の削減、節電対策としては、不要な電気の消灯、大学事務部の天井に設置されている蛍光灯の間引き、クールビズの実施、夏場の冷房を28度に設定するなど工夫している。また、受動喫煙による健康被害を防止するため、敷地内を全面禁煙としている。障がい者でも安全に学生生活を送れるよう、施設全体がバリアフリー対応になっている。

人権への配慮については、「コンプライアンスの推進に関する基本方針」、「ハラスメントの防止等に関する規程」、「学校法人ノースアジア大学公益通報に関する規程」、「学校法人ノースアジア大学就業規則」、「個人情報の保護に関する規程」、「個人番号及び特定個人情報取扱規程」を制定し、各方針・規程に基づいて人権擁護に努めている。なお、実習では学生に対して倫理的配慮について指導を行い、患者及び入所者からの同意に基づいて実習を行っている。各教員の研究については、学生の卒業研究も含めて、倫理委員会の審査を

受けることが義務付けられている。

教育情報の公表については、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき「学校法人ノースアジア大学情報公開規則」で規定されている情報を本学ホームページに公表している。財務情報については、財産目録、資金収支計算書、事業活動収支計算書・貸借対照表、事業計画書、監事による監査報告書、学校法人会計の特徴や企業会計との違い及び科目の概要について、ホームページに公開するとともに、学園広報誌「さくら」への掲載や法人事務部に備え付けるなど、いつでも閲覧できるようになっている。

以上のように、教育情報及び財務情報の公表については、適切に開示している。

(学校法人ノースアジア大学寄附行為、教育基本法、学校教育法、秋田看護福祉大学学則、学校法人ノースアジア大学組織規程、私立学校法、大学設置基準、コンプライアンスの推進に関する基本方針、ハラスメントに関する規程、学校法人ノースアジア大学公益通報に関する規程、学校法人ノースアジア大学就業規則、個人情報保護に関する規程、学校法人ノースアジア大学防災管理規程、秋田看護福祉大学防災規程、秋田看護福祉大学消防計画、学校法人ノースアジア大学情報公開規則、秋田看護福祉大学ホームページ、学校法人ノースアジア大学ホームページ)

## [改善・向上方策 (将来計画)]

本学独自の教育の使命・目的を達成するため、経営の規律と誠実性を確保するという基本軸を堅持しつつ、社会の急激な変化に迅速かつ柔軟に対応し、新たな取り組みを行っていく。さらに、環境保全、人権、安全への配慮を常に怠らず、情報発信も積極的に行い、組織倫理に基づいた厳正な運営に努めていく。

### 2. 理事会の機能

高等教育機関を取り巻く変化の激しい環境の中で、法人の意思決定を迅速かつ的確に行 うために、戦略的意思決定を行い、機動的に対応しうる体制を整えている。

大学の目的を達成するために、理事会は、本法人の寄附行為の定めに基づき、業務決定の最高意思決定機関として機能している。理事会の運営に関しては、寄附行為 12 条、13 条に規定されている。理事会は、予算、決算、借入金、財産の管理・運営、事業計画、寄附行為の変更、学校・学部・学科の設置・廃止、学則・規程の制定・改正・廃止、収容定員の変更、学納金の改定、役員・評議員の選任・解任、学長指名にかかる同意など、重要な事項について審議・決定している。

理事の選任については、寄附行為 7 条に規定されている。理事の定数は、5 人以上 8 人以内で、選任区分は、1 号理事「ノースアジア大学長」、2 号理事「学識経験者で、理事会において選任された者 1 人以上 3 人以内」、4 号理事「評議員のうちから理事会において選任された者 1 人以上 3 人以内」となっており、いずれも任期は 2 年である。

理事の数は、平成28年5月1日現在、1号理事は1人、2号理事は1人、3号理事は2人、4号理事は1人の計5人である。

理事長は、理事の互選により選任され、ただ一人この法人を代表する。現在、理事のうちから理事長が指名した副理事長が常勤しており、理事長を補佐し、法人の業務を監督している。

平成27年度は理事会を8回開催し、決算、事業報告、法人・大学の規程の改正・制定、 学則変更、予算(補正含む。)、予算編成基本方針、役員の選任等を審議・決定している。

平成27年度の理事会出席率は75%である。理事の数が少ないため会議が開きやすく、 迅速かつ適切な意思決定が行われている。本法人は委任状出席を認めていない。一人ひと りの理事は、各人の責任のもと理事会に出席し業務の決定を行っている。

以上のように、本法人の理事会は適切に運営され、迅速かつ的確に意思決定する体制を 整えている。

(学校法人ノースアジア大学寄附行為)

### [改善・向上方策 (将来計画)]

大学の使命・目的を達成するため、現在の管理運営体制を基本としつつ、大学を取り巻く環境の変化に対し、迅速に対応できる体制を一層強化していく。

# 3. 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ

本来、大学としての意思決定は、最終意思決定機関である理事会の権限と責任のもとに行うべきところ(私立学校法第 30 条第 2 項)(注①)、理事会は常置機関ではないから教育等についての日常業務は理事長に委任されていると考えられている(通説・判例)。そして、本学の場合、学長が理事長を兼ねているので、大学経営と法人の運営方針には全く齟齬が生じていない。むしろ、教学に精通している学長が経営者としての理事長を兼ねているので、教学部門の意思が十分に反映されているといえる。

理事会では、大学の教育を含む法人の業務について重要な決定を行うことになるが、その理事会の5人の理事のうち2人が教員である。大学教員の2人の理事は、それぞれが学長兼理事長及び副学長兼副理事長であるから、組織的にも教学部門の意思を、理事会に反映することが可能である。

学長(理事長)は、校務をつかさどり所属職員を統督する立場にある。具体的には、大学の教育などすべての業務決定にあたり、必要に応じて担当する教育職員・事務職員及びこれを管理する所属長との面談を行い、意見を吸い上げることができるようになっている。本学は、1学部のみの小規模の大学である。看護福祉学部には看護学科と、福祉学科が置かれている。

各学科では忌憚のない意見交換の場として、学科ミーティングを月1回開催し、学科の教育研究に関する事項について協議をしている。学科ミーティングで協議された事項は、原則として関連の委員会で審議した上で教授会に提案される。なお、看護学科の学科ミーティングにおいては、看護研究係、カリキュラム検討係、学内演習係などの係を置き、学科内の意見が十分に反映され、かつ各種委員会と相互に連携しての教育研究が円滑に行われるように配慮している。

学部には教授会が置かれており、教授会については、「秋田看護福祉大学看護福祉学部

教授会運営規程」4条に定める「(1)学生の入学、卒業及び課程の修了(2)学位の授与(3)前2号に掲げるもののほか、教育研究上に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして理事長が定めるもの」を審議している。

教授会は、毎月1回開催され、学部長が招集しその議長となる。教授会は適切に機能している。なお、学校教育法の一部改正により、教育に関する重要な事項で理事長(学長)において教授会の意見を聴くことが必要な事項、理事長(学長)の求めに応じ、意見を述べることができる事項については、平成27年4月1日に理事長(学長)が定め、各学部長からそれぞれの教授会構成員に周知された。

教授会には、教授会が委任した事項を審議するため、9 委員会が置かれている。なお、 教務委員会は看護学科・福祉学科の両学科に委員会を置いている。教養科目や総合科目に 関すること、両学科に関連する事項の審議は両学科合同で教務委員会を開き、審議してい る。各委員会の審議事項についても速やかに学部長に報告している。

## ◆教授会運営規程で定められている委員会 (規程等)

- ·入試委員会(秋田看護福祉大学看護福祉学部入試委員会規程)
- · 看護学科教務委員会、福祉学科教務委員会(教務委員会規程)
- · 国際交流委員会(秋田看護福祉大学国際交流委員会規程)
- · 倫理委員会(秋田看護福祉大学倫理委員会規程)
- · 学生委員会(秋田看護福祉大学学生委員会規程)
- · 就職委員会(秋田看護福祉大学就職委員会規程)
- ・ファカルティ・デベロップメント推進委員会 (秋田看護福祉大学ファカルティ・デベロップメント推進委員会規程)
- · 図書委員会(秋田看護福祉大学図書委員会規程)
- · 広報委員会(秋田看護福祉大学広報委員会要綱)

### ◆それぞれの規定で定められている委員会

- ·看護実習指導計画委員会(秋田看護福祉大学看護実習指導計画委員会規程、秋田看護福祉大学看護実習指導担当者連絡会議要綱)
- ·介護実習等指導計画委員会(秋田看護福祉大学介護実習等指導計画委員会規程、秋田 看護福祉大学介護実習等指導担当者連絡会議要綱)
- 防災対策委員会(秋田看護福祉大学防災規程)
- ・自己点検及び自己評価委員会(秋田看護福祉大学自己点検及び自己評価規程)

一方、学長である理事長は、月一回程度の頻度で各所属長をメンバーとする、所属長会議を開催し、学園内の意思の疎通、情報の共有を図っている。これは、学園内の運営の統一と、各機関の間の調整、特に事務局との調整を図るために開催されている。

他方で、実習に係る事項を協議するため、本学に、「看護実習指導計画委員会」、「介護実習等指導計画委員会」が置かれている。委員会には委員長を置き、両学科長が委員長にあたっている。委員会で審議した事項は遅滞なく学部長に報告している。なお、実習計画及び実習指導計画に関する事については教務委員会にも報告している。

臨地実習においては、倫理的配慮に努め、患者等の承諾のもとに同意書を取り交わした 上で実習を行っている。実習施設の職員は臨地実習指導者として実習部署に複数配置され、 本学の実習指導教員と連携し、学生の実習を指導している。このように、本学の実習指導 教員と臨地実習指導者や実習施設の管理者等との連携を図るために、看護学科では「看護 実習指導担当者連絡会議」を、福祉学科においては「介護実習等指導担当者連絡会議」を 年2回開催し、学生の実践能力の育成を目指した実習環境を整えている。

## ◆看護実習指導計画委員会の活動内容

係	内容
	・委員会の企画・運営・学内他部門との交渉・調整
	・学外施設との交渉・調整 ・各係との相談応需
調整・交渉等	・諸提案等のとりまとめ
	・連絡会議の開催
	病院、保健所、施設ごとにそれぞれ年2回行う。
実習計画・学生配	・年間実習計画の作成 ・教員配置 ・学生配置
置	・実習オリエンテーションの企画・運営 ・看護学実習の手引き編纂
技術水準検討	・採決等身体侵襲の大きい技術の実施水準の検討
技術習得·到達度	・実習終了後の技術習得および到達度の集約
まとめ	・技術習得表様式の配布
実習評価	・実習評価:評価内容の検討と結果の集約
倫理文書	・同意書:同意書の整理・補充・保存作業・同意書の予算請求
(同意書・インシ	・インシデントレポート・有事対応マニュアル
デント)	
  実習記録	・実習用記録の取りまとめ・実習設備・備品の検討
実習設備・備品	・コピー用紙等の消耗品の補充・管理
学生実習用品	・タクシー乗車券の管理
<b>丁工大日</b> 川 叫	・学生ユニフォーム・ナースシューズ等

注① 私立学校法は、学校教育法の特別法であり、したがって、当然のことながら私立大学については、同法に優先して私立学校法が適用される。すなわち、本来、教育・人事を含む一切の業務を決定する権限を有するのは理事会である。しかし、理事会が常置機関ではないことから、大学の日常業務については、その執行機関である理事長に委任されることになる(判例及び通説)。これに対し、学長及び学部長は、学校法人と雇用契約を締結している単なる労働者に過ぎず、業務決定及び業務執行については、学校法人において固有の権限を有する者ではない。学長等は、理事会又は理事長から委任を受けた場合に、理事長の補助者として、又は代理者として、教育に関する業務を行うことになるのである。

これまでの学長及び教授会の権限等に関する様々な改正が行われてきたが、これらはいずれも国立大学等に関する問題であり、私立大学の法的取り扱いには何ら変

更はないといわれている。

本学では、「この法人を代表し、法人の業務を総理する」理事長(寄附行為6条)が、「上司の命を受け校務をつかさどり所属職員を統督する」学長を兼ねている。これにより、理事長である学長は経営に直結し、また、学長としてのリーダーシップをも十分に発揮している。

学長を支える職制の職務としては、副学長を始め、学部長、学科長、大学事務部長、図書館長、総合研究所長等がある。

学長を補佐する職として、副学長がおり、「学長の命を受けて校務をつかさどり、学長に事故があるときはその職務を代理する」と、その位置づけ・役割が本法人組織規程に明記されており、適切に機能している。

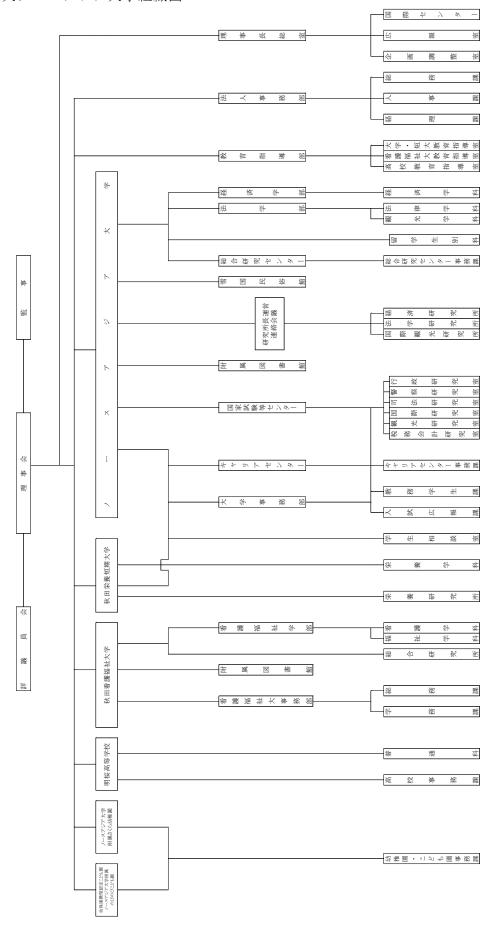
このほかに、看護福祉学部長、両学科長、福祉学科長代理、看護学科長補佐、大学事務 部長、学務課長兼総務課長等は、本法人組織規程、「職務の代理等に関する規程」の定めに より、学長のリーダーシップの下、学長を補佐し、それぞれの役割を果たしている。

学長(理事長)が各部署と面談をする際は、副学長である副理事長と、大学事務部長が常に同席する。普段は学長、副学長及び事務部長は、秋田市にある法人本部において、職務を担っているため、学部長、学科長、学科長代理、学務課長兼総務課長が法人本部を訪れ、学長、副学長及び事務部長と面談している。なお、本学と法人本部が遠く離れていることから、軽微な業務内容の検討については電話会議システムを利用するなど、即時的な連携が図れるよう対応している。

このように、学長のリーダーシップが適切に発揮できる補佐体制が整備されている。

(私立学校法、学校法人ノースアジア大学組織規程、秋田看護福祉大学看護福祉学部教授会運営規程、秋田看護福祉大学看護福祉学部入試委員会規程、教務委員会規程、秋田看護福祉大学国際交流委員会規程、秋田看護福祉大学倫理委員会規程、秋田看護福祉大学学生委員会規程、秋田看護福祉大学就職委員会規程、秋田看護福祉大学ファカルティ・デベロップメント推進委員会規程、秋田看護福祉大学図書委員会規程、秋田看護福祉大学広報委員会要綱、秋田看護福祉大学看護実習指導計画委員会規程、秋田看護福祉大学介護実習等指導計画委員会規程、秋田看護福祉大学介護実習等指導計画委員会規程、秋田看護福祉大学介護実習等指導担当者連絡会議要綱、秋田看護福祉大学防災規程、秋田看護福祉大学介護実習等指導担当者連絡会議要綱、秋田看護福祉大学防災規程、秋田看護福祉大学自己点検及び自己評価規程、学校教育法、学校法人ノースアジア大学寄附行為)

# ◆学校法人ノースアジア大学組織図



# [改善・向上方策 (将来計画)]

大学の意思決定は、理事長・学長の適切なリーダーシップが発揮される体制で迅速に行われている。今後も、理事長・学長の権限と責任のもと、その補助者である教職員は、トップの考え・方針を理解し、協働して学園を運営していかなければならない。これまで以上にリーダーシップを発揮しやすい環境を整え、教職員の責任と業務執行における意欲の向上に努めていく。

## 4. コミュニケーションとガバナンス

本法人では、理事長が学長を兼ねているので、強いリーダーシップのもと、法人管理部門と大学管理部門の円滑な意思の疎通が保たれている。

法人内の情報共有と意思疎通を図るために、理事長、副理事長、学長、副学長、理事長総室長、法人事務部長、学部長、校長、園長など、各機関の所属長で構成される「所属長会議」を開き、理事長のもと法人全体の連携・調整・意見交換を行っている。また、社会のめまぐるしい変化に即応するため、理事長の必要に応じて又は所属長からの希望を受けて、毎週月曜日に、理事長・副理事長・法人事務部長に当該所属長等を加えた非公式の朝会が開催され、教育に関する課題の検討や法人事務部との調整などを行っている。

さらに、毎年、学園全体で行っている教職員運動会・親睦会、親睦旅行などは、それぞれの行事ごとに運営グループを組織しているが、そのメンバーについては、特定の組織に偏ることなく、各組織から担当者を推薦させ、組織間の意思疎通と交流を図っている。これにより、組織の垣根を越えて教職員間の親睦を深め、高大連携事業を含む業務の円滑化・迅速化・効率化に功を奏している。

以上のように、情報の共有や意思決定の円滑化によって部門間の連携が適切に図られている。

理事には、理事長を兼ねた学長と副理事長を兼ねた副学長が就任し、評議員には理事でない看護福祉学部長が就任しており、教学部門からのチェック機能が働いている。

また、学内の全ての業務執行にあたっては、緊急なもの・軽易なもの以外は全て起案決裁を経て行うことになっている。その際、異なる部署ではあるが関係する事項がある場合は、合議の手続きを経なければならず、更に各々の担当部署からの視点で当該案件を相互にチェックしている。

事務職員間の情報共有を図るために、毎日朝会を実施している。学務課長兼総務課長から一日の業務予定、重要事項等を課員に報告し、課員の方からも、業務の進捗状況や課員同士で必要と思われる情報を報告している。朝会の報告事項については、業務日誌にも記載され、毎日各課員に回覧している。その結果、本学のような小規模な事務組織において、職員が出張や体調不良で欠けた場合でも、職員同士でお互いに業務をフォローすることができている。

事務職員・教育職員間の意思疎通を円滑にする施策も工夫されている。教学部門では、 学部長・学科長が1日1回は大学事務室で稟議事項の処理を行い、学務課長兼総務課長や 課員との確認・打ち合わせを行い、問題解決に努めている。また、他の教育職員も教学に 関する諸問題の解決にあたって、頻繁に大学事務室を訪れ、学務課の課員と密接に連絡を 取り合っている。

監事の選任については、寄附行為8条及び「学校法人ノースアジア大学監事の選任等に関する規程」に基づき、評議員会の同意を得て、理事長が選任することになっている。監事は、理事会・評議員会に出席し、寄附行為8条の定めにより、法人の業務・財産の状況について監査し、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会・評議員会に報告をしている。本法人の監事の定数は、寄附行為5条により2人で、平成28年5月1日現在の監事は、定数2人を満たしている。なお、平成27年度の監事の出

席率は理事会 60%、評議員会 63.6%であるが、監事のうちどちらか一方は必ず出席しており、欠席した場合でも当該議案を送付し説明を行っているので状況が把握されている。また、本法人では、公認会計士が会計指導・会計監査を行っており、監事は、この公認会計士3名とディスカッションの場を設けるなど積極的に情報交換を行っている。これらのことから、監事の職務は適切に機能している。

評議員会は、本法人寄附行為14条に基づく評議員で構成され、16条、17条により理事長が招集して議長を務め、18条により、適切に会議を行っている。また、寄附行為に定める事項及び19条に定める事項については、理事長があらかじめ評議員の意見を聞いていることから、チェック機能が果たされている。評議員の選任については、寄附行為14条、「学校法人ノースアジア大学寄附行為第14条第1項及び第5号の評議員推薦要項」に基づき、適切に行っている。評議員の数は、平成28年5月1日現在で、指定職評議員であるノースアジア大学学長、秋田看護福祉大学学長、秋田栄養短期大学学長は1人が兼ねており、この法人の教職員のうちから理事会において専任された者(7人以上12人以内)は8人、この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上の者のうちから理事会において選任された学識経験者(1人以上4人以内)は2人、合計13人となり、評議員の最低定数11人を満たし、理事の現員数5人の2倍を超える数をも満たしていることから評議員の人数は適切である。平成27年度の評議員会は6回開催されており、評議員の出席率は87.2%と良好で、適切に運営されている。なお、本法人は、委任状出席を認めていない。

以上のように、監事及び評議員が理事会に対してチェックを行う仕組みが有効に機能している。

理事長は、全教職員に向けて法人の基本方針や教育論を提示するとともに、重要な指針 や具体的な施策を明示するなど、全般的に強力なリーダーシップを示している。

また、法人及び大学の組織や運営の状況について常に点検と評価を行い、改善に向けて主導的な役割を果たしている。

各担当部署が業務を執行するときは、「学校法人ノースアジア大学の稟議に関する要綱」、「文書取扱内規」に従い、決裁権者の承認を得ることになっている。各セクションから上げられる個々の案件のうち、重要な事項については、所属長が事前に検討し組織の意見をくみ上げ、理事長面談(必ず副理事長、法人事務部長が入る。)を行い、提案の説明を行っている。

理事長は、決裁するにあたって、必要がある場合は、当該関係職員(事務職員・教育職員)からも直接意見を求めることがある。また、法人の運営又は学部の運営について、理事長は、職員から所属長経由で直接レポート等の提出を求める場合もある。このように法人のトップである理事長(学長)は、職員の考え・意見を常に把握し、人材の発掘にも努め、より良い経営に反映させている。

さらに、今年度は教職員一人ひとりが抱える業務の課題及び提案等をくみ取るために、 副学長が本学の全教職員(パートも含む)に対して、個別面談を実施した。教職員からの 意見・要望等は理事長(学長)にも報告をし、個別に対応をした。

以上のように、法人の基本方針を明示するとともに、大学からの企画や提案を積極的に

くみ上げることで、リーダーシップとボトムアップのバランスが取れている。

(学校法人ノースアジア大学寄附行為、学校法人ノースアジア大学監事の選任等に関する規程、学校法人ノースアジア大学寄附行為第14条第1項及び第5号の評議員推薦要項、 学校法人ノースアジア大学の稟議に関する要綱、文書取扱内規)

### [改善・向上方策 (将来計画)]

本法人寄附行為及び諸規定に従い、より一層適切な運営とガバナンスを機能させていく。 経営の良し悪しは、熱意のある事務職員・教育職員と、知恵のある事務職員・教育職員の 存在が大きい。理事長は、迅速な決定と効果的な学園運営を進めていくため、今後もボトムアップを適切に機能させ、トップダウンを効果的に進めていく。そのためには、法人独自のコミュニケーションの円滑化に取り組んでいく。

## 5. 業務執行体制の機能性

本法人の事務組織は、「学校法人ノースアジア大学組織規程」により職制、担当業務が編制されている。

管理部門には、法人全体の政策・施策を行う理事長総室と、本法人が設置する学校全体の事務処理を行う法人事務部があり、法人事務部には総務課、人事課、経理課を置いている。一方、教学を支援する部署としては、大学事務部に学務課を置き、その下に教務、学生、就職、入試、広報、図書の担当者が配置されている。その他に総合研究所、図書館などを配置している。また、大学事務部には土地・建物の保全管理、緑地管理、施設・設備の利用、災害防止対策、警備、清掃等を対応するため総務課が置かれている。物品購入・調達などについては、法人事務部総務課と連携を図って対応している。

職員は、各部署に適切に配置している。業務経験豊富な職員には、兼務発令を行い、時期によって担当業務の忙しさが異なる場合、互いに業務を助け合うことが容易にできるようになった。これにより、仕事処理の配分や処理方法の工夫をするようになり、スキルアップにもつながった。各人の能力や適性、将来性を鑑み、各部署の事務分掌、進捗状況を常に考慮しながら、長期、短期的に必要に応じて適切な人事配置を行っている。

「学校法人ノースアジア大学寄附行為」に基づき、理事長が総理する業務(教育も経営もすべて含む。)の執行は、「学校法人ノースアジア大学組織規程」に掲げる各部署で、同規程中の担当事務を、「学校法人ノースアジア大学の稟議に関する要綱」「文書取扱内規」に従い、理事長の補助者である事務職員が、相互に連携して行っている。

理事会の議決事項・報告事項は、学内に告示されるとともに、所属長会議において報告されている。事務部門においては、「学校法人ノースアジア大学課長以上等会議要綱」に基づき月1回課長以上等会議が開かれ、そこで同要綱に定める事項について審議・連絡・調整を行い、各部署間の共通認識を保ちながら連携が図られている。

幹部職員が理事長・学長からの教育・経営方針に関する命を直接受け、各課員に指示することで、組織全体でのトップダウンがスムーズに流れ、円滑な業務の執行体制を確立することができている。業務報告が行われ、その際に所属部局の懸案事項も提出されること

から、提案から決裁を経て執行されるまでの時間が短縮され、停滞が生じにくい組織づく りがなされている。

一方、教職員は、理事長の経営方針と教育方針を理解し、大学の目標・使命の達成に向けて個々の業務に関する振り返りを節目に行い、新たな目標を設定する。これによって、業務遂行のための明確な目標管理と執行、検討と改善の PDCA サイクルを回すことが可能となっている。

以上のように、業務執行の管理体制は適切に構築され、適切に機能している。

本法人では、事務職員の資質・能力向上を目的とした事務職員研修を年数回実施している。この研修は、全事務職員向けの講習会のほか、階層に応じたテーマで計画し、実施している。全事務職員向けの研修は、外部講師や理事長・法人幹部が講師となり、業務に必要な法律知識や私立の教育機関に働く職員としての心構えなど、当然備えておくべき知識・姿勢について学ぶ場となっている。また、階層別の研修では、それぞれの部署における課題・問題点を抽出し、階層ごと又は部署ごとに検討を行うという、具体的で実務的な研修となっている。

これらのほか、日本私立大学協会や日本私立学校振興・共済事業団など、外部機関や企業が開催する研修会等にも積極的に参加し、最新の情報や法令改正などにも迅速に対応している。外部研修に参加した場合、研修後に、その参加者による全事務職員を対象とした報告会を開催している。報告会は、研修の成果を共有できるほか、自らが講師となることにより、人前で話す度胸と責任感、プレゼンテーション力が向上するなど、その効果が大きい。

事務職員を適切に把握するため、所属長による評価を毎年定期的に実施し、その評価内容を基に職員を励まし、指導し、資質・能力向上の動機付けを行っている。なお、事務職員が毎日記載している業務日誌は、各所属長が毎日目を通すので、課員の業務遂行能力、時間の使い方等を把握することができ、部や課全体の運営や事務の分掌、評価に役立っている。

また、現在事務職員の業務マニュアルの整備が進んでいる。このマニュアルを個々の担当者が自ら作ることで、業務遂行のあいまいさがなくなり確実性が増していく。人事異動又は課内で担当が変わった場合、後任者は前任者が作ったマニュアルに沿って仕事をすることになるが、簡潔で分かりやすい記載を所属長と相談して更新し、完成に近づかせている。

本法人の事務職員の構成は、総合職職員、一般職事務職員、契約職員、臨時的任用職員からなる。事務職員は、新卒者と既卒者の両方から採用している。採用にあたっては、将来幹部職員となる総合職事務職員としての採用は慎重に行い、様々な職員研修や評価の結果を総合的に判断してから試験を行い、総合職事務職員に登用するようにしている。

これらを踏まえて、職員は通常の業務を通じて成長していくことから、日常における人材育成の中心は OJT となる。

本学においては、事務職員は教員の補助者ではない。理事長の業務の一部を補佐し、また委任された事項について、自ら決してその業務を遂行するということを常に自覚し、日々の業務にあたっている。

以上のことから、日常的な訓練をはじめ、定期的な外部研修への参加など、事務職員の 資質・能力向上の機会を用意し、実施している。

## ◆平成 26·27 年度 SD 研修会

日付	名 称	内 容
平成 26 年	新採用職員研修	・学園概要説明
4月1日		・文書作成、電話対応、ビジネスマナー
平成 26 年	職員研修会	・私学事務職員の基礎知識
7月27日		
平成 26 年	課長級職員研修会	・若手職員からのアンケートをもとにした検討
8月4日		会
平成 26 年	外部研修会参加	日本学生支援機構奨学金学校事務新任者研修会
8月5~6日		(東京国際交流館プラザ平成)
平成 26 年	外部研修会参加	平成 26 年度私立大学協会東北支部事務研修会
9月4~5日		(福島学院大学駅前キャンパス)
平成 26 年	職員研修会	<ul><li>私大協事務職員研修会参加者報告</li></ul>
10月30日		・業務マニュアル作成について
平成 27 年	新採用職員研修	• 学園概要説明
4月1日		・文書作成、電話対応、ビジネスマナー
平成 27 年	外部研修会参加	平成 27 年度私立大学協会東北支部事務研修会
9月3日~4日		(グランドサンピア八戸)
平成 27 年	職員研修会	<ul><li>私大協事務職員研修会参加者報告</li></ul>
10月30日		
平成 27 年	職員研修会	・仕事に対する姿勢について
11月16日		
平成 28 年	マイナンバー説明	・マイナンバー制度について
1月21、29日	会(2回同一内容)	・マイナンバーの業務との関連について

### 「改善・向上方策 (将来計画)]

教職員が一丸となって本学の使命・目的を果たすために、社会の変化に即応できる柔軟な組織体制を確立していく。さらに、業務執行の機能を向上させるために、事務職員の業務の専門性を高め、迅速性を促すとともに、多面的に業務に精通した職員を育成する。本学が目指す組織である「小規模多機能型」の組織に向けて人材育成を進める。そのためには、各種研修はもちろんであるが、身の丈よりも少し高度な業務を担当させ、達成感を持たせ、能力向上を図るという方策を行っていく。

## 6. 財務基盤と収支

本法人は、近年の少子化に伴い、とりわけ厳しい経営環境に置かれているが、学園が永続的に運営していくために、教育内容について、「教育の質の向上」「学習意欲の喚起」「学生・生徒の学習と生活支援の充実」を柱として改革を行っている。この状況下において、本法人は、平成17(2005)年度以降、無借金経営を継続している。

本学が養成している看護師においては、需要見通しが供給見通しを上回り、売り手市場になっている。このように看護師不足が続く中で、看護師は魅力ある職業として希望する高校生も多く、本学の志願者数も平成 18 年以降年々増加を続けており、学生生徒等納付金も平成 19 年から少しずつ増加している。しかし、看護師と比較して福祉職の希望者が全国的に見ても少ない傾向にあり、本学においても同様の傾向があるといえる。学部全体で考えると、この先も安定的に入学者が見込めるという楽観視はできない。このことから、人件費や管理経費などの削減に力を入れる一方で、学生のニーズを取り入れつつ、既存の建物・設備をこまめに修理・修繕を行いながら教育環境を整えるという方向で動いている。

本法人は平成 25 年度に学園創立 60 周年を迎え、それを機に、新たな 5 か年計画が策定された。以来、その計画に沿いながらも方向修正を加え、基本は、収入に見合った支出を心がけている。一方では、資金を投入すべきところは建物であれ人件費であれ大胆に投入するなど、今後の入学者数の予測と過去の状況を踏まえて、教育面の質の充実に重きを置いた経営姿勢を貫き、将来に向けた堅実な経営を進めている。

本法人の経営状況は、平成 16 年度で借入金の返済が終了、その後定年年齢の引き下げ、早期退職優遇制度の導入、教員の任期制の導入等により、平成 20 年度から当年度消費収支差額は黒字に転じている。平成 25 年度からも、執行状況を継続的に管理した結果、平成 27 年度も当年度収支差額は黒字として 28 年度に繰り越されている。よって、翌年度繰越収支差額は平成 15 年度 872,489 千円から平成 27 年度決算に至るまで、翌年度繰越収支差額 3,992,319 千円の黒字となっている。法人全体の財政基盤の確立と安定した法人経営が行えるよう努力した結果、決算にもその成果が表れているといえる。

このことについては、5 カ年財務計画を基に、予算編成基本方針を策定し、その方針に 基づき事業計画書、収支予算書が、理事会で決定されている。

理事会で決定後、予算内容等について、各部署に周知を図り、予算の執行が行われている。

なお事業計画から予算の執行が大きく変更されている場合は、状況を見極めながら、毎年補正予算案も提出し、見直しを行ったうえで、理事会の承認を受け、補正後の予算を以て、予算内で対応可能な管理が行われている。

計算書類、事業報告書を理事会で承認された後においても、常に、事業内容等の検証を 行い、これからの中長期計画について指針の確認につなげている。

貸借対照表関係比率(法人全体)から見た場合、総負債及び純資産の合計額に占める純資産の割合が97.2%と高くなっている。これは資金の調達源泉を分析するうえで最も概括的で重要な指標となっており、本法人は財政的に安定しているといえる。教育研究目的を達成するために必要な資金についても、短期的支払能力を判断する流動比率は、1039.2%と高く資金繰りに支障のない状況にあるものの、本学の教育研究経費比率はやや低い水準

にある。経費削減の努力は必要であるものの、今後の教育活動の維持・発展のためにも、 必要であると思われる経費については検討していきたい。

平成 25 年度より中期的財務計画のもとに、計画的に学内施設・設備の整備を自己資金で行うなど堅実な財務運営を行っている。

毎年度の事業計画及び予算編成に際し、堅実な経営方針を緩めず、強化していくという 方針のもとに進めている。

消費収支差額は、法人全体では、平成 20 年度から平成 26 年度まで黒字であり、平成 27 年度においても、当年度収支差額は黒字となった。このことにより、翌年度繰越収支差額は黒字となり、安定した財務基盤を確立している。本学においても、四大化による負担により翌年度繰越収支差額が赤字であったが、様々な経費削減の方策の結果、平成 24 年度には翌年度繰越収支差額が黒字となった。それ以降は安定的な財務基盤を確立している。

大学全体から見て消費支出の最大を占めるのが人件費であるが、本学の場合、任期制及 び評価制の導入などの人件費削減の方策が功を奏し、人件費比率及び人件費依存率は低く 抑えられている。

管理経費においても、必要最低限の消耗品の購入や、節電等の対策などにより管理経費 比率も低く抑えられている。

外部資金獲得においては、本学では、県と日本学術振興会からの受託事業を実施しており、今後も継続的に補助金の獲得に向けて努力していきたい。また、法人全体においても、環境整備のため補助対象となる設備等に係る補助金獲得を行い、環境整備の充実に取り組んでいる。

そのほか、常に補修、整備が行き届くよう専門の職員を配置し、経費の削減に努めている。

このように、大学の目的を達成するため、資金の獲得と経費削減の努力により、平成27年度の純資産構成比率は97.2%と高い比率となっている。法人全体の純資産は堅実に確保されており、借入金も無く、本学の財政状態は極めて安定している。

因みに、日本私立学校振興・共済事業団が提示している経営状態を判断するための、定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)でみても、A1(正常状態)となり、経営状態は安定している。

(5 カ年財務計画、平成 25・26・27 年度事業報告書、平成 25・26・27 年度資金収支計算書、平成 25・26 年度消費収支計算書、平成 27 年度事業活動収支計算書、平成 25・26・27 年度貸借対照表)

### [改善・向上方策 (将来計画)]

法人全体では、経常収支差額はプラスとなり、事業活動のバランスが継続的にとれており、大学単独で見た場合においても、プラスの値となっている。今後も広報活動等に力を入れながら、学生数を確保していくために、「教育の質の向上」「学習意欲の喚起」「学生・生徒の学習と生活支援の充実」を柱として事業を継続的に行い、安定した収入に繋げていきたい。

さらに、中長期計画及び年度計画に関することを法人全体の財政基盤の確立と安定した

法人経営が行えるよう努力した結果、決算にもその成果が表れている。引き続き、健全な 財務構築に取り組んでいくために、学生確保、教育環境の充実のための外部資金獲得など 安定した財務基盤の確立に努力していく。

なお、教育の質向上のためにも、教育研究経費については、今後継続的に見直しを図っていきたい。

### 7. 会計

本法人の会計処理は、学校法人会計基準及び「学校法人ノースアジア大学経理規程(以下「経理規程」という。)」「学校法人ノースアジア大学経理規程施行細則(以下「施行細則」という。)」等に基づいて適正に行っている。

学校法人会計基準の一部改正に伴い、本法人の経理規程等を整備し、本法人の会計システムについても新基準に対応するものとなっている。本法人の会計システムは、以前までの収支についてもデータで管理されているので目的に合わせて財務分析が可能であり、継続性を持った分析ができている。

予算については、理事長からの教育研究計画及び事業計画のもとに基本方針案を作成、 経理規程第8章及び施行細則第8章に則り、理事会で決定された予算編成基本方針に基づいて、法人事務部経理課では、所属長及び担当者の説明会を行い、その後各部署からの予算要望書及び関係資料が提出される。

各部署と事前に提出された予算要望書について、経理課では、所属長とのヒアリングを行い、厳選、検討し、取りまとめを行う。理事長、副理事長、総室長の査定を受けたうえで、事業計画書や収支予算書の原案作成を行う。その後、経理責任者は、予算原案を理事長に提出し、理事長の下で再度検討・調整が行われ、評議員会及び理事会の審議を経て事業計画と予算書を決定している。

予算は、法人事務部経理課において予算管理を行い、さらに予算配分された部署においても配当された予算管理ができるよう管理されている。執行状況について、月一で各部署へ執行状況を通知し、経理課と各部署との相違が無いように管理している。また、毎年 1 月には年度見込の報告も各部署へ依頼し、執行見込にずれのないように管理している。

会計処理については、各部署のチェックや事前相談を行い、不適切な会計処理が行われないよう管理している。

さらに、会計処理上の疑問点や判断が難しい事項については、公認会計士、日本私立学 校振興・共済事業団に質問・相談を行い、回答・助言を受け、適正な処理を行っている。

大学では、公認会計士 3 名による監査と監事 2 名による監査を行っている。公認会計士 による会計監査は、年間約 70 日間実施されている。

公認会計士は、元帳、帳票及び計算書類等の照合・確認、現金等の実査、手続き等の確認を行い、理事長とのディスカッションも行われている。また、法人の監事による会計監査も行われている。

監事が理事会等に欠席した場合は、監事から法人に対して議案等の説明を求められており、状況が把握されている。また、監事は、公認会計士3名とディスカッションの場を設けるなど積極的に情報交換を行っている。

公認会計士の監査報告書及び幹事監査報告書でも明らかなとおり、本学園の学校部門の 計算書類、並びに財産目録は、学校法人の財政状態及び経営状況を正しく示している。

このことから、会計処理は、適切に行われ、会計監査の体制は厳格に実施されていると 評価する。

(学校法人会計基準、学校法人ノースアジア大学経理規程、学校法人ノースアジア大学経 理規程施行細則、監査報告書、監事監査報告書)

# [改善・向上方策 (将来計画)]

学園の経営方針のもと、会計を適正に処理をしていくために、経理課職員の知識の専門性を高めるとともに、会計処理上の管理も徹底し、会計システム管理の向上に繋げていく。

また、公認会計士、監事との連携を図りながら不正の防止、コンプライアンスの遵守等、 更なる監査体制の構築に向けて取り組んでいく。

# 第4章 自己点検・評価

# 1. 自己点検及び自己評価委員会

本学は平成 23 年、公益財団法人日本高等教育評価機構における認証評価を受審し、「自己点検・評価」に関する改善報告書を提出することを条件に認定された。その結果を受け、教育の改善向上に資する目的で、平成 24 年 8 月、自己点検・評価委員会を設置し、継続的に自己点検を実施できる体制を整備した。報告書は平成 25 年 11 月に本学ホームページで公表した。さらに平成 26 年 9 月には、「秋田看護福祉大学自己点検及び自己評価規程」を定め、本学の自己点検及び自己評価を原則として 3 年ごとに行い、「秋田看護福祉大学自己点検・評価報告書」としてホームページ上で社会に公表するとともに、次年度以降の計画を立て、改善につなげるような体制整備を行った。このため自己点検・評価報告書を作成しない年度であっても、各委員会に活動内容と評価の提出を求め、大学の質向上のために各委員会がどのような取り組みを行ったかを確認し「秋田看護福祉大学活動報告書」という形でまとめている。

委員会は副理事長(副学長)、法人事務部長、看護福祉学部長をはじめ各委員会の長と事務職員で構成されている。報告書は本学の記録であり、PDCAにより本学の改善に生かす資料となる。

平成 27 年度の報告書は本学の 5 か年重点計画を踏まえた上で、本学の規程に基づき「日本高等教育評価機構」の「大学評価基準」の主要点検・評価項目に準じた内容とした。その他の本学の特色として独自に設定した基準項目は「地域貢献」とした。これは、本学の設立が地域の要望と支援によるものであり、設置 11 年目を迎え、地域からの支持と期待がより一層強くなると共に、地域貢献の実績も増えて来たことによるものである。

## (1) 秋田看護福祉大学自己点検及び自己評価規程

### 秋田看護福祉大学自己点検及び自己評価規程

(規定の趣旨)

第1条 この規程は、秋田看護福祉大学(以下「本学」という。)学則第1条に基づき、本学の教育等の改善向上を図るため、自己点検及び自己評価について必要な事項を定める。

(自己点検及び自己評価の周期)

第2条 本学の自己点検及び自己評価は、原則として3年ごとに行うものとする。

(自己点検及び自己評価項目並びに内容)

- 第3条 自己点検及び自己評価は、次の各号に掲げる基準の中から当該年度の評価項目を決定し、行うものとする。
  - (1) 大学の使命とその目的等
  - (2) 学修と教授
  - (3) 経営及び管理並びに財務
  - (4) 自己点検及び自己評価
  - (5) その他本学の特色

- 2 自己点検及び自己評価のため、記述の根拠となる資料等を収集・整理し活用するものとする。
- 3 自己点検及び自己評価項目の評価基準及び様式は、公益財団法人日本高等教育評価機 構が実施する認証評価に求められる評価基準及び様式に準ずるものとする。

(委員会の設置・目的)

第4条 自己点検及び自己評価を実施し、本学の教育等の向上を図るため、本学に自己点 検及び自己評価委員会(以下「委員会」という)を置く。

(委員会の業務)

- 第5条 委員会は、第2条に基づいて自己点検及び自己評価を実施し、理事長あての報告 書を作成する。
- 2 委員会は、自己点検及び自己評価の結果を踏まえ、実施体制、実施方法、自己点検及 び自己評価結果の活用方法等について見直し、その改善に努めなければならない。

(委員会の構成)

- 第6条 委員会の委員は、次の各号のとおりとする。
  - (1) 副理事長
  - (2) 法人事務部長
  - (3) 看護福祉学部長
  - (4) 看護学科長、福祉学科長
  - (5) 理事長が指名する者若干名
- 2 委員会に委員長を置く。委員長は、看護福祉学部長がその任にあたる。
- 3 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。
- 4 委員会は、関係組織に対し、自己点検及び自己評価のために必要な資料の提出を求めることができる。
- 5 委員会は、審議の必要に応じて、第3条第1項に定める項目ごとに任意の作業部会を 設けることができる。

(委員会の開催及び定足数)

- 第7条 委員会は委員長が召集し、その議長となる。
- 2 委員会は、委員長の判断により必要に応じて開催されるものとする。
- 3 委員総数の3分の1以上の委員による要請がある場合は、委員長は速やかに委員会を 開催しなければならない。
- 4 委員会の開催は、委員の過半数の出席を必要とする。
- 5 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決する。 (委員の任期)
- 第8条 第6条の委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 役職によって委員となる者については、役職の任期を委員の任期とする。
- 3 委員が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(自己点検及び自己評価の報告)

第9条 委員会は、第5条第1項に基づき作成した理事長あて報告書を、学長の承認を経て理事長に提出するものとする。

(結果の活用・公表)

- 第10条 学長及び関係各組織の長は、自己点検及び自己評価の結果を踏まえ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育・研究活動及び管理運営等における問題点を速やかに改善し、質的水準の向上と活性化に努めるものとする。
- 2 自己点検及び自己評価の内容は、公表するものとする。

(委員会の事務)

第11条 委員会の事務は、総務課が行う。

附 則

この規程は、平成27年3月26日から施行する。

## (2) 平成 27 年度自己点検及び自己評価委員会の構成

·委員長 : 水木暢子 (学部長·看護学科長)

·副委員長:工藤久 (福祉学科長)

岩間薫 (看護学科長補佐·看護学科教務委員長)

松本典浩 (総務課長・学務課長)

・委員 : 小泉正樹 (副理事長・副学長)

: 佐々木香 (法人事務部長・総室長)

吉田守実 (福祉学科教務委員長)

佐藤純子 (入試委員長) 小玉光子 (就職委員長) 石岡和志 (学生委員長)

畠山禮子 (倫理委員長)

· 事務職員 児玉俊 (総務課係長)

岩谷菜緒 (総務課主事補)

### (3) 平成 27 年度自己点検及び自己評価委員会の活動

- ① 自己点検及び自己評価委員会の定期的開催
- ②「自己点検・評価報告書」の作成
- ③「大学満足度調査」の実施と大学の教育・研究・運営への結果のフィードバック
- ④ その他、「大学力」の向上に必要な活動
- ◆第1回自己点検及び自己評価委員会

日時: 平成 27 年 5 月 21 日 (木)

案件: 1. 平成 26 年度各委員会活動報告について

2. 平成 27 年度活動方針案について

平成 26 年度各委員会から提出された活動報告書を確認し、委員会から提案された課題 について把握した。また、今年度の活動方針について上記①~④を検討し、各委員会で実 施準備を行うこととした。

◆第2回自己点検及び自己評価委員会

日時:平成27年9月17日(木)

案件:1. 平成26年度秋田看護福祉大学活動報告書について

2. 平成 27 年度「新入生に対するアンケート」結果について

平成 26 年度秋田看護福祉大学活動報告書 (冊子) が配布され結果を各委員が確認した。 また、大学機関別認証評価受審に向けてのスケジュールの確認を行った。ノースアジア大 学が平成 28 年度受審に向けて行っている準備や、研修会での内容が紹介され共有した。

### ◆第3回自己点検及び自己評価委員会

日時: 平成 27 年 12 月 21 日 (月)

案件:1. 平成27年度自己点検・評価報告書の執筆依頼について

- 2. 平成 27 年度卒業時大学満足度調査について
- 3. PDCA サイクルの強化について
- 4. 私立大学等改革総合支援事業に関する調査項目と本学の対応 特にシラバスの作成に関すること (到達目標の明記、シラバスの記載内容の 適切性のチェック体制、準備学習に必要な学修内容の明記など)、GPA の活 用、オフィスアワーの設定、年間履修登録上限の設定等。

### [改善・向上方策 (将来計画)]

委員会は教育活動の改善向上を目的として、大学の使命や教育方針に即して自律的に自己点検・評価を行っている。そして、その活動を通して明らかとなった課題について情報共有を行うとともに、大学の質向上のために各委員会で取り組むべき内容を確認し、該当する委員会が実行するという PDCA サイクルに則った活動を行っている。今年度は、教務委員会によるシラバスの内容やチェックシステムの見直し、入試委員会によるアドミッションポリシーの改善等いくつかの改善すべき課題が指摘され、自己点検及び自己評価委員会と当該委員会が連携しながら改善に向けての活動を行った。

本学のような小規模大学では各種委員長が集まるこの委員会が起動力を発揮しやすい大学運営の要となっている。自己点検及び自己評価委員会では、各委員会から提出された活動報告書等をもとに、次年度の本学の教育研究の目標や課題を今後さらに明確にし、PDCA方式でその内容を大学運営にフィードバックしていく必要がある。人員も限られているが、IR委員会等の組織を設置することも含めてさらに改善に向けた組織的な体制の検討を行っていく。

## 2. 平成 27 年度「卒業時大学満足度調査」

教育目的の達成状況に関する評価方法として、自己点検及び自己評価委員会による「大学満足度調査」を実施している。学生がどのように本学を受け止めているかを知ることができるため、調査を分析し、大学運営、学生生活ならびに教育上の環境整備、教育研究活動等に迅速に反映させるなど、本学の改善に役立てている。平成 26 年度に引き続き、27 年度 4 年生を対象に卒業時大学満足度調査を実施した。

自己点検・評価の結果は今後の委員会活動に活用され、毎年の「調査」により検証する。

◆平成27年度卒業時大学満足度調査

○調査担当:秋田看護福祉大学自己点検・評価委員会、水木暢子、岩間薫、工藤久、佐藤純子、畠山禮子、吉田守実、石岡和志、高山新吾、伊藤洋介

○調査実施日:看護学科平成28年1月13日、福祉学科平成28年1月25日

○調査対象: 4 年生 101 名 (看護学科 61 名、福祉学科 40 名)

回収数:97部(看護学科61部、福祉学科36部)

回収率:96.0% (看護学科 100%、福祉学科 90.0%)

有効回答率:100.0%

#### 表 1 調査項目・内容

1)属性:6項目

学科、性別、サークル所属、住居の状況、通学方法、通学時間

2) 平均的な学習や活動時間の1週間の合計時間:7項目 授業時間、自己学習時間、アルバイトの時間、サークル活動時間、復習時間など

3) ボランティア活動:3項目

活動の有無、活動時間、活動内容

4) 生活全般に対する満足度:10項目

学習環境、居住環境、自然環境、教養・娯楽施設環境、通学の便利さ、余暇活動、食生活、経済面、普段の生活全般の総合的な満足度を「満足」「やや満足」「どちらでもない」「やや不満足」「不満足」の5段階で尋ねた。また、これら9項目に対する本学への要望は自由記述で尋ねた。

5) 大学生活に対する満足度:17項目

授業(教養科目、総合科目、専門科目)、部・サークル活動、大学施設・設備、学校行事(大学祭・体育祭)、奨学金制度の利用への支援、学生同士の関係、小人数教育、実践型カリキュラム、地域への貢献、就職支援、国家試験対策、本学への総合的な満足度を「満足」「やや満足」「どちらでもない」「やや不満足」「不満足」の5段階で尋ねた。また、これら16項目に対する本学への要望は自由記述で尋ねた。

6) 就職(進学)支援活動(キャリアサポート)に対する満足度:13項目 合同就職面談会、就職ガイダンス(学内講師、マナー講座、4年生内定報告会、個人 登録票下書き)、就職支援室、ゼミ担当教員・担任との面談・相談、事務就職担当との 面談・相談、面接練習支援、履歴書・小論文・作文の書き方の相談、インターンシッ プ・病院見学、ハローワーク ジョブサポーター支援について「満足」「やや満足」「ど ちらでもない」「やや不満足」「不満足」の5段階で尋ねた。また、本学の就職支援の 良い点、改善して欲しい点、要望は自由記述で尋ねた。

7) 本学の大学教育で身についたこと:19項目

教養、思いやりや人間性、人権及び生命の尊厳を含む人間理解、倫理的感受性、専門分野での知識・技術、コミュニケーション能力など 18 項目を「十分身についた」「やや身についた」「どちらでもない」「あまり身につかない」「全く身につかない」の 5 段階で尋ねた。また、その他身についたことは自由記述で尋ねた。

- 8) 本学の教育方法について力を入れてほしいと思うこと: 6 項目からの選択で尋ねた。また、その他の要望等は自由記述で尋ねた。
- 9) 本学のホームページについて

「良く見る」「ときどき見る」「ほとんど見ない」の3段階で尋ねた。また、その他の 要望等は自由記述で尋ねた。

10) 本学に入学して良かったかとその理由

「良かった」「やや良かった」「どちらでもない」「あまり良くなかった」「良くなかった」の5段階で尋ねた。また、その理由は自由記述で尋ねた。

11) 本学の良い点、改善してほしい点、本学への要望などこれらは、自由記述で尋ねた。

### 1. 回答者の属性

表 2 回答者の属性

項目	内訳	度数	%
学科	看護学科	61	62.9%
	福祉学科	36	37.1%
性別	男性	35	36.0%
	女性	62	64.0%
サークル所属	文化系サークル	17	18.0%
(複数回答)	運動系サークル	34	35.0%
	学生会役員	2	2.0%
	無所属	48	49.0%
住居の状況	自宅	34	35.0%
	アパート	60	62.0%
	その他	3	3.0%
主な通学方法	徒歩	31	32.0%
	自転車	25	26.0%
	電車	9	9.0%
	自家用車	31	32.0%
	その他	1	1.0%

平成 26 年度の調査結果 (以下、前回とする)と比較すると、サークル所属が文化系 18.0% (前回 22.0%)、運動系 35.0% (前回 39.0%) とほぼ変わりはなかったが、無所属が 49.0% (前回 34.0%) と増えていた。住居の状況は自宅 35.0% (前回 65.9%)、アパート 62.0% (前回 31.7%) と自宅、アパートが逆転していた。主な通学方法は、前回は自家用車が 52.0%と多かったが今回は徒歩 32.0%、自転車 26.0%であった。通学時間の平均は 28 分 (range 270 分~1 分) であった。

### 2. 平均的な学習や活動時間の1週間の合計時間

表3 学習や余暇活動等の1週間の合計時間の平均

単位:時間

	全体	看護学科	福祉学科
授業時間	10.9	11.9	9.3
自己学習時間(普段)	17. 9	18. 1	17. 6
自己学習時間 (試験前)	19.9	22.9	14.8
アルバイト	4. 26	5. 15	2.75
(行っている学生のみ)		(27人) 12.1	(9人) 11.1
サークル活動	0.42	0.60	0. 12
(行っている学生のみ)		(13人) 2.81	(3人) 1.34

この調査は両学科とも国家試験  $1 \sim 2$  ヵ月前に実施しているため、授業時間は少なく、自己学習時間が多い結果を示している。

自己学習時間の「普段」全体 17.9 時間 (前回 20.4 時間)、看護学科 18.1 時間 (前回 21.0 時間)、福祉学科 17.6 時間 (前回 19.3 時間)と減少していた。「試験前」では全体 19.9 時間 (前回 22.4 時間)、福祉学科 14.8 時間 (前回 25.6 時間)と減少したが、看護学科は 22.9 時間 (前回 20.1 時間)と増加していた。

アルバイトは前回と比較し、看護学科では平均時間数 5.15 時間(前回 3.48 時間)と増えていたが、行っている学生のみでみた場合では平均時間数 12.1 時間(前回 12.7 時間)と変わりはなかった。

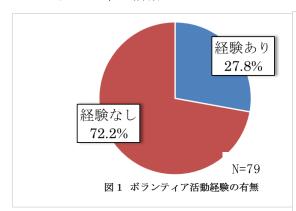
サークル活動は 0.42 時間(前回 0.90 時間)とほぼ半減していたが、行っている学生のみでみた場合では看護学科 2.81 時間(前回 1.20 時間)は倍増し、福祉学科では 1.34 時間(前回 2.80 時間)と半減していた。

## 3. 予習と復習で行ったこと

### 表4 予習と復習で行ったこと(自由記述)

- 1. 自分で考え、自主的に行った講義と演習の予習
  - ・教科書、シラバスに記載されている参考図書、配布資料を読む
  - ・前回の授業の復習 など
- 2. 自分で考え、自主的に行った実習の予習
  - ・教科書、事前課題、授業ノートの見直し
  - ・実習施設の概要などを調べる
  - ・看護学科:看護技術の練習、疾患について調べる
  - ・福祉学科:関連する法律や制度、専門用語について調べる
- 3. 自分で考え、自主的に行った講義と演習の復習
  - ・テキスト、配布資料など講義および演習の見直し
  - ・疑問点や授業内容をノートにまとめる
  - ・小テスト、模擬試験の見直し
- 4. 自分で考え、自主的に行った実習の復習
  - ・実習の振り返り
  - ・実習記録の見直し
  - ・臨床指導者から質問され答えられなかったこと、わからなかったことを調べる

### 4. ボランティア活動



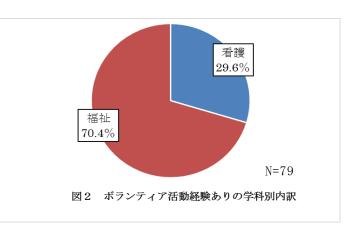
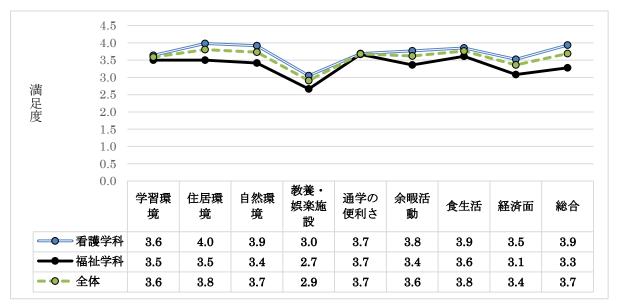


表 5 学科別ボランティア活動の内容

学科	ボランティア活動の内容
看護学科	老人福祉施設の行事 (n=4)
	ピアカウンセリング (n=3)
	高校の競歩大会の医務係
福祉学科	高齢者、障害者施設の音楽祭や夏祭りの手伝い (n=13)
	適応指導教室での活動 (n=4)
	東日本大震災復興ボランティア
	福祉施設でのボランティア
	ピアカウンセリング

ボランティア活動経験ありは 27.8% (前回 40.0%) と減少した。また、活動経験ありを学科別でみると看護 29.6% (全回 64.0%)、福祉 70.4% (前回 36.0%) と逆転していた。

## 5. 生活全般に対する満足度



満足:5 やや満足:4 どちらでもない:3 やや不満足:2 不満足:1 の得点平均値 図3 生活全般に対する満足度

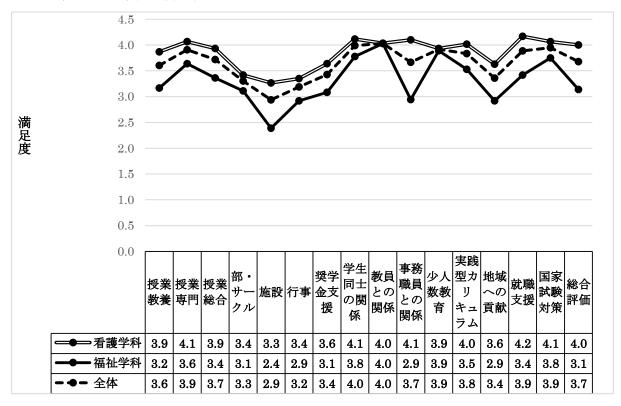
### 表6 生活全般に対する本学への要望(自由記述)

- ・学内の温度、湿度の調節(教場、廊下が寒い。暖房が暑すぎたり、冷房が寒すぎたりと寒暖の差が激しい)
- ・国家試験前は土日も暖房を入れて欲しい。20時まで暖房を入れて欲しい
- ・学内に勉強する場所が少ない
- ・学内で勉強できる時間を21時から23時までに延長して欲しい
- ・学内が暗い (演習室、食堂、トイレ、洗面台)
- ・学内に勉強する以外、余暇活動をする場所がない
- ・余暇活動を増やして欲しい
- ・図書館の利用時間、期間が短い(土日も開館して欲しい、21時まで開館して欲しい)
- ・学食の充実(高い、おいしくない)
- ・学内に売店が欲しい
- プールが欲しい
- カリキュラムを見直して欲しい
- ・学生の意見箱の設置を復活して欲しい。また、その内容を掲示して欲しい
- ・施設費はどのように使っているのか開示して欲しい
- ・アパート暮らしでの生活について注意をして欲しい (頻繁に人を連れてくる学生がいるため学習時間の妨げになる)

生活全般に対する満足度は全9項目において前回の平均点を上回っていた。「教養娯楽施設」は 2.9 と低く、またアパート暮らしをしている学生が増えたため「通学の便利さ」が前回より増えたと考えられる。

本学への要望は、学内での勉強できる場所、使用時間の延長、土日の使用、図書館の開館時間・期間の延長、学内の冷暖房の時間延長希望など、学習環境への希望が多かった。また、学内への売店開設、学食の充実に関する内容は例年多く、今年度も同様であった。

### 6. 大学生活に対する満足度



満足:5 やや満足:4 どちらでもない:3 やや不満足:2 不満足:1 の得点平均値 図4 大学生活に対する満足度

### 表7 大学生活に対する本学への要望(自由記述)

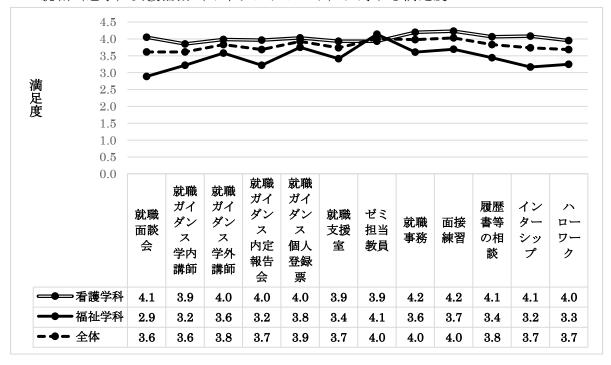
- ・学校行事を盛り上げて欲しい(体育祭、大学祭。大学祭に芸能人を呼んで欲しい)
- ・(大学祭で)調理室のガスをみんなで使うと使えなくなってしまいタイムロスだった
- ・大館市と連携したボランティア活動をしたい
- ・もっと地域に開かれた大学にして欲しい。まるで高校の延長のような閉鎖的な大学 のように感じる
- ・掲示が遅い
- サークル数が少ない
- ・入学式、卒業式を大館で行って欲しい
- ・学生のことを考えながら事務作業してほしい
- ・看護学科、福祉学科の差を感じる
- ・教員-学生間は信頼関係を築けた
- ・就職に対する支援はとても有効だった
- ・学生数が少ないため、全員と仲良く切磋琢磨することができた

大学生活に対する満足度は全16項目において前回の平均点を上回っていた。

「教員との関係」「学生同士の関係」は 4.0、「授業 (専門)」「少人数教育」「就職支援」 「国家試験対策」は 3.9 と高かった。「施設」は 2.9 と低かった。

本学への要望は、学校行事や地域との連携、地域に開かれた大学にして欲しいなどの意見がみられた。

### 7. 就職(進学)支援活動(キャリアサポート)に対する満足度



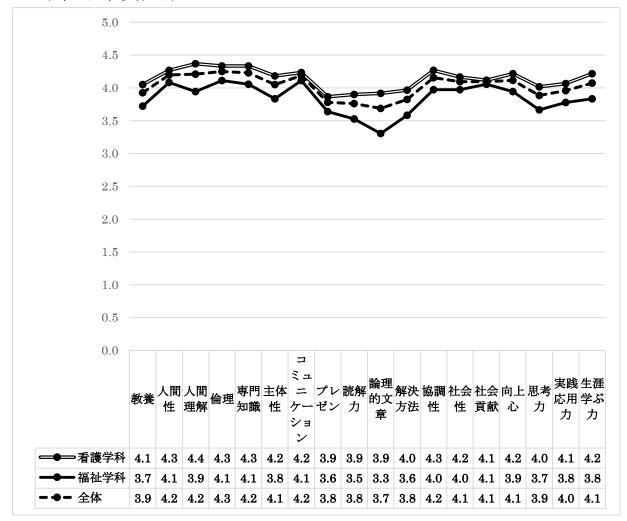
満足:5 やや満足:4 どちらでもない:3 やや不満足:2 不満足:1 の得点平均値 図5 就職(進学)支援活動(キャリアサポート)に対する満足度 看護学科では「ゼミ担当教員」による支援が前回より 0.1 ポイント減っていたが、他の

### 1. 良い点

- ・面接練習などでは事務と先生方の連携がとても良く、充実したものとなり嬉しかっ た
  - ・就職事務担当やジョブサポーターとの面接練習は就職試験で非常に役にたった
  - ・就職支援が充実しており添え状の書き方や礼状の書き方など丁寧に教えてくれた
  - ・スーツについての講座は必要に有効だった
  - ・就職活動は就職担当職員と先生方のおかげで無事に終えることができた
  - ・少人数でやりやすいと思った
- 2. 改善点、要望
  - ・ 4 年生内定報告会で保健師や助産師として働いている先輩の話も聞いてみたかった
  - ・担任のサポートが学年によって差があると感じた
  - タメになる人とタメにならない人がはっきりしていた
  - ・担任との面談相談は充実していなかった
  - ・秋田県外や関東以外の就職の情報が少ない
  - ・福祉学科の支援の充実
    - → ・就職支援室は看護系の資料ばかりで福祉学科の卒業生や就職先をもっとピックアップして欲しい
      - ・看護学科に比べて就職面でサポートが少ない
      - ・合同就職面談会では看護学科が多く、福祉学科の企業を対象にしたものも開催して欲しい

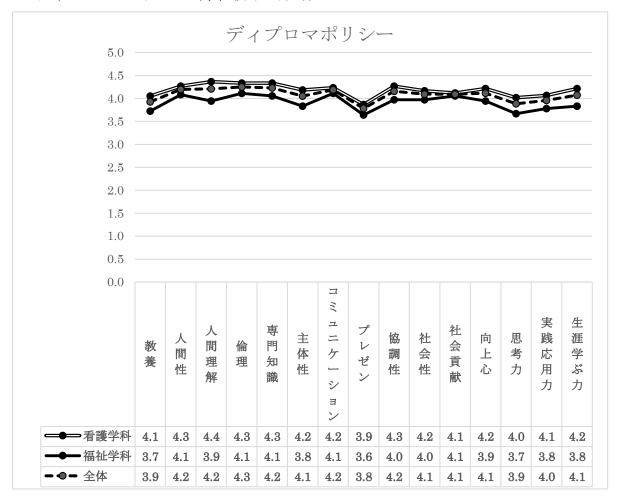
項目は前回を上回っていた。福祉学科では逆に「ゼミ担当教員」による支援が前回より 0.1 ポイント増えていた反面、「就職面談会」「就職支援室」の充実への要望があった。

### 8. 本学の大学教育で身についたこと



本学の大学教育で身についたことは全 18 項目において前回の平均点を上回っていた。 平均得点が 4.0 を超えていたのは「思いやりや人間性」「人権及び生命の尊厳を含む人間理解」「論理的感性」「専門分野での知識・技能」「自分で考え、判断し、主体的に行動する力」「コミュニケーション能力」「協調性」「礼儀や社会性」「社会に貢献したい気持ち」「向上心」「専門分野での実践力・応用力」「生涯学び続ける姿勢(向上心)」の 18 項目中 12 項目であった。

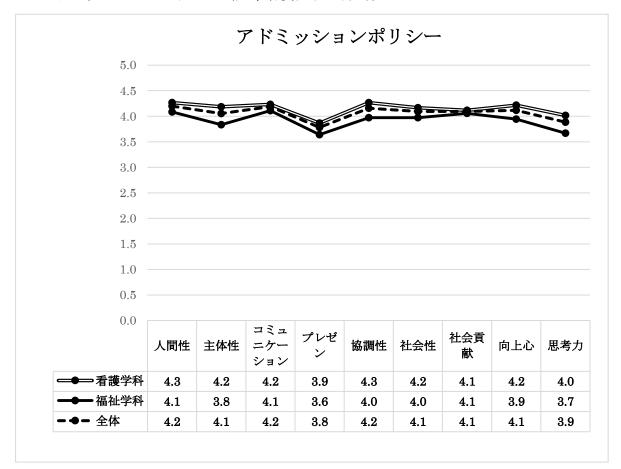
# ◆ ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)



満足:5 やや満足:4 どちらでもない:3 やや不満足:2 不満足:1 の得点平均値

図7 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

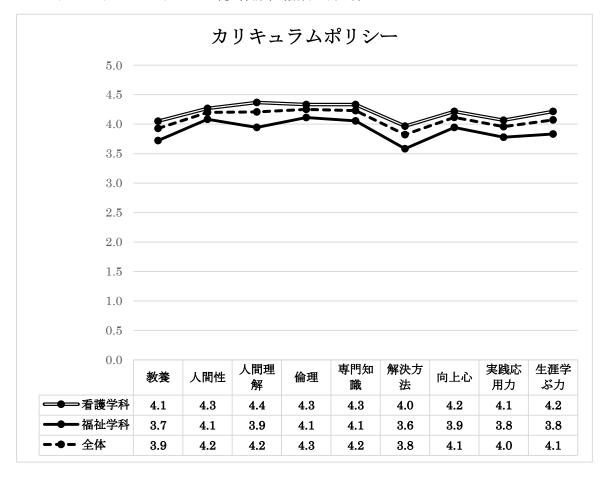
◆ アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)



満足:5 やや満足:4 どちらでもない:3 やや不満足:2 不満足:1 の得点平均値

図8 アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

◆ カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

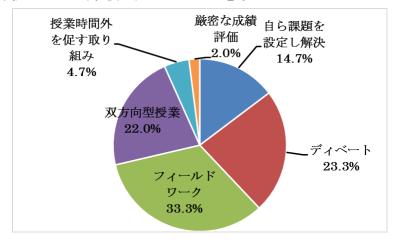


満足:5 やや満足:4 どちらでもない:3 やや不満足:2 不満足:1 の得点平均値

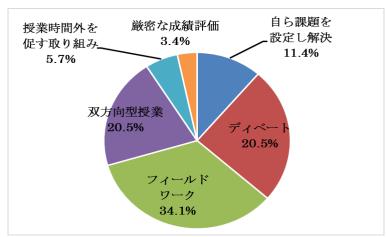
図9 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

### 9. 本学の教育方法について力を入れてほしいと思うこと

### <全 体>



### <看護学科>



### <福祉学科>

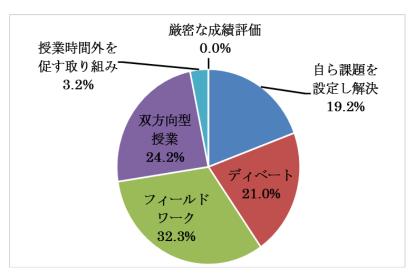


図 10 本学の教育方法について力を入れてほしいと思うこと

「フィールドワーク、実習など多様な体験・実践を取り入れた授業」が最も多く、次いで「個々の学生と教員が緊密に意思疎通を図る双方向型の授業」「ディベート、ディスカッションなど学生が参加する授業」が多かった。

### 10. 本学のホームページについて

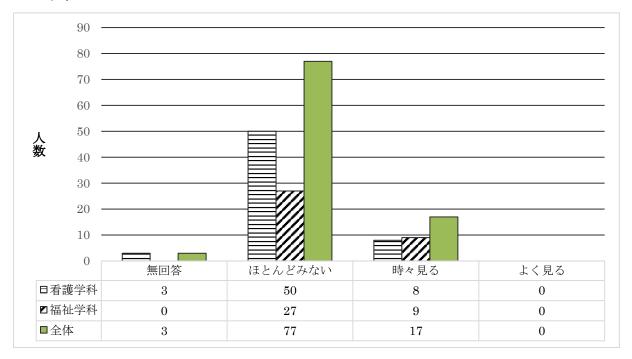


図 11 本学のホームページをよくみるか

- ◆ 本学のホームページで見た記事
  - ・大学の年間行事予定
  - ・図書館の閉館時間・休館日
  - ・サークル活動等の写真、卒業生進路
  - ・教員の業績 など
- ◆ 本学のホームページに望むこと
  - ・更新頻度の改善やみやすさの向上
  - ・在学生への連絡の機能
  - ・在学生の学校生活の紹介
  - ・卒業生の就職先
  - ・国家試験の点数比較 など

本学のホームページを「ほとんど見ない」は 79.4%であり、前回の 87.8%より減少していた。「よく見る」と答えたものはいなかったが、「時々見る」が 17.5%であり、前回よりホームページを活用する学生がわずかに増えていた。

## 11. 本学に入学して良かったかとその理由

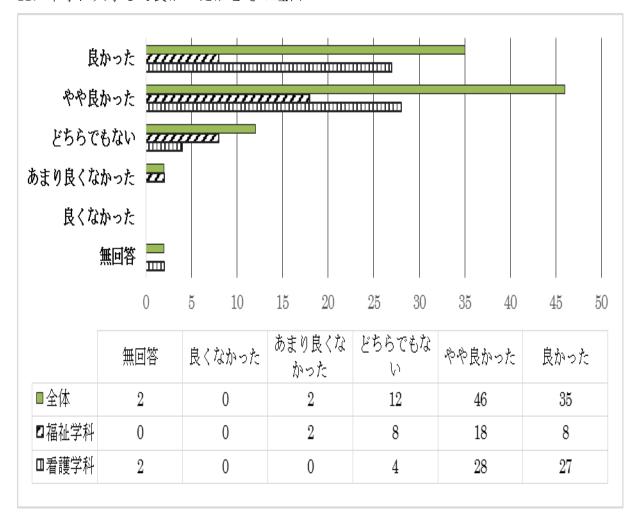


図 12 本学に入学して良かったか

本学に入学して「良かった」「やや良かった」は全体 83.5%、看護学科 90.2%、福祉 学科 72.2%と前回を上回っていた。

本学に入学して良かったかどうか「その理由」(表 9)から、学生は大学環境、友人、 教員との関係、就職対策や国試対策、少人数制教育、サークル活動に満足し、充実した数年 間の大学生活を過ごしていた。 9 本学に入学して良かったかどうか「その理由」(自由記述)

### <看護学科>

- ・ よい友人に出会えた
- ・ 夢に近づくことができている
- 夢がかなった
- ・ ゆっくりした環境で自分と向き合えた
- 友人に恵まれ将来なりたい看護師に近づくために自分にとって必要な場所となった
- ・ 友人と楽しく学習できた
- 友人と協力し合い助け合いながら楽しい学校生活を送ることができた
- 学びたいことを学習できた
- ・ 人間関係に困らなかった。いつも支えてくれる先生・友人がいたから4年間頑張れた
- 友達が面白い。毎日楽しい
- ・ 友達、先生、環境に恵まれた。自然と勉強できるとても良い大学
- 通学に便利である(2)
- ・ 就職できた(2)
- ・ 楽しく学ぶことができた
- ・ 専門知識を身につけることができた
- 先生方との距離が近く相談や質問をしやすい。個々に合った援助をしてくれる
- 先生方がひとりひとりのことを考えながら話をきいてくれることがよかった
- ・ 学生同士が協力し合い学習や実習をより良いものにできた
- ・ 少人数制のため学生ひとりひとりのことをよく考えてくれていると感じた
- ・ 少人数制で先生との距離も近くて深い学びができた
- ・ 就職対策や国試対策を熱心にしてくれる
- 充実した学校生活になった(2)
- ・ 実習期間が充実している
- ・ 様々な実習が行えたから
- ・ サークル活動 (ピアサークル) を通して様々な人と関わり様々なことを身につけることができた
- ・ 自分の夢に向かって頑張れた
- 国試対策が充実
- ・ 教師が学生に親身になって相談に乗ってくれたり指導してくれる
- ・ 看護だけでなく社会に出てからも必要なことについて学ぶことができた
- 看護師になれるから(2)
- ・ 環境が合っていた。楽しく過ごせた
- ・ 学内だけでなく地域の人との関わりもできた
- 多くのことを学べた。友人ができた
- ・ 家から通うことができてよかった
- ・ 4年間を通して専門的なことだけでなく人間性も成長することができた
- ・ 4年間専門分野だけでなく人間性や社会活動等様々なことを学び体験することができた

### <福祉学科>

- 良い友達を持つことができた
- 良い面も悪い面もあった
- ・ たくさんの友人ができた。福祉の大切さを学ぶことができた。福祉ってすばらしいと感じた 資格取得は大切だと思った
- ・ 良い意味で主体性自由が確保されていたところ
- 友達ができた
- ・ 考える力がついた
- ・ 望んでいた就職先に就くことができた
- 福祉について学ぶことができてよかった
- ・ 先生方の学生に対する思いやりが強く楽しい大学生活を過ごすことができた
- ・ 福祉という未知の分野のおもしろさを発見できた
- ・ 福祉・介護等の専門的な知識を学ぶことができた
- ・ 大学の先生と学生の距離が近いのは良いけど、近すぎて逆に嫌だったときがあった
- 想像していたよりも良かった
- ・ 精神面で成長できたと思う。また良い友達ができた
- ・ 社会福祉の学問を深めることができた
- 少人数でクラスが変わらず仲のよい友人ができた
- ・ 家に帰ろうと思えば帰ることができる距離
- ・ 都会の生活は苦手だ
- ・ 助け合える仲間に出会えた
- ・ 授業数が多い
- ・ 授業と実習つめこみすぎて大変
- ・ 実習への取り組む力や自分のやりたいことについて学べたので将来の見通しができた
- ・ 自分の人生の可能性がひろがった
- ・ 自分が興味のある分野を勉強できる
- 資格をとって社会で活躍したい、もっと上を目指したいと思えたから。他大学ではできなかったと思う
- ・ 資格に向けての勉強も人間関係もよくて楽しい
- ・ 資格がたくさん取得できる
- ・ 資格がたくさん取れるのはいいが、地域のつながりが全くなく、社会人として生活していく ことが不安
- ・ 限られた資源の中でも勉強する環境や遊ぶ環境等自分たちで見出して生活できている
- ・ 教員と学生がとても近く、密な指導を受けられた
- ・ 教員と学生、学生と学生の距離が近く学びやすい学習環境だった
- ・ 教員との距離が近い点
- ・ 補講等にも柔軟に対応してくれる点
- ・ 看護と福祉の関わりをもっと強化してほしい

- もともと学びたいと思っていた分野ではなかったが、新しい学びを得ることができたと思う。しかし、自分の中で満足のいかないこともあった
- たくさんの友人ができた
- たくさんの出会いがあった
- カリキュラムはきついが、おおむね楽しかった
- 3つの資格が取れるカリキュラムになっていたのがよかった
- 4年次に実習もあり、報告会もあり論文もあり忙しかった
- 2・3年次に終わらせられることがあれば早めに終わらせたかった
  - 12. 本学の良い点、改善点、今後どのような大学であって欲しいか、本学への要望
  - 表 10 本学の良い点、改善点、今後どのような大学であって欲しいか、本学への要望 (自由記述)

### <看護学科>

- ・ 図書館が寒い
- ・ 入学式・卒業式は母校で行って欲しい
- ・ 少人数制で先生と学生との距離が近いのは良いと思う。技術演習などをもっとしたかった
- ・ 他の学生に仕事を押し付ける人を野放しにしてほしくない。そういう人もきちんと行うよう もっと働きかけて欲しい(特にゼミ)
- これからもがんばってください
- 学生1人ひとりに合致したカリキュラム

#### <福祉学科>

- ・ 様々な専門分野について学べること。学生と教員の距離が近い
- ・ 卒論と卒業試験どちらか一方にしてほしい
- ・ 良い点…少人数体制なので先生のサポートが手厚い
- ・ 教員が足りない
- ・ 福祉科だけ国試の際バスがないのはなぜか
- 教員が学生の情報を別の学生に流しすぎ
- ・ 遅くまで(23時頃)勉強ができる環境を作ってほしい
- ・ 地域にもっと開かれた大学で地域住民も施設設備が使用できるようになればよいと感じます
- ・ 地域に根ざした活動を行っていける大学であってほしい
- ・ 地域との関わりをもっと持つべき
- ・ 福祉学科の教員を増やしてほしい
- ・ 卒業試験、卒業論文は他県の大学ではないところもあるため、4年次の報告会や国家試験と 重ならないためにどちらかでもなくしてほしい
- ・ 設備面を改善してほしい
- ・ 自ら動いていける大学学生主体の大学
- ・ 地域に開かれた大学
- ・ 志望する高校生に「絶対ここが良い」と言って貰える大学

- ・ 教員、職員がのびのびと能力を発揮できる大学にしてください
- ・ 今後は学生のため地域のためにはどのようなことが必要なのかを考え熱い指導のできる先生 方を増やし、社会で人の為になる人材を育てていってほしいです
- ・ 要望はみなさんにも報告するような掲示をするべきです
- ・ 小さな大学のため、大きな大学に負けてしまいます
- ・ 小さな大学だからこそできることを伝え、よい学生を育てていってほしいです
- 教員と学生が近くてよかった
- ・ 看護にも福祉にもどちらも平等にバックアップしてほしい
- ・ 大学施設内の空調設備を整えてほしい

全体を通して大学内の冷暖房の調整に関すること、地域との交流などへの要望があった。

### [改善・向上方策 (将来計画)]

平成 27 年度「卒業時の大学満足度調査」では、これまでの調査結果と比較して大きく変化した項目はなく、全般的に大学生活に対する満足度は高い学生が多かった。本学に入学して「良かった・やや良かった」は 83.5%(看護学科 90.2%、福祉学科 72.2%)と前回を上回っていたことから、これまでの満足度調査の結果等をもとに、少しずつ改善が進んだ結果と判断できる。一方、「論理的に文章を書く力」「プレゼンテーション能力」については、他の項目よりも得点が低く、これらの教育の充実をさらに図っていく。

学生は大学環境、友人、教員との関係、就職対策や国試対策、少人数制教育、サークル活動に満足し、本学の個性・特色を良く理解し、大部分が充実した大学生活を過ごしていた。ホームページの充実については新入生ならびに卒業時の満足度調査からも、学生に活用できる情報の充実に努める。

# 第5章 地域社会への貢献

# 1. 地域の委員会・講演会等への教員等の派遣

# (1)委員会

地域の委員会・審議会への派遣要請に対しては積極的に応じている。平成 27 年度の派遣は次のとおりである。

大学コンソーシアムあきた運営委員会委員	水木 暢子 教授
大学コンソーシアムあきた企画開発部会委員	工藤 久 准教授
大学コンソーシアムあきた活動推進部会委員	上膝 久 作教授
十約末立然入岸陸沿駐塞木禾昌入禾昌	水木 暢子 教授
大館市立総合病院治験審査委員会委員	田口 牧子 教授
大館市生涯学習推進協議会委員	水木 暢子 教授
大館市総合計画及び総合戦略策定懇談会委員	水木 暢子 教授
おおだて発人間力創造コンソーシアム運営委員会委員	水木 暢子 教授
秋田県看護協会認定看護管理者教育委員 (サードレベル研修)	田口 牧子 教授
大館市子ども・子育て会議委員	岩間 薫 教授
秋田県准看護師試験委員	岩間 薫 教授
<b>秋山泉在有護叩西峽安</b> 貝	畠山 禮子准教授
保健師助産師看護師試験委員	岩間 薫 教授
秋田国際情報学院中学校・高等学校評議員会評議員	佐藤 公彦 教授
秋田県大館市環境審議会委員会長	佐藤 公彦 教授
<b>秋田</b> 古 <u>你</u> 若到宁 <u>京</u> 木 <u>今</u> 禾吕	佐藤 光子 教授
秋田市介護認定審査会委員	石川 セツ子 講師
秋田県社会福祉審議会委員(身体障害者福祉専門分科会委員)	柴田 博 教授
秋田県運営適正化委員会委員	柴田 博 教授
秋田県福祉サービス第三者評価推進委員会委員	柴田 博 教授
秋田県社会福祉協議会評議員	柴田 博 教授
秋田県社会福祉事業団評議員	柴田 博 教授
あきた総合支援エリアかがやきの丘運営委員会委員	柴田 博 教授
秋田県立比内養護学校評議員	柴田 博 教授
大館市障害者施策推進協議会委員	柴田 博 教授
秋田県医療・介護・福祉連携促進協議会委員	柴田 博 教授
大館市介護保険事業計画運営委員会委員	工藤 久 准教授
大館市地域包括支援センター運営協議会委員	工藤 久 准教授
公益財団法人日本介護福祉士養成施設協会調査·研究委員会委員	工藤 久 准教授
秋田県看護協会大館地区支部幹事	畠山 禮子准教授
秋田県大館保健所感染症診査協議会感染症部会委員	畠山 禮子准教授
秋田県北秋田保健所委員	畠山 禮子准教授
大館市保健センター運営委員会委員	日景真由美准教授
	·

一般社団法人全国保健師教育機関協議会理事・教員研修委員会委員 員・推薦委員会委員	日景真由美准教授
秋田県鹿角市社会福祉協議会権利擁護センター法人後見運営委員	吉田 守実 准教授
会委員	
秋田県社会福祉士会広報委員会委員	石岡 和志 講師
一般社団法人全国訪問看護事業協会訪問看護推進委員会委員	石川 セツ子 講師
公益財団法人秋田県看護協会訪問看護推進委員会委員	石川 セツ子 講師
秋田県訪問看護ステーション協議会委員	石川 セツ子 講師
秋田県看護協会連絡委員長	黒澤 繭子 講師
北秋田市介護認定調査員	庄司 光子 講師
北秋田市障害程度区分認定審査会委員	庄司 光子 講師
秋田県在宅保健師等ゆずり葉の会理事	庄司 光子 講師
大館鹿角地域保健医療福祉協議会委員	庄司 光子 講師
北秋田市民生徒児童委員	庄司 光子 講師
大館市障害者自立支援協議会委員	駒ヶ嶺裕子 助教
鹿角市障害支援区分認定審査会委員	駒ヶ嶺裕子 助教
鹿角市子ども・子育て会議委員	駒ヶ嶺裕子 助教
大館市介護認定審査会委員	早川 明 助教

# (2) 講演・講義

介護職員初任者研修

年 月 日	テーマ	会場	講師
平成 27 年 4月 22 日(水)	介護における尊厳の保 持・自立支援	秋田県立大館高等学校	工藤久准教授
5月13日(水)	介護職の職業倫理	秋田県立大館高等学校	工藤久准教授
5月20日(水)	医療の連携とリハビリテ ーション	秋田県立大館高等学校	関口麗子講師
6月9日(火)	障害の理解	秋田県立大館高等学校	柴田博教授
6月11日(木)	介護におけるコミュニケ ーション技術	秋田県立大館高等学校	石岡和志講師
9月1日(火)	介護過程の基礎的理解	秋田県立大館高等学校	石岡和志講師
9月3日(木)	総合生活支援技術演習	秋田県立大館高等学校	庄司光子講師
7月17日(金)	総合的な学習の時間 お仕事インタビュー	大館市立城南小学校	千葉孝子助教

# 総合的な学習

年 月 日	テーマ	会場	講師
7月17日(金)	お仕事インタビュー	大館市立城南小学校	千葉孝子助教

## (3) 見学等の受入れ

キャンパス見学・校外学習受入れ

年 月 日	内 容	担当
平成 27 年 11 月 5 日 (木) 10:00~11:30	大館市立城南小学校職場体験 5年生5名	小畑千春助教
10月29日(木)	秋田県立花輪高等学校進路研究校外学習セミナー 1年生25名	工藤久 准教授 佐藤純子准教授

### [改善・向上方策 (将来計画)]

本学では、地域からの要請に応じて各種委員会等への参画や講演活動に積極的に取り組んでいる。また小学校から高等学校までの児童・生徒の受入れも活発に行っている。本学の専門教育の特徴を生かし、地域の高等学校で実施している介護職員初任者研修への講師の派遣も継続的に行っている。教職員は本学での教育・研究活動に加えてこれらの活動を積極的に行っており、若い世代への貴重なキャリア教育となっている。このような活動が、将来の看護職・福祉職の育成へつながるよう、今後とも地域との連携を深め、積極的な活動を行っていく。

### 2. 大学公開講座

本学と大館市の共催による大学公開講座は本学の前身である秋田桂城短期大学が開学する1年前の平成7年から開催されている。

### ◆平成27年度 第21回大学公開講座

- ・ 趣旨:市民の生涯学習への要望が益々多様化・高度化の傾向にあることから、これらの要望に応えるために秋田看護福大学と大館市との共催で公開講座を開設する。
- 主催 秋田看護福祉大学、大館市生涯学習推進本部、大館市教育委員会
- 会場 秋田看護福祉大学
- · 時間 18時 30分~20時 10分
- 内容

期	日	テーマ		講師
7月1	日(水)	糖尿病予防について考えてみよう	佐藤	純子准教授
7月2	日(木)	災害復興支援における学生ボランティアの意 義と役割 ※大館市教育委員会生涯学習課より 「家庭教育分野での被災地支援の取り組み紹介」	吉田	守実 講師
7月3	日(金)	知っておくと役に立つ介護のヒント 〜床ずれ予防のお話〜	小玉	光子 准教授

- ・受講者数 ( ) 内は昨年実績:1日目80人(64人)、2日目93人(68人)、3日目65人(54人)、合計 延べ238人(186人)。ここ3~4年受講者が増加している。
- ・受講者へのアンケート集計結果;対象者 87 名中、回答者数 73 名 (回答率 80.0%)。 開催時期・曜日・時刻:73.1%が「今のままが良い」と回答した。(昨年 81.1%) 受講回数:「今回初めて」が 72.9%、「数回」15.7%、「ほぼ毎回受講している」11.4% であった。

内容について(回答者数):「大変良かった」が 1 日目 97.8%(44 人)、2 日目 84.0%、 (42 人)、3 日目 97.6%(41 人)であった。

### 主な意見(記述):

- ・実体験を交えながらの講座でわかりやすくて説得力があり、とても勉強になった。
- ・あいまいにおぼえていたことがはっきりしてよかった。おやつのカロリーも大変良かった。
- ・高校生にもわかりやすい内容で、とてもためになりました。そして、自分もボラン ティアに参加して、地域の役に立ちたいと思いました。
- ・先生たちの語りが素晴らしかった。高校生が多く参加していたのがとても印象深かった。秋田看護福祉大学の地域における役割を発見することができた。もっと地域に 根ざしてほしい。
- ・学生たちが参加できる時期を選んで多くの若者に現実を見て実感してよきリーダーシップを出してそれぞれの地域で頑張ってほしい。弱いものがいつかはお世話になる 若者達ですから。
- ・初の試みの市教委と、大学のコラボがよかったと思います。
- ・滑舌が良く、とても聞きやすい講座でした。
- ちょっとしたヒントとおっしゃいましたか?とても、大きな介護のヒントがたくさんありました。

### [改善・向上方策 (将来計画)]

大学公開講座の参加者は、ここ3年ほど連続して増加している。大館市広報や大学ホームページなどにより参加者を募集しているが、さらに広報媒体を増やし、市民へ定着できるような工夫が必要である。今回は特に2日目の本学教員と大館市教育委員会生涯学習課とのコラボレーションによる被災地復興支援ボランティアに関する講座に大きな反響があった。

「毎年楽しみにしている」という市民の方もおり、マンネリにならず魅力的な「大学公開講座」とするために、講座のテーマや内容の工夫をすることや、広報活動の拡大に取り組む。

### 3. 学生と共に! ピアカウンセリング活動

担当教員:岩間薫

- ◆平成27年度 思春期ピアカウンセリング事業
  - ・目的: 思春期から主体的な健康づくりが実践できるようにするため、ピアカウンセラーの養成とピアカウンセリングによる健康教育等を、ピアカウンセラー養成者

を有する大学に委託し、実施する。また、養成を受けた大学生等が、中学生、 高校生を対象にピアカウンセリングを用いた健康教育・健康相談を行い、健康 づくりに関する情報提供を行う。

- · 実施主体: 秋田県健康福祉部健康推進課
- 事業内容:
  - (i) ピアカウンセラーの養成
    - ・思春期からの健康づくりに関して、ピアカウンセリングを用いた活動を実践する 意志のある大学生等の養成研修
    - ・活動を実践しているピアカウンセラーへの継続研修
  - (ii) 中高生への健康教育・健康相談
    - ・中学校、高校等でのピアカウンセリングやピアエデュケーションの実施 7校
    - ・地域でのピアルームの開催 7回
  - (iii) ピアカウンセリングによる健康教育・健康相談における、知識や意識の変化の 評価
  - (iv)・事業実施状況報告書の作成 (冊子及び電子媒体)
- ・実施期間:平成27年7月1日から平成28年3月31日まで
- ・平成27年度活動記録(表1)
  - ※ 活動は秋田看護福祉大学"B 愛 STAR ピアサークル"と共に行った。

#### 表 1 平成 27 年度活動記録

### <思春期ピアカウンセラー養成セミナー>

	月日	前期コース	後期コース
1	平成 27 年 7 月 4 日 (土)・5 日 (日)	実施1回・養成者14名	
	7月11日(土)・12日(日)4日間		
2	平成 27 年 2 月 27 日 (土) ~ 2 月 28 日 (日) 2 日間		実施1回・養成者12名

### <ピアカウンセリングの実施>

	月日	ピアエデュケーション	ピアカウンセリング	ピアルーム・他(*)
1	平成 27 年			秋田看護福祉大学
	4月28日(火)			実施1回・参加者40名
2	6月28日(日)			ノースアジア大学 (大学祭)
				実施1回・参加者30名
3	8月31日(月)		由利本荘市立由利中学校(3年	
			生)	
			実施2回・受講者41名	
4	9月1日(火)		鹿角市立八幡平中学校(3年生)	
			実施1回・受講者31名	
5	9月3日(木)			*「第 1 回ふれあい楽しみ
				会」

				主催:大館市教育委員会
6	9月17日(木)		大館市立南中学校(3年生)	
			実施1回・受講者14名	
7	10月17日(土)			秋田看護福祉大学(大学祭)
	~18 日 (日)			実施2回・参加者50名
8	11月22日(日)			大館工業高等学校(文化祭)
				実施1回・参加者40名
9	11月29日(日)			*「世界エイズデー」街頭キ
				ャンペーン
				In イオンスーパーセンタ
				一大館店
				実施主体:北秋田地域振興局
				大館福祉環境部
10	12月6日(日)			秋田拠点センター ALVE
				実施1回・参加者30名
				*「世界エイズデー」街頭
				キャンペーンも実施
11	12月11日(金)			*「第 2 回ふれあい楽しみ
				会」
				主催:大館市教育委員会
12	平成 28 年			適応指導:大館おおとり教室
	2月12日(金)			第1回・3名(中学生)
13	2月18日(木)			適応指導:大館おおとり教室
				第2回・6名
				(小学生3名・中学生3名)
14	3月3日(木)			適応指導:大館おおとり教室
				第3回・5名
				(小学生3名・中学生2名)
15	3月9日(水)		大館市立東館小学校(5・6年生)	
			実施2回・受講者41名	
16	3月10日(木)			適応指導:大館おおとり教室
				第4回・5名
				(小学生3名・中学生2名)
17	3月15日(火)	由利高等学校(1年生)		
		実施3回・受講者185名		
	計	1 校(3回)・受講者 185 名	4 校 (6回)・受講者 127 名	12 回・参加者 209 名
	***	5 校(9 回	])・受講者 312 名	(本学実施2回含む)

### [改善・向上方策 (将来計画)]

秋田県から本学が事業委託され、「ピアカウンセリング事業」に取り組むようになって平成 27 年度で 11 年目を迎える。この間、養成された本学の学生「思春期ピアカウンセラー」と養成者でもある本学の「教員」が共に、全県で地域貢献活動を行っている。

今年度は、大館市内の適応指導「大館おおとり教室」や小学校でピアカウンセリングを 実施するなど、新たな活動を行った。そして、本学在学中にピアカンセラーとして活動し た卒業生が研修を受講しピアサポーターとして在学中の後輩ピアカンセラーやピアカンセ ラー養成セミナーをサポートしたり、さらに「ピアカンセラー養成者」養成セミナーを受 講し、研修を重ね、後輩ピアカンセラーを養成する道に進むものがあらわれるなど、この 活動は、次代へと継承されている。

このように、全国においても秋田県のピアカウンセリング活動は評価されていることから、今後も地域の思春期の若者たちの健康のため、継続して活動を行っていく。

### 4. 大館市消防団 機能別消防団

担当教員:水木暢子

### 1)機能別消防団について

消防団員の全国的な減少傾向が続く中、新たな団員の獲得に向けた施策として 2005 年 総務省消防庁は「消防団員の活動環境の整備について」という通知を出した。これを受け、消防団を支える力として、特定の活動にのみ参加する機能別消防団員制度が設置され、様々な地域で制度が活用されるようになった。大館市では保健・医療・福祉を学ぶ本学学生の力を活用し、大規模災害時に市民の避難誘導や応急手当を行うなど、消防職員や消防団員の後方支援活動をする目的で、平成 25 年度に「大学生による機能別消防団員」の制度が制定された。

平成 27 年には、消防庁作成の団員募集ポスターに本学の機能別消防団員である女子学生 2 名が起用された。アポロキャップを被り、胸に「大館市消防団」と刺繍された活動服を着用した凛々しい立ち姿のポスターは全国の関係機関に掲示されると共に、総務省のホームページなどにも取り上げられた。

現在総勢 40 名の学生が大館市から委嘱され、機能別消防団員として住民の安全確保や 地域の総合的な防災力を強化するための活動を行っている。今後も学生の卒業により脱退 する団員の抜けた部分を、主に新入生を対象に新入団員を募集し活動を継続していく予定 である。

### 2) 活動内容

- ◆機能別消防団の主な活動
- (1) 大規模災害発生時
  - ①避難所における活動:避難所の状況報告及び避難者の誘導・体調確認・応急手当等を 行なう。本学は災害時や災害の恐れがある時に、本学体育館と駐 車場を大館市指定緊急避難場所として提供している。
  - ②後方支援活動:消防署員や消防団員とともに、その後方支援を行なう。

### (2) 訓練及び研修など

- ①防災訓練や応急手当等の講習会に参加:大館市総合防災訓練や応急手当・救命講習などの研修に参加する。
- ②消防行事への参加:消防出初式に参加し、機能別消防団の存在と役割をアピールする。

平成 27 年度の主な活動としては、大館市総合防災訓練や大館市消防本部で実施している普通救命講習、上級救命講習、消防出初式等に参加した。

#### ◆平成27年度大館市総合防災訓練

平成27年8月23日大館市比内公民館周辺で大館市総合防災訓練が実施され、本学の機能別消防団18人が参加した。今回は大地震に伴う複合災害を想定し、市、消防、警察、陸上自衛隊などの関係機関と住民合わせて270人が参加し、10種類の訓練が実施された。本学学生で組織する機能別消防団は、避難所開設・運営訓練と倒壊建物救出訓練、応急救護所設置・運営訓練などに加わった。そこでは避難者の誘導や安全確保、応急救護所で傷病者のトリアージや応急処置の補助など消防職員や消防団員、DMATの方々の指導のもとで後方支援活動を行った。好天の夏空の下、汗を拭きながら多くの市民の方が声を掛けてくださり、交流しながら大掛かりな防災訓練に参加し大規模災害に備えた。

### [改善・向上方策 (将来計画)]

平成 27 年度は 4 年生の団員 8 名が卒業に伴い退団するが、平成 28 年度新入生にその意志を引き継ぎ、新団員の募集を行って、総勢 30~40 名規模の人数を維持することを目標としたい。学生は学業および学校行事が優先であるため、全ての活動に全員が参加するということは難しいが、大館市消防本部で実施している上級救命講習および普通救命講習には定期的に参加し、万が一の災害に備えたい。また大館市機能別消防団として活動できる場をさらに開拓し、市民の方々と交流する機会を増やすと共に、地域の方々にその存在をさらに知っていただくように努める。

### 5. ひらめきときめきサイエンス

担当教員:佐藤純子

平成 27 年度 ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI~

担当教員:佐藤純子、水木暢子、畠山禮子、黒澤繭子、今野修、小畑千春、高山新吾事務担当:岩谷菜緒、松本典浩

## ひらめき☆ときめきサイエンスとは

ひらめき☆ときめきサイエンスとは、大学など研究機関で科研費を生かしてとり組まれている研究成果を、小学 5・6 年生、中学生、高校生に体験してもらうものである。平成 27 年度は 153 の大学や研究機関で 297 のプログラムが実施されている。

#### 目的と概要

本プログラムは糖尿病について知ってもらうこと、普段の生活習慣の改善点を見出してもらうこと、小中学生、高校生に大学に来てもらい、科学に興味を持ってもらうことを目的に8月9日には高校生用プログラムを、11月14日に小学生用プログラムを実施した。プログラムの内容は、ライフコーダーを装着し軽い運動を実施、その後、「糖尿病ってどんな病気?」という内容で30分講義を受け、ライフコーダーで計測した対象者の身体活動量を可視化し、身体活動量に見合った砂糖の量を計測してもらうという内容である。また、普段飲用している清涼飲料水に含まれている砂糖の量を計測し、ペットボトルの砂糖の量を入れてみるという講義と実験をあわせたプログラムである。

プログラム終了後のアンケートの結果を一部抜粋した。「プログラムは面白かったか」では、参加者全員がとても面白かったと回答していた。自由記載では「普段飲む炭酸飲料水にどれだけ糖分が含まれているのか目にしておどろきました。これからの生活を今まで以上に気をつけて健康にくらしたいです。」「大学生とゲームをしたりして楽しかった。」など参加者がプログラムに興味を持ち、楽しく参加してもらうことができたことが窺える内容が記載されていた。糖尿病という病気が生活習慣と密接であること、その身近なものが研究になっていくことが講義や実験を通して、理解を深め、興味を持ってもらったと考える。

### [改善・向上方策 (将来計画)]

科研費による研究成果を地域の小学生、高校生に伝えながら、身近なテーマを基に科学への興味関心を持つきっかけとなった。大学生のサポーターと共にゲームなどを通して楽しく受講してもらうことができた。「ひらめき☆ときめきサイエンス」の事業を通して、大学の研究室を身近に感じられる生徒が増えるよう、対象者を中学生などにも拡げたうえで、今後も継続していきたい。